

厚生労働行政推進調査事業費補助金
厚生労働科学特別研究事業

「新型コロナウイルス感染症関連対策における
地域連携薬局等の活用のための研究」

令和3年度～4年度 総合研究報告書

研究代表者 長谷川 洋一

令和4(2022)年 6月

目 次

I. 総合研究報告

新型コロナウイルス感染症関連対策における

地域連携薬局等の活用のための研究 1

長谷川 洋一

II. 資料

(資料1) 認定薬局及びその他の薬局抽出数一覧 5

(資料2) 実態調査依頼状ひな型 6

(資料3) 実態調査のアンケート調査項目 8

(資料4) ヒアリング調査項目 16

(資料5) アンケート調査結果まとめ 24

(資料6) アンケート調査結果報告書 25

(資料7) アンケート調査結果別添 132

(資料8) ヒアリング調査概要 156

新型コロナウイルス感染症関連対策における地域連携薬局等の活用のための研究

研究代表者 長谷川 洋一 名城大学薬学部・実践薬学 I

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の実用化に備え、自宅療養者等に滞りなく薬を提供できるよう、地域で対応できる薬局のリスト化が行われる中で、特に地域連携薬局については、中心的な役割を果たすことが期待されている。また、医療用抗原定性検査キットの薬局での販売が可能になる中においても、小規模な薬局が取扱いやすくなるよう、地域連携薬局等が近隣の薬局に分割して販売（授与）することが求められており、コロナ禍においても地域での役割が期待されている。

こうした背景を踏まえ、実際に認定薬局がどのような役割・機能を果たしているかを把握し、経口治療薬の実用化やワクチン・検査パッケージ等のコロナ関連対策での活用方法を検討することが喫緊の課題となっていることから、本研究は、認定薬局の役割、機能、医療機関等との連携状況、その他の薬局との機能的な違い等について実態調査を行い、コロナ関連対策での活用等に向けた提言を行うとともに、認定制度の運用を円滑に進めるための検討課題の抽出及び対応策について検討することにある。

令和4年2月1日時点における地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局から、各都道府県の認定数に合わせて1,500件を抽出し、その他の薬局を同数になるように抽出し、全3,000件を対象とした。調査は、Web回答方式とし、NTTデータ経営研究所に集計・分析を委託した。また、平行して、地方自治体や関係団体等の意見を聴きながら、6軒のヒアリングを実施した。

そこから、認定薬局（地域連携薬局、専門医療機関連携薬局）と認定薬局でない薬局では、認定薬局の方が機能も連携内容も規模に関わらず、特に在宅業務や24時間対応といった地域の患者に対する対応が充実していることが確認できた。また、薬局の機能に関し、新型コロナウイルス感染症や災害等への対応や体制の確保も多く、総じて認定薬局での体制や取組内容が充実していることが確認できた。

以上の結果から、認定薬局は地域住民の健康維持・管理に必要な役割を果たすとともに、地域での医療提供体制の確保、地域包括ケアシステムの構築のために、一役を担うことが期待できると考えられた。そして、認定薬局の役割や機能の更なる活用、連携の強化のためには、情報共有できるシステム構築に対するサポートも必要と考えられた。

研究協力者

名城大学薬学部実践薬学Ⅱ准教授	牛田 誠 氏
日本薬剤師会常務理事	豊見 敦 氏
日本保険薬局協会常務理事	柄澤 忍 氏

A. 研究目的

令和元年12月に公布された医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法律（令和元年法律第63号）に基づき、令和3年8月から、地域連携薬局と専門医療機関連携薬局の二つの機能別の薬局認定制度が

開始された。地域連携薬局は様々な療養の場に移行する患者に対して継続して質の高い薬物療法を提供する機能を、また専門医療機関連携薬局はがん等の専門的な薬学管理が必要な患者に対してより丁寧な薬学管理を行い特殊な調剤にも対応する機能をそれぞれ有し、医療機関・薬局・介護関係施設などが一体となって情報連携を行うことが求められている。

特に地域連携薬局については、新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の実用化に備え、自宅療養者等に滞りなく薬を提供できるよう、地域で対応できる薬局のリスト化が行われる中で、中心的な役割を果たすことが期待されている。また、医療用抗原定性検査キットの薬局での販売が可能になる中においても、小規模な薬局が取扱いやすくなるよう、地域連携薬局等が近隣の薬局に分割して販売（授与）することが求められており、コロナ禍においても地域での役割が期待されている。

こうした背景を踏まえ、実際に認定薬局がどのような役割・機能を果たしているかを把握し、経口治療薬の実用化やワクチン・検査パッケージ等のコロナ関連対策での活用方法を検討することが喫緊の課題となっていることから、本研究は、認定薬局の役割、機能、医療機関等との連携状況、その他の薬局との機能的な違い等について実態調査を行い、コロナ関連対策での活用等に向けた提言を行うとともに、認定制度の運用を円滑に進めるための検討課題の抽出及び対応策について検討することを目的としている。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う人流抑制の影響により、令和3年度には、実態調査項目の作成、調査依頼、ヒアリング受入調整を、令和4年度は、実態調査結果集計、ヒアリング実施、検討課題の抽出・対応策等の検討を実施する。

B. 研究方法

1. 実態調査項目及び客体数

調査する項目・内容は、研究協力者の協力を得て作成し、Web 調査フォーム構築及び集計を株式会

社 NTT データ経営研究所に委託した。

また、調査客体数は、認定薬局は可能な限り悉皆とし、その他の薬局と合わせて、全国 3,000 件（資料 1）とした。具体的には、認定薬局は、各都道府県ホームページに公表されている令和 4 年 2 月 1 日時点の情報を収集し、各都道府県の認定状況に合わせて全国 1,500 件になるように無作為に抽出した。その他の薬局については、各地方厚生局ホームページに公表されている令和 4 年 2 月 1 日時点の保険薬局登録情報から各都道府県の抽出した認定薬局を除いた薬局から、各都道府県で抽出した認定薬局と同数になるように無作為に抽出した。

調査対象施設には、依頼状（資料 2）を令和 4 年 3 月 25 日（金）に郵送し、Web 回答の期限を 4 月 30 日（土）までとした。ただし、GW を考慮し、5 月 8 日（日）を最終回答期限とした。

調査項目は、資料 3 に示した。項目数は全 40 問で、調査の精度を上げるため、回答項目は全て必須とし、任意の ID・PWD によるログイン方式とした。

2. ヒアリング調査項目及び対象施設数

実態調査の項目・内容を踏まえてヒアリング項目を作成し、具体的な取組、課題等を聴取することとした。

ヒアリング調査項目は、資料 4 に示した。ヒアリング実施までに予め項目に回答してもらい、その回答内容を踏まえて実施することとした。実際のヒアリングは、令和 4 年 4 月以降、5 月中に終わること、対象施設と調整を行うこととした。対象施設については、研究協力者、行政からの推薦も踏まえ、在宅クリニック 1 軒、地域連携薬局 3 軒、専門医療機関連携薬局 2 軒のヒアリングを行った。また、ヒアリングは、Zoom ミーティングによりオンラインでの実施とした。

（倫理面への配慮）

本研究は、薬局の業務量に基づく調査に該当するため、倫理審査の対象には該当しないものと判断し

た。また、調査にあたっては、回答をもって同意したものとし、回答施設名と連結できない状態で集計することとした。なお、ヒアリング調査においても個人特定につながる情報が入らないよう注意し、十分な個人情報への配慮の対応を行う。

C. 研究結果

1. 実態調査

調査回答薬局数は、認定薬局が 1,500 軒のうち 333 軒 (22.2%)、その他の薬局が 1,500 軒のうち 210 軒 (14.0%) であった。調査対象薬局全体としては、543 軒 (18.1%) であった。調査結果の概要は資料 5 にまとめた。

調査集計結果(詳細)は、資料 6 のとおりである。今回、認定薬局(地域連携薬局、専門医療機関連携薬局)は、認定薬局でない薬局に比べ、薬局の機能、地域との連携が薬局の規模にかかわらず充実していることが確認できた。また、薬局の機能に関し、総じて認定薬局での体制や取組内容が充実していることが確認できた。特に在宅業務や薬局以外の機関との連携、新型コロナウイルス感染症・災害への対応状況については、充実した結果となっていた。中でも、24 時間対応では、認定薬局が 80%以上において自薬局での対応が可能な状況(資料 6 図表 34)で、充実していた。また、認定薬局では、薬局の規模に関わらず、麻薬の調剤も多く(資料 6 図表 16、101、資料 7 別添図表)、終末期医療への関わりは明らかに多い状況であった(資料 6 図表 58、59)。

患者の残薬や副作用歴などに関する連携については、認定の有無に関わらず実施できていることが確認できた。地域ケア会議への参加、サービス担当者会議への参加など、地域包括ケアシステムの構築に資する会議への出席は認定薬局の割合が高かった(資料 6 図表 41、95)

新型コロナウイルス感染症対応(以下、コロナ対応)では、ワクチン接種への協力や感染対策等の相談応需について、認定の有無に関わらず実施できている(資料 6 図表 100)。抗原定性検査キットの販

売等においては、認定薬局での対応割合が高かった。特に、経口抗ウイルス薬の対応薬局(資料 6 図表 100)となっていることが確認できた。

その他、災害時の対応についても災害に備えた業務継続計画(BCP)の作成、研修の受講、自治体との取り決めなど、認定薬局の方が体制を確保している薬局が多く、災害時にも薬局としての機能を維持するための体制を整えている傾向が確認できた。

2. ヒアリング調査

ヒアリングの結果については、資料 8 に示した。認定薬局では、どの施設においても、従来からの薬局業務の延長線上での取組で、認定の有無に関わらず、薬局、薬剤師の責務として取り組んでいた。それが故に、現状の連携のあり方や体制確保に対する考えもあり聞くことができた。

特に連携については、どの施設においても、必要だが、難しいのも連携であるとの意見が聴かれた。連携手段や方法などのハードとソフトの両方の側面からの効果的、効率的な整備が必要であるとの意見もあった。また、認定を取得したことで、業務上の負担も生じるが、医療機関との連携が取りやすくなった、薬剤師の意識が高くなったなどのメリットも生まれた。

また、コロナ対応に関しては、医療機関との連携に比べ、新たに検査や感染状況の把握、健康観察等の保健衛生的な業務の実施に必要な情報が得にくいといった行政との連携が十分ではないと感じている意見もあった。また、検査の実施体制は整っていても、検査の結果でどのように指導するかの指針等は、情報の共有が十分ではなかったなど、薬局での検査を地域医療体制に組み込み連携する必要性が聞かれた。

一方、在宅クリニックからは、医師、看護師、作業療法士、管理栄養士、セラピスト等の多職種の意見を聴くことができた。ここでは連携の必要性の他に、情報の共有が鍵となることが意見として上がった。また、連携のイメージとしては、薬剤師からの情報発信が必要であること、医薬品をはじめ衛生材

料等の供給について期待されていることが確認できた。

以上のヒアリングを通じ、認定薬局制度についての認知度が低いことも確認できたので、今後、さらに広報や啓発等を行っていく必要があると考えられる。

D. 考察

薬局の機能を十分に発揮するためには、まず関係者との「連携」が図られていることが必要であることが考えられる。このことは、認定薬局へのヒアリング調査で共通して聴かれたキーワードでもある。特に医療機関や行政との連携は、コロナ対応に関する薬局の役割を果たすうえにおいても重要事項であると考えられ、さらなる機能の強化、連携の強化のためには、今般のコロナ対応を教訓に、連携意識をもって情報を共有していく方法やシステムが求められる。

さらに、連携の充実を図るためには、日頃のコミュニケーションが基本となることはいうまでもなく、どのような連携体制を構築するか、またどのように連携を図るかなど、その仕組みを組み立てるためには、地域単位の会議等への参加により顔が見える関係を築くことが前提になると考えられる。

そして、連携の強化のためには、近年のデジタル技術の進歩に伴い、書面のやりとりだけでなく、情報セキュリティを確保したオンラインネットワークを活用するなどの技術的なサポートも必要と考える。

また、コロナ対応においては、認定薬局での対応や体制確保が多かったが、職能団体と行政が指針等を決定し、薬局と医療機関等で実施するための体制を確保することが求められる。特に日々更新される情報の共有については、オンラインを含む情報発信のシステムを活用することで、研修会などの開催など関連情報を含めた知識を得る機会を提供することも必要である。

今後、認定薬局をより活用するためには、認定薬局制度についての認知度を高める必要がある。まず

は社会への広報の他、医療関係者の認知度を高めること、地域単位で周知していくことが必要と考えられるが、その際、共通した地域の課題を共有することも重要である。

E. 結論

認定薬局は、その規模にかかわらず、認定薬局でない薬局に比べ、特に在宅業務や24時間対応といった地域の患者に対する対応が充実している。また、新型コロナウイルス感染症や災害等への対応や体制の確保も多く、地域住民の健康維持・管理に必要な役割を果たすことが期待できる。

このことから、認定薬局は地域の医療計画における医療提供体制の確保、地域包括ケアシステムの構築のための一役を担うことが期待できる。そして、認定薬局の役割や機能の更なる活用、連携の強化のためには、情報共有できるシステム構築に対するサポートも必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

都道府県別認定薬局及びその他の薬局の抽出数

資料1

(2022年2月1日時点)

No	県	地域連携薬局 (A)		専門医療 (B)	A+B	その他薬局
		認定数	地域連携指定数	認定数		
	合計	1874	1421	79	1500	0
1	北海道	38	34	7	41	41
2	青森県	9	8	1	9	9
3	岩手県	12	12	1	13	13
4	宮城県	31	27	4	31	31
5	秋田県	4	4	0	4	4
6	山形県	12	11	2	13	13
7	福島県	28	25	0	25	25
8	茨城県	60	54	2	56	56
9	栃木県	28	27	1	28	28
10	群馬県	16	15	4	19	19
11	埼玉県	107	90	4	94	94
12	千葉県	72	65	4	69	69
13	東京都	427	280	6	286	286
14	神奈川県	144	120	8	128	128
15	新潟県		0	0	0	0
16	富山県	13	13	0	13	13
17	石川県	20	20		20	20
18	福井県	6	6		6	6
19	山梨県	7	7	0	7	7
20	長野県	10	8	7	15	15
21	岐阜県	13	13		13	13
22	静岡県	50	45	0	45	45
23	愛知県	51	47	7	54	54
24	三重県	33	32	3	35	35
25	滋賀県	25	25	2	27	27
26	京都府	14	14	0	14	14
27	大阪府	284	100	2	102	102
28	兵庫県	74	60	4	64	64
29	奈良県	17	17	0	17	17
30	和歌山県	6	6		6	6
31	鳥取県	4	4	0	4	4
32	島根県	8	8	1	9	9
33	岡山県	30	30	1	31	31
34	広島県	50	45		45	45
35	山口県	10	10	1	11	11
36	徳島県	7	7	0	7	7
37	香川県	8	8		8	8
38	愛媛県	19	19		19	19
39	高知県	5	5		5	5
40	福岡県	68	50	3	53	53
41	佐賀県	6	4	2	6	6
42	長崎県	5	5	0	5	5
43	熊本県	10	9	1	10	10
44	大分県	11	10	1	11	11
45	宮崎県	7	7	0	7	7
46	鹿児島県	13	13	0	13	13
47	沖縄県	2	2	0	2	2
			0			

ID		パスワード	
----	--	-------	--

令和4年3月

●●薬局 管理者様

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（特別研究事業）
新型コロナウイルス感染症関連対策における地域連携薬局等の活用のための研究
研究代表者 長谷川 洋一

アンケート調査へのご協力をお願い

令和元年12月に公布された医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法律（令和元年法律第63号）に基づき、令和3年8月から、地域連携薬局と専門医療機関連携薬局の二つの機能別の薬局認定制度が開始されています。特に地域連携薬局については、新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の実用化により、自宅療養者等に滞りなく薬を提供できるよう、地域で対応できる薬局のリスト化が行われるなど、中心的な役割を果たすことが期待されています。このようにコロナ禍においても地域での役割が期待されており、実際に認定薬局がどのような役割・機能を果たされているかを把握し、コロナ関連対策での活用方法を検討することが喫緊の課題となっています。

そこで、本研究班では、可能なかぎり令和4年1月31日現在の全国の認定薬局約1,500薬局と、各地域でほぼ同数になるように無作為に抽出したその他の薬局約1,500薬局を対象に、アンケート調査を行うこととなりました。

つきましては、ご多用の折、大変恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

また、調査結果は取りまとめの上、公表する可能性がございますが、取りまとめ及び公表に際して、個別の企業名が特定できる記載を行う事は一切ございませんので申し添えます。

なお、調査についてご不明な点等がございましたら、裏面のお問い合わせ先までご連絡ください。

◇本調査は、WEBにてアンケート調査の回答を受け付けております。**令和4年4月30日（土）**までに、下記URLもしくはQRコードよりアンケート調査画面に入って頂き、本文書の上部に記載のID（半角4桁数字）、パスワード（半角4桁英小文字）を入力してログインを頂いた上、ご回答を頂きますようお願い申し上げます。

URL <https://en.surece.co.jp/renkei2021/>

QR



◇利用目的

ご回答頂きました内容は、施策検討や関連分野研究の基礎資料としてのみ利用致します。また個々のご回答内容は調査実施者以外に知られることはございません。

◇発送先情報（薬局名・所在地）の収集方法

認定薬局は各都道府県が公表する情報に基づきほぼ悉皆としていますが、その他の薬局は各地方厚生局が公表する情報に基づき無作為抽出しています。

◇回答方法等について

このアンケートは、特に指定のない限り、**令和4年3月1日現在**の状況をお答えください。

◇調査趣旨・調査票の内容に関するお問合せ先

研究代表者 名城大学薬学部教授 長谷川洋一

E-mail: renkei2021@ccml.meijo-u.ac.jp

◇調査画面に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター「地域連携薬局等の活用のための研究」調査事務局 担当：菊川

TEL：0120-732-792（受付時間 10:00～17:00、土日・祝日を除く）

以上

特に断りのない限り、2022年3月1日現在の状況についてお答えください。

1. 基本情報

1) 認定・届出の有無について、あてはまるものを全て選択してください。(複数回答)

- 1. 地域連携薬局 2. 専門医療機関連携薬局 3. 健康サポート薬局
- 4. 無

2) 1) で「2. 専門医療機関連携薬局」を選択した場合、貴薬局の所在について、連携先の医療機関（がん治療に係る医療機関）(※) との関係で最もよくあてはまるものを1つ選択してください。

※複数ある場合は最も近い連携先との関係についてお答えください。

- 1. 連携先医療機関の敷地内 2. 連携先医療機関の周辺
- 3. 連携先医療機関と同じ市区町村（1及び2を除く）
- 4. 連携先医療機関と同じ都道府県（1～3を除く）
- 5. その他（ ）

3) 同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）等による薬局店舗数（貴薬局を含む）をご記入ください。(数字を整数で記入)

() 店舗

4) 薬局の面積について、許可申請時の資料等を参考に記載してください。なお、複数階等に分かれている場合は合計の値を記載してください。

薬局全体 () 平方メートル うち調剤室 () 平方メートル

5) 店舗形態について、あてはまるものを1つ選択してください。

- 1. 薬局のみ 2. 薬局とドラッグストア等店舗販売業の併設
- 3. その他（ ）

6) 貴薬局の立地について、最もよくあてはまるものを1つ選択してください。

- 1. 診療所周辺 2. 診療所の敷地内 3. 病院周辺 4. 病院の敷地内
- 5. 同一ビル内に複数の保険医療機関がある（医療モール）
- 6. 同一ビル内に単一の保険医療機関がある 7. 近隣に医療機関はない
- 8. その他（具体的に： ）

7) 2021年12月～2022年2月の3か月間における以下の状況についてご記入ください。

来局者数（実人数）	人（3か月合計）
うち、調剤以外の目的（※）の来局者数（実人数）	人（3か月合計）
処方箋枚数（整数）	枚／月平均
うち、在宅患者（施設含む）に係る処方箋枚数（整数）	枚／月平均

※要指導・一般用医薬品の販売、お薬相談、通いの場等

8) 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合についてご記入ください。(調剤基本料の根拠となる数字) (2021年)

() % (小数点以下第一位まで)

9) 医薬品の備蓄品目数についてご記入ください。(数字を整数で記入) (※異なる規格は別品目とする)

保険調剤に係る医薬品 () 品目

要指導・一般用医薬品 () 品目

10) 過去6か月間(2021年9月から2022年2月)における麻薬の調剤の実績について、どちらか1つ選択してください。

1. 調剤した 2. 調剤していない

2. 体制

・貴薬局(当該店舗)に勤務する薬剤師の人数についてお答えください。(該当者がいない場合は「0」と記入)

	常勤(実人数) ※	非常勤	
		実人数	常勤換算※※
11) 当該店舗に勤務する薬剤師数 (休職中の者も含む)	人	人	人
12) 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数	人	人	人
13) 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数	人	人	人
14) 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数	人	人	人
15) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	人	人	
16) 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数	人	人	

※常勤薬剤師数は、貴薬局で定めた就業規則に基づく勤務時間の全てを勤務する薬剤師の実人数(薬局で定める勤務時間が週32時間未満の場合は週32時間以上勤務している薬剤師の実人数)を計上します。

※※非常勤薬剤師は、勤務時間が貴薬局で定める勤務時間に満たない薬剤師(薬局で定める勤務時間が週32時間未満の場合は週32時間に満たない薬剤師)をいい、常勤換算数は、以下により算出(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。

非常勤薬剤師数(常勤換算) =

当該薬局で定める1週間あたりの勤務時間(※週32時間未満の場合は週32時間)に満たない薬剤師の勤務時間の合計(時間) / 当該薬局で定める1週間あたりの勤務時間(※週32時間未満の場合は32(時間))

17) 24時間対応について、あてはまるものを1つ選び、具体的な数値を記入してください。

チェック		夜間等時間外の対応について	2021年12月～2022年2月の3か月間の対応件数
<input type="checkbox"/>	自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている	担当している薬剤師人	件
<input type="checkbox"/>	近隣の保険薬局と連携して24時間対応が可能な体制を整えている	連携している薬局軒	件※1
<input type="checkbox"/>	24時間対応が可能な体制を整えていない		
<input type="checkbox"/>	その他（ ）		

※1 近隣の保険薬局（認定薬局含む）と連携して対応した件数すべて

18) 無菌製剤処理の必要な調製対応について、あてはまるものを1つ選択してください。

1. 自局で対応 2. 共同利用による対応 3. 対応しておらず、他の薬局を紹介 4. 対応しておらず、他の薬局を紹介していない 5. その他（ ）

19) 調剤報酬の施設基準等の以下の届出のうち、あてはまるものを全て選択してください。

1. 地域支援体制加算
2. 後発医薬品調剤体制加算1
3. 後発医薬品調剤体制加算2
4. 後発医薬品調剤体制加算3
5. 無菌製剤処理加算
6. かかりつけ薬剤師指導料又はかかりつけ薬剤師包括管理料
7. 薬剤服用歴管理指導料4（情報通信機器を用いた服薬指導）又は在宅患者オンライン服薬指導料
8. 在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出
9. 上記のいずれの届出も行っていない

20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもので、あてはまるもの全てに出席頻度（オンラインでの開催を含む）を選択肢から選択して回答してください。（概ねで構いません）

チェック	会議の種類	頻度
<input type="checkbox"/>	地域ケア会議	
<input type="checkbox"/>	サービス担当者会議	
<input type="checkbox"/>	退院時カンファレンス	
<input type="checkbox"/>	その他（ ）	
<input type="checkbox"/>	地域包括ケアシステムの構築に資する会議に出席していない	

1. 2週間に1回 2. 1か月に1回 3. 3か月に1回
4. 6か月に1回 5. その他（ ）

26) 薬局間の連携として実施しているものについて、当てはまるものを全て選択してください。ただし、同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）の薬局間で実施しているものは除きます。

1. 夜間、休日の電話等の問い合わせの輪番への参加
2. 夜間、休日の処方箋受付の輪番への参加
3. 無菌調剤室の共同利用
4. 在宅協力薬局（旧サポート薬局）として在宅患者の共同管理
5. その他（ ）
6. 実施しているものはない

○在宅関係

27) 2021年9月～2022年2月の6か月間において、人生の最終段階（終末期）の利用者・患者への訪問薬剤管理指導の有無及び利用者・患者や家族等と話し合いを行う場に参加したことがある薬剤師がいるかについて、当てはまるものを選択してください。

	回答欄
訪問薬剤管理指導の有無	
話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無	

1. 有 2. 無

28) 2021年9月～2022年2月の6か月間において、患者・利用者及び訪問診療に関わる医療機関等に対する医療機器（*1）や衛生材料（*2）の提供実績について、当てはまるものを選択してください。

	回答欄
患者・利用者への提供の有無	
訪問診療に関わる医療機関等への提供の有無	

1. 有 2. 無

*1：胃ろう・経管栄養チューブ、注射器・注射針、血圧計、気管カニューレ、シリンジポンプ、吸引カテーテルなど

*2：ガーゼ、脱脂綿、綿棒、絆創膏、包帯、使い捨て手袋など

29) 訪問薬剤管理指導を行っている旨について、近隣医療機関、介護関係事業所等にどのように周知を行っているか。（当てはまるもの全てに○）

1. 自治体のホームページに掲載
2. 自局（自社）のホームページに掲載
3. 個別に関連医療機関、関連事業所に連絡（訪問含む）して周知
4. 多職種が参加する会議において周知
5. その他（ ）
6. 周知を行っていない

32) 行政の福祉系部局（介護部局、障害福祉部局等）との連携の頻度（市町村事業への参加含む）についてあてはまるものを1つ選択してください。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. ない

33) 都道府県や市区町村が実施する事業の受託、事業への参加についてあてはまるもの全て選択・回答してください。

1. 事業（又は事業の一部）を受託している（事業名： ）
 2. 事業（又は事業の一部）に参加（受託以外）している（事業名： ）
 3. どちらも無し

4. フォローアップ等

34) 調剤後のフォローアップ実施患者数、患者1人あたりのフォローアップ実施回数及びフォローアップで得られた情報を処方医等にフィードバックした回数について、2021年12月～2022年2月の3か月間の1か月あたりの平均をご記入ください。（数字を整数で記入）

実施患者数	患者あたりのフォローアップ実施回数	フィードバック回数
人/月	回/月	回/月

→ 35) 月に1回以上、フォローアップを行っている場合、日程調整も含め1回のフォローアップに要するおおよその時間（平均）をご記入ください。（数字を整数で記入）

平均（ ）分

36) フォローアップはどのように行っているか、あてはまるものを全て選択してください。

1. 電話 2. 映像を伴う通話（オンライン含む） 3. メール
 4. アプリ 5. その他（ ）

37) 患者の受診医療機関数を把握していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1. すべての患者について把握している
 2. 概ねすべての患者について把握している
 3. 半分程度の患者について把握している
 4. ほとんどの患者について把握していない
 5. すべての患者について把握していない

5. 新型コロナウイルス感染症対応等

38) 電話や情報通信機器を用いた服薬指導について、2021年12月～2022年2月の3か月間の状況をご記入ください。(数字を整数で記入)ただし、該当がない場合は、「0」を記入してください。

	処方箋備考欄の記載		
	0410 対応 ^{*1}	CoV 自宅 ^{*2}	CoV 宿泊 ^{*3}
処方箋受付回数	回	回	回
うち電話や情報通信機器を用いた服薬指導実施回数(患家に訪問した場合も含む)	回	回	回

*1: 令和2年4月10日事務連絡「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて」に基づく対応

*2: Covid-19による感染者のうち、自宅療養中の患者

*3: Covid-19による感染者のうち、宿泊療養中の患者

39) 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているものを全て選択してください。(複数選択可)

1. ワクチン接種への協力(薬液調製、接種会場への職員派遣、相談応需等)
2. 医療用抗原定性検査キットの販売対応(販売実績がない場合も含む)
3. 医療用抗原定性検査キットについて、他の薬局からの求めに応じた他の薬局への分割提供
4. 経口抗ウイルス薬ラゲブリオ又はパキロビッドパックの対応薬局として都道府県のリストに掲載されている
5. 「検査促進枠」による無料検査事業(一時的に実施していた場合も含む)
6. 相談応需(ワクチン、消毒薬、マスクなど)
7. 上記のうち実施しているものはない

40) 災害に関して実施しているものを全て選択してください。

1. 災害に備えた業務継続計画(BCP)を作成している
2. 災害関係の研修を受講した常勤の薬剤師が勤務している
3. 自治体と災害時の対応等のとりきめを結んでいる。
4. 地域の防災訓練に参加している
5. その他()
6. 実施しているものはない

ヒアリング項目

Q. 社会のニーズを踏まえ、今後の業態の在り方、方向性についてご意見はありますか？

Q. 認定を受けた（受けていない）理由について教えてください。

Q. 施設基準を取得するにあたり問題点があれば教えてください。

【I 日常業務下での連携の具体的取組について】

Q. 以下の具体的な連携の事例（例示）又はそれ以外の連携事例はありますか？

1) 実施頻度が高い連携はどのようなものがありますか？

2) 必要だが、難しいと感じている連携はありますか？

薬局の具体的な連携について（例示）

薬局間での医薬品の分譲

患者情報（副作用、アレルギーなど）の提供

休日、夜間等で調剤が不可能な場合に、調剤可能な薬局を紹介

無菌製剤処理実施における連携（共同利用等）

麻薬の分譲

施設内の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修

施設内の薬剤師が、地域の他の薬局の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修

病院、診療所との具体的な連携について（例示）

患者入退院時の情報共有

服薬情報提供書（トレーシングレポート）等による情報提供

在宅医療が必要な患者の受入

在宅医療が必要と思われる患者を医療機関に紹介

受診が必要な患者を病院、診療所に紹介

医療機関との間で勉強会・研修会

化学療法（レジメン）の情報共有

抗がん剤治療の副作用発生時の対応に関するプロトコルの共有

行政、団体との具体的な連携について（例示）

健康に関するイベントへの参加

災害時の医薬品等の供給

保健所との連携（結核患者に対するDOTS（直接服薬確認療法）等）

地域との具体的な連携について（例示）

地域ケア会議への参加

サービス担当者会議

退院時カンファレンス

自薬局での健康イベント開催

地域での健康イベントへの参加

がん検診に関する啓発活動

地域包括支援センターとの情報共有

介護支援専門員（ケアマネージャー）との情報共有

要指導薬・一般用医薬品の販売

介護用品の販売

町内会への加入

【Ⅱ 新型コロナウイルス感染に関する連携での具体的取組について】

体制：具体的な連携方法など取決めや必要な設備等の有無

実績：体制下での実施の有無

感染者：有症状陽性者

陽性者：無症状陽性者

濃厚接触者：無症状陰性者又は無症状検査未実施者

Q. 以下の具体的な連携の事例（例示）又はそれ以外の連携事例はありますか？

1) 実施頻度が高い連携はどのようなものがありますか？

2) 必要だが、難しいと感じている連携はありますか？

他の薬局との具体的な連携について（例示）

感染者の情報共有
陽性者又は濃厚接触者の情報共有
感染者に対する調剤の協力
陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力
感染者への調剤における医薬品の分譲その他

病院、診療所との具体的な連携について（例示）

感染者の入退院時の情報共有
陽性者又は濃厚接触等の患者の紹介及び情報提供
在宅患者の感染対策等に関する情報提供
感染防止に関する協議

行政、団体との具体的な連携について（例示）

感染対策に関する会議への参加
ワクチン接種への協力（薬液調製、配達等）
地域の感染状況の把握及び情報共有（サーベイランス等）
感染者に対する保健所との連携（医薬品等の供給、健康チェック等）
検査事業（無料検査キットの配布等）への参加
新型コロナウイルス感染症に関するイベントへの参加
パンデミック時の医薬品備蓄への協力

地域との具体的な連携について（例示）

新型コロナウイルス感染症に関する啓発活動
自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導）
ワクチン接種に関する相談応需

【Ⅲ その他自薬局での新型コロナウイルス感染対策に関する取組状況について】

Q. 以下の具体的な取組の事例（例示）又はそれ以外の感染症対策事例はありますか？

新型コロナウイルス感染症に関して、薬局に求められる役割について、実務を通して感じることはありますか？

薬局での感染対策に関する設備について（例示）

窓口に飛沫防止シート等の設置

待合スペースでの密をさけるための設備空気清浄機の設置

出入口に消毒薬の設置感染者の隔離スペース

感染者又は陽性者（濃厚接触者を含む）への外来での調剤対応について（例示）

特別な対応はしていない

隔離スペースで対応する

隔離スペースはないが、薬局内で他の患者と分けて対応する

薬局の外で待機してもらい対応する

自宅等への配達対応を行う

対応可能な薬局を紹介する

オンラインで服薬指導する

自宅療養者への対応について（例示）

処方されたお薬を配達する

OTCを配達する

衛生材料を配達する

食料品を配達する

スタッフへの新型コロナウイルス感染症に関する研修の実施について（例示）

新型コロナウイルスに関する研修

PCR、抗原検査の取り扱いに関する研修

検査結果に基づく指導に関する研修

ワクチンに関する研修

感染予防対策に関する研修

新型コロナウイルス感染症の経口治療薬（モヌルピラビル（ラゲブリオ））の供給体制について（例示）

自薬局で備蓄し、必要に応じて供給している

備蓄していないため、必要時に連携している備蓄薬局から供給する

供給方法を把握していないため今後検討する

Q. 薬局で検査キット（抗原検査、PCR検査）を販売、実施する必要性についてご意見はありますか？

追加.

連携の必要性和充実度について考えを聞かせてください。

・薬局間での連携

- | | | | |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 必要性 | <input type="checkbox"/> とても重要である | <input type="checkbox"/> 重要である | <input type="checkbox"/> あまり重要でない |
| 充実度 | <input type="checkbox"/> とても充実している | <input type="checkbox"/> まあまあ充実している | <input type="checkbox"/> あまり充実していない |

・病院、診療所との連携

- | | | | |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 必要性 | <input type="checkbox"/> とても重要である | <input type="checkbox"/> 重要である | <input type="checkbox"/> あまり重要でない |
| 充実度 | <input type="checkbox"/> とても充実している | <input type="checkbox"/> まあまあ充実している | <input type="checkbox"/> あまり充実していない |

・行政、団体との連携

- | | | | |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 必要性 | <input type="checkbox"/> とても重要である | <input type="checkbox"/> 重要である | <input type="checkbox"/> あまり重要でない |
| 充実度 | <input type="checkbox"/> とても充実している | <input type="checkbox"/> まあまあ充実している | <input type="checkbox"/> あまり充実していない |

・地域との連携

- | | | | |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 必要性 | <input type="checkbox"/> とても重要である | <input type="checkbox"/> 重要である | <input type="checkbox"/> あまり重要でない |
| 充実度 | <input type="checkbox"/> とても充実している | <input type="checkbox"/> まあまあ充実している | <input type="checkbox"/> あまり充実していない |

Q. 上記項目について、意見があれば何でも。

問	項目	認定薬局 (①地域連携(316) ②専門医療機関(5) ①+②(12))		認定なし薬局 (うち健康サポート薬局あり(18))		比較	資料6 報告書 図表
		333		210			
3	店舗数(平均)	334.9	73.0(中央値)	159.5	6.0(中央値)	認定薬局の方が、店舗数が多い	4
4	薬局面積(平均) 平方メートル	112.2	82.0(中央値)	80.8	60.0(中央値)	認定薬局の方が、広い	5
4	調剤室面積(平均) 平方メートル	35.8	26.3(中央値)	25.4	19.7(中央値)	認定薬局の方が、広い	6
5	店舗形態(薬局+ドラッグ)(割合)	6.3		7.6			7
7	3か月間の来局者数(平均)	4538.3	3775.5(中央値)	3136.5	2475.0(中央値)		9
7	3か月間の調剤以外の来局者数(平均)	360.0	30.0(中央値)	333.2	12.0(中央値)	認定薬局の方が、取り扱い処方箋枚数が多く、来局者も、在宅患者の処方箋枚数も多い	10
7	月間の処方箋枚数(平均)	2549.9	1868.0(中央値)	1342.3	1030.0(中央値)		11
	在宅患者(施設含む)に係る処方箋枚数(平均)	126.5	38.0(中央値)	41.8	3.0(中央値)		12
8	主たる保健医療機関の処方箋受付回数割合(%)	65.5	70.0(中央値)	71.8	83.5(中央値)	認定薬局の方が、やや複数の医療機関の処方箋応需	13
9	保険調剤に関する備蓄医薬品目数(平均)	1560.7	1494.0(中央値)	1120.7	1200.0(中央値)	認定薬局の方が、医薬品の備蓄が多い	14
	備蓄OTC品目数(平均)	66.6	42.0(中央値)	63.4	14.0(中央値)	認定薬局の方が、OTC医薬品の取り揃えが多い(中央値から)	15
10	麻薬調剤実績あり薬局数(割合)	82.6		41.9		認定薬局の方が、実績が多い	16
11	勤務薬剤師(常勤+非常勤常勤換算)(平均)	4.9	4.0(中央値)	3.0	2.5(中央値)		20
	1年以上3年未満勤務する薬剤師数(常勤+非常勤常勤換算)(平均)	1.5		0.8			21、23
	3年以上5年未満勤務する薬剤師数(常勤+非常勤常勤換算)(平均)	0.8		0.4		認定薬局の方が、薬剤師数が多い	24、26
	5年以上勤務する薬剤師数(常勤+非常勤常勤換算)(平均)	2.0		1.1			27、29
17	自薬局での24時間対応の体制(割合)	90.7		56.2			34
	自薬局での24時間対応の薬剤師数(平均)	1.9	1.0(中央値)	1.5	1.0(中央値)		35
	自薬局での24時間対応件数(3か月平均)	40.8	3.0(中央値)	4.2	1.0(中央値)		36
	近隣の薬局との連携した24時間対応の薬局数(平均)	3.0	1.0(中央値)	3.2	1.5(中央値)		37
	近隣の薬局との連携した24時間対応件数(3か月平均)	9.8	0.0(中央値)	5.4	0.0(中央値)	認定薬局の方が、対応が多い。	38
	自局での無菌製剤処理の調剤対応(割合)	27.3		6.7			39
	共同利用による無菌製剤処理の調剤対応(割合)	41.4		12.4			39
	未対応かつ他の薬局紹介なし(割合)	1.5		37.1			39
20	地域ケア会議への出席あり薬局数(割合)	62.5		32.9			41
	サービス担当者会議への出席あり薬局数(割合)	77.5		32.4			41
	退院時カンファへの出席あり薬局数(割合)	29.7		5.7			41
	その他会議への出席あり薬局数(割合)	4.8		1.4			41
23	薬剤服用歴あり薬局数(割合)	57.4		33.8			48
	残薬などの発生状況あり薬局数(割合)	43.8		29.5			48
	副作用発生状況あり薬局数(割合)	34.5		18.6			48
	生活像疾患あり薬局数(割合)	30.9		15.7			48
	その他あり薬局数(割合)	6.9		2.4		認定薬局の方が、すべてにおいて実績が多い	48
	なし薬局数(割合)	21.0		48.6			48
27	人生最終段階の利用者・患者への訪問薬剤管理指導あり薬局数(割合)	65.2		33.8			58
	話し合いの場に参加薬剤師あり薬局数(割合)	47.1		22.9			59
28	患者・利用者への医療機器・衛生材料の供給あり薬局数(割合)	62.2		39.0			60
	訪問診療に関わる医療機関への医療機器等提供あり薬局数(割合)	32.4		15.2			61
34	調剤後のフォローアップ実施患者数(1か月平均)	24.4	10.0(中央値)	7.6	2.0(中央値)		75
	患者1人あたりのフォローアップ回数(1か月平均)	7.4	1.0(中央値)	2.0	1.0(中央値)		76
	1回のフォローアップ時間(平均)	9.2	5.0(中央値)	9.5	5.0(中央値)		78
38	新型コロナ 処方箋受付回数(3か月平均) 0410	30.3	10.0(中央値)	10.2	4.0(中央値)		81
	新型コロナ 処方箋受付回数(3か月平均) Cov自宅	16.6	5.0(中央値)	10.1	1.0(中央値)		82
	新型コロナ 処方箋受付回数(3か月平均) Cov宿泊	1.9	0.0(中央値)	0.2	0.0(中央値)		83
39	ワクチン接種への協力あり薬局数(割合)	57.7		41.9		認定薬局の方が、多い	87
	医療用抗原キット販売あり薬局数(割合)	82.3		54.8		認定薬局の方が、抗原キットの対応が多い	87
	医療用抗原キットの分割提供あり薬局数(割合)	17.4		7.6			87
	経口薬の備蓄あり薬局数(割合)	74.5		32.4		認定薬局の方が、経口抗ウイルス薬の備蓄拠点となっている	87
	無料検査事業あり薬局数(割合)	25.8		9.5		認定薬局の方が、無料検査事業の対応が多い	87
	相談応需あり薬局数(割合)	81.4		66.7		相談応需に差はない	87
	なし薬局数(割合)	1.2		10.0			87
40	BCP作成あり薬局数(割合)	52.6		21.0			88
	災害関連の研修を受けた薬剤師の配置あり薬局数(割合)	27.6		19.0			88
	自治体との取り決めあり薬局数(割合)	13.8		8.1		認定薬局の方が、対応が多く、認定のない薬局では、未対応が多い	88
	地域の防災訓練参加あり薬局数(割合)	24.6		21.9			88
	その他あり薬局数(割合)	4.8		6.7			88
	なし薬局数(割合)	21.0		47.1			88

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

新型コロナウイルス感染症関連対策における 地域連携薬局等の活用のための研究

アンケート調査結果 報告書

令和4年（2022年）6月

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 実施体制.....	1
第2章 アンケート調査.....	3
1. 調査概要.....	3
2. 調査結果（単純集計結果）.....	4
3. 調査結果（特別集計結果）.....	82
第3章 まとめ.....	91
1. 認定薬局における体制や取組内容.....	91
2. 薬局規模別の分析結果.....	92
調査票	95

別添

第1章 調査の概要

1. 調査目的

コロナ関連対策での活用等に向けた提言や、認定制度の運用を円滑に進めるための検討課題の抽出及び対応策について検討するために、アンケート調査を通じて、認定薬局の役割、機能、医療機関等との連携状況、その他の薬局との機能的な違い等について把握すること。

2. 実施体制

・調査全体（調査票含む）の設計・調査対象先の抽出

名城大学薬学部 教授 長谷川洋一
名城大学薬学部 准教授 牛田 誠
(敬称略)

・アンケート調査結果の集計分析・報告書作成

NTTデータ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット
マネージャー 西尾文孝
スタッフ 麦谷由香

第2章 アンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査対象

全国の認定薬局 1500 軒（地域連携薬局 1421 軒、専門医療機関連携薬局 79 軒）、その他の薬局 1500 軒、合計 3000 軒

(2) 調査方法

調査対象に郵送で調査実施の案内を行い、WEB 調査画面で回答する方法とした。

(3) 調査期間

令和 4 年 3 月 25 日～令和 4 年 5 月 8 日

(4) 設問数

40 問

(5) 主な調査項目

- ①基本情報
- ②薬局の体制
- ③他の薬局、医療機関等との連携
- ④フォローアップ等の状況
- ⑤新型コロナウイルス感染症対応等の状況

(6) 回収結果

回答薬局数は 543 軒であった。

図表 1 回収結果

	配布数	回収数	回収率
薬局全体	3,000 軒	543 軒	18.1%
認定薬局	1,500 軒	333 軒	22.2%
認定薬局ではない薬局	1,500 軒	210 軒	14.0%

2. 調査結果（単純集計結果）

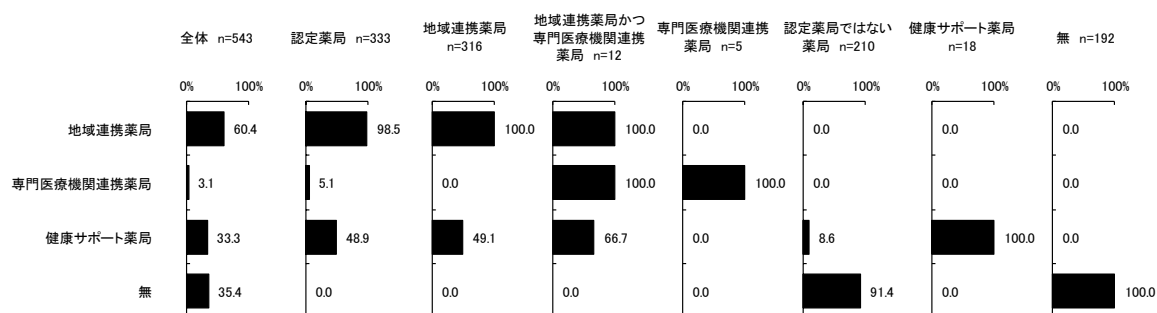
特に断りのない限り、令和4年3月1日時点の状況についての回答結果である。

(1) 基本情報

1) 認定・届出の有無

認定・届出の有無については、全体では地域連携薬局が60.4%で最も割合が高く、ついで無が35.4%であった。

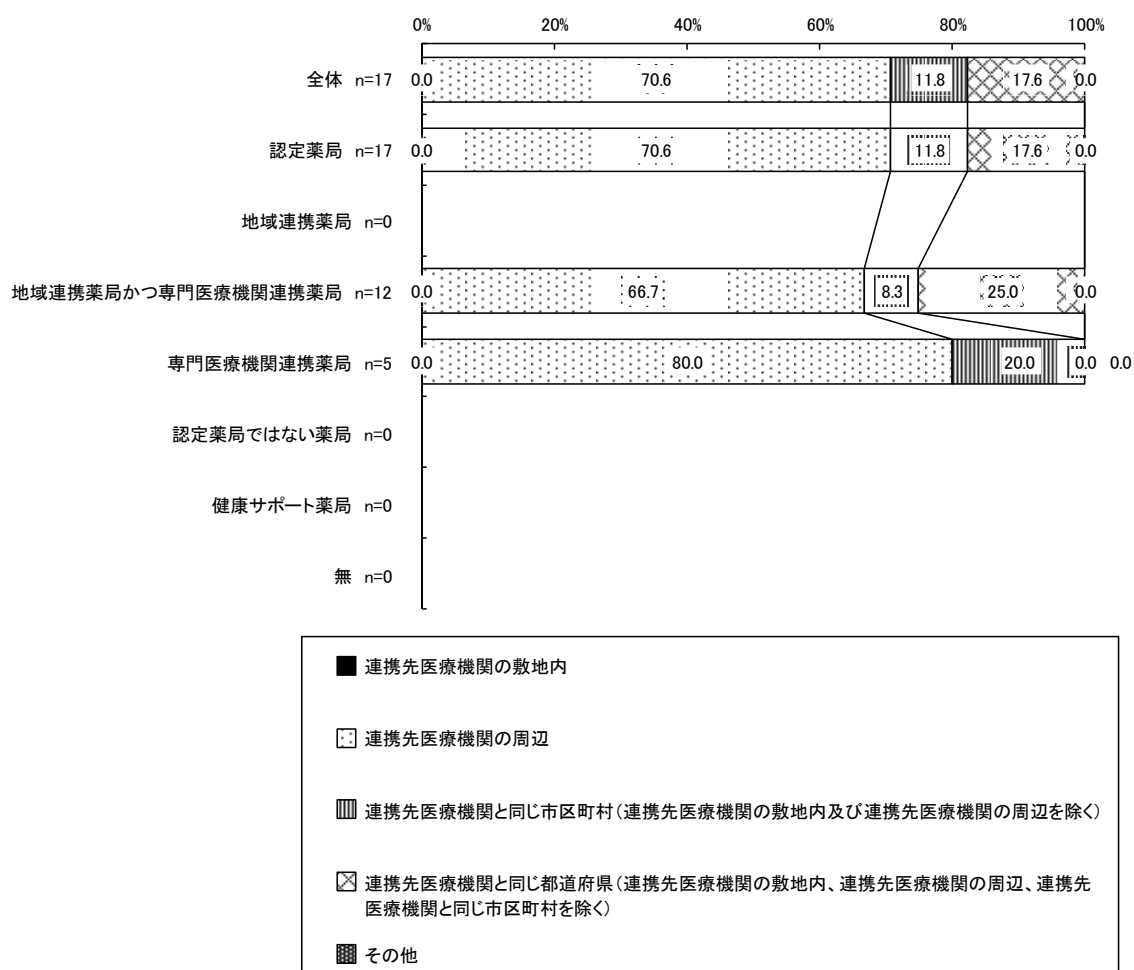
図表2 認定・届出の有無（問1）【複数回答】



2) 専門医療機関連携薬局における連携先の医療機関との関係

専門医療機関連携薬局における連携先の医療機関（がん治療に係る医療機関）との関係については、全体では「連携先医療機関の周辺」が70.6%で最も割合が高く、ついで「連携先医療機関と同じ都道府県」が17.6%であった。

図表3 専門医療機関連携薬局における連携先の医療機関との関係（問2）



3) 同一グループ等による薬局店舗数

同一グループ（財務上又は営業上もしくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）等による薬局店舗数（自薬局を含む）の平均は、全体で267.7軒であった。

図表4 同一グループ等による薬局店舗数（問3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	540 100.0	267.7	385.3	1	2026	21.0
認定薬局	333 61.7	334.9	404.5	1	2026	73.0
地域連携薬局	316 58.5	338.7	405.4	1	2026	75.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	315.0	410.2	1	1000	40.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	143.0	257.8	1	658	18.0
認定薬局ではない薬局	207 38.3	159.5	324.3	1	1700	6.0
健康サポート薬局	17 3.1	337.7	421.9	1	1134	50.0
無	190 35.2	143.5	309.1	1	1700	5.0

4) 薬局全体の面積

薬局全体の面積（複数階等にわかれている場合は合計の値）の平均は、全体で100.0平方メートルであった。

図表5 薬局全体の面積（問4-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	535 100.0	100.0	103.4	18.3	1000	71.0
認定薬局	328 61.3	112.2	101.8	20.2	800	82.0
地域連携薬局	311 58.1	106.3	97.0	20.2	800	80.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	251.2	131.0	78	464	239.4
専門医療機関連携薬局	5 0.9	146.5	58.7	60	240	148.5
認定薬局ではない薬局	207 38.7	80.8	102.8	18.3	1000	60.0
健康サポート薬局	18 3.4	144.7	222.4	33	1000	72.5
無	189 35.3	74.7	80.3	18.3	700	60.0

5) 調剤室の面積

調剤室の面積の平均は、全体で 31.8 平方メートルであった。

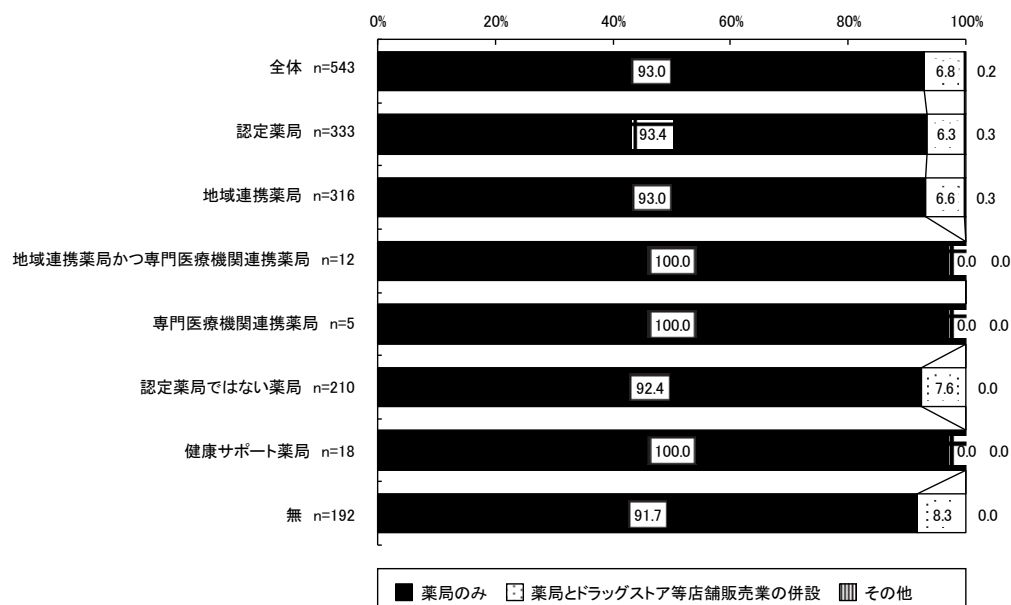
図表 6 調剤室の面積（問 4-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	530 100.0	31.8	35.1	6.6	400	21.6
認定薬局	328 61.9	35.8	35.8	8	400	26.3
地域連携薬局	311 58.7	34.2	34.9	8	400	25.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.3	71.8	44.1	27	187	63.2
専門医療機関連携薬局	5 0.9	47.7	18.9	20	72.6	53.0
認定薬局ではない薬局	202 38.1	25.4	32.8	6.6	400	19.7
健康サポート薬局	18 3.4	54.3	87.5	10	400	29.5
無	184 34.7	22.6	18.6	6.6	180	18.4

6) 店舗形態

店舗形態については、全体では「薬局のみ」が 93.0% で最も割合が高く、ついで「薬局とドラッグストア等店舗販売業の併設」が 6.8% であった。

図表 7 店舗形態（問 5）

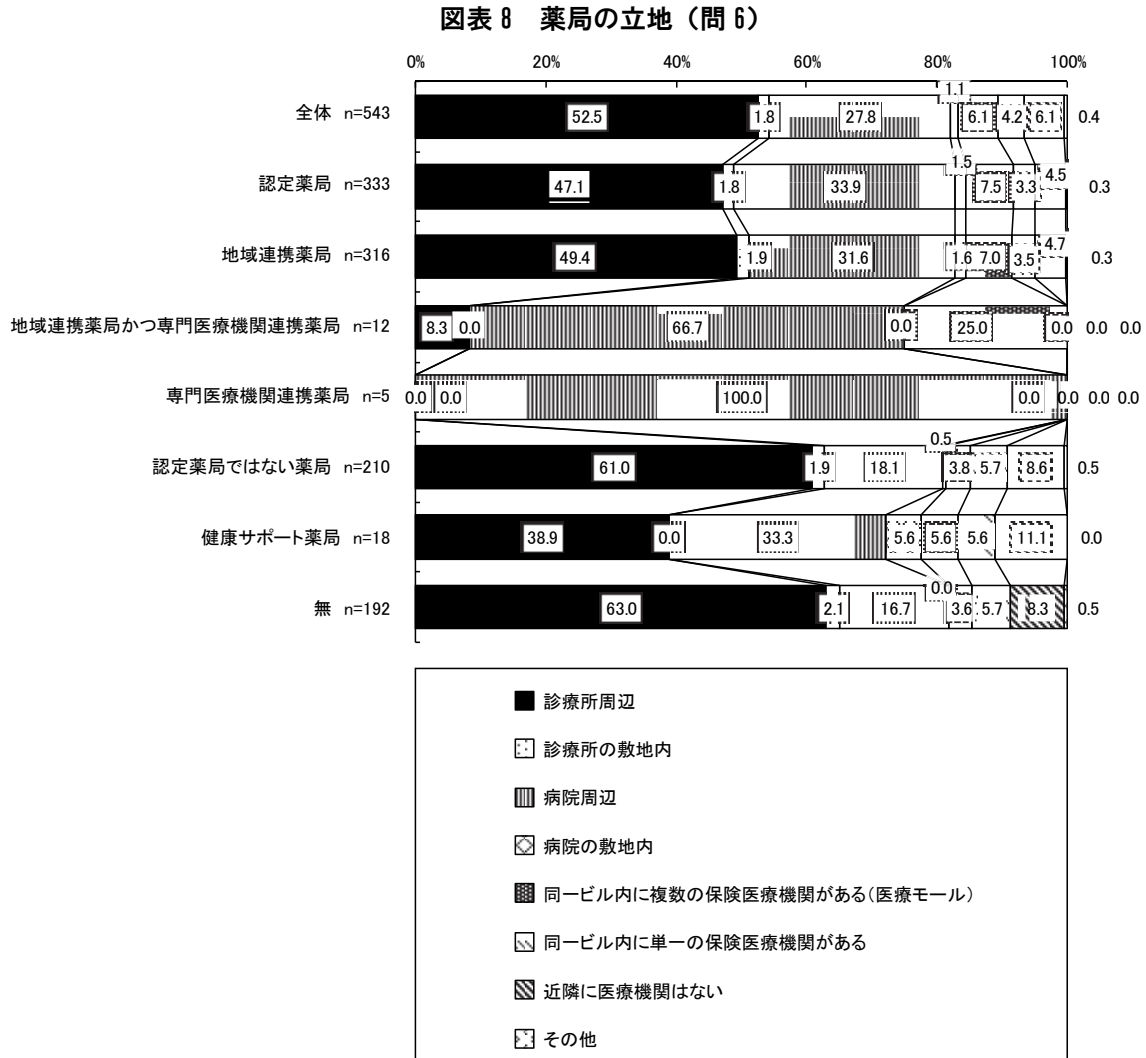


※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・鍼灸・マッサージ院の併設

7) 薬局の立地

薬局の立地については、全体では「診療所周辺」が52.5%で最も割合が高く、ついで「病院周辺」が27.8%であった。



※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・近隣に複数の医療機関がある。面分業
- ・山間部やや過疎地域。ほぼ院内投薬の医院が少し離れたところに1軒

8) 来局者数

来局者数（2021年12月～2022年2月の3か月間の実人数の合計）の平均は、全体で3995.1人であった。

図表9 来局者数（3か月間）（問7-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	542 100.0	3995.1	3088.8	0	19476	3120.5
認定薬局	332 61.3	4538.3	3153.8	15	18803	3775.5
地域連携薬局	315 58.1	4373.2	2975.3	15	18803	3600.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	8361.9	3647.5	4500	18619	7160.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	5761.6	5702.9	1800	17000	2800.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	3136.5	2773.9	0	19476	2475.0
健康サポート薬局	18 3.3	3899.9	2615.0	126	9878	3950.0
無	192 35.4	3064.9	2777.6	0	19476	2315.5

9) 調剤以外の目的の来局者数

調剤以外の目的（※）の来局者数（2021年12月～2022年2月の3か月間の実人数の合計）の平均は、全体で349.7人であった。

※要指導・一般用医薬品の販売、お薬相談、通いの場等

図表10 調剤以外の目的の来局者数（3か月間）（問7-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	349.7	1303.9	0	12000	29.0
認定薬局	333 61.3	360.0	1234.9	0	10500	30.0
地域連携薬局	316 58.2	376.5	1265.5	0	10500	30.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	36.2	39.8	0	110	10.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	99.6	150.8	13	400	20.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	333.2	1406.2	0	12000	12.0
健康サポート薬局	18 3.3	414.1	1083.0	0	3550	20.0
無	192 35.4	325.6	1432.5	0	12000	10.0

10) 処方箋枚数

処方箋枚数（2021年12月～2022年2月の3か月間の月平均）の平均は、全体で2082.9枚／月であった。

図表 11 処方箋枚数（月平均）（問 7-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	2082.9	2224.2	2	22863	1500.0
認定薬局	333 61.3	2549.9	2596.7	25	22863	1868.0
地域連携薬局	316 58.2	2482.1	2606.4	25	22863	1800.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	4013.2	2024.6	1500	8032	3051.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	3325.0	1972.7	942	6000	2700.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	1342.3	1097.5	2	8000	1030.0
健康サポート薬局	18 3.3	1494.0	753.5	120	3293	1500.0
無	192 35.4	1328.1	1123.3	2	8000	1003.0

11) 在宅患者（施設含む）に係る処方箋枚数

在宅患者（施設含む）に係る処方箋枚数（2021年12月～2022年2月の3か月間の月平均）の平均は、全体で93.7枚／月であった。

図表 12 在宅患者（施設含む）に係る処方箋枚数（月平均）（問 7-4）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	93.7	211.1	0	2355	20.0
認定薬局	333 61.3	126.5	243.7	0	2355	38.0
地域連携薬局	316 58.2	128.5	245.5	0	2355	40.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	121.1	233.0	3	858	26.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	10.4	7.3	0	17	16.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	41.8	129.1	0	1103	3.0
健康サポート薬局	18 3.3	134.1	278.9	0	1103	29.0
無	192 35.4	33.1	100.4	0	826	2.0

12) 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合

2021年に調剤基本料の施設基準に係る届出を行った際の主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合の平均は、全体で68.0%であった。

図表 13 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合（問 8）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	68.0	25.1	0	99.8	74.8
認定薬局	333 61.3	65.5	23.7	0	99.1	70.0
地域連携薬局	316 58.2	65.0	23.6	0	99.1	68.7
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	72.1	24.6	23.7	97.5	80.7
専門医療機関連携薬局	5 0.9	84.7	10.9	70	95.8	91.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	71.8	26.8	8	99.8	83.5
健康サポート薬局	18 3.3	68.6	22.4	14.1	98.3	72.8
無	192 35.4	72.1	27.1	8	99.8	84.0

13) 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数

保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数（※）の平均は、全体で1390.2品目であった。

※異なる規格は別品目として計上

図表 14 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数（問 9-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	542 100.0	1390.2	502.6	0	4124	1304.5
認定薬局	332 61.3	1560.7	442.0	561	4124	1494.0
地域連携薬局	315 58.1	1541.9	432.5	561	4124	1471.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	1881.0	504.3	1218	2699	1672.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	1978.0	364.3	1500	2432	2030.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	1120.7	473.8	0	2600	1200.0
健康サポート薬局	18 3.3	1335.3	248.9	900	2006	1300.0
無	192 35.4	1100.6	484.7	0	2600	1190.0

14) 要指導医薬品・一般用医薬品の備蓄品目数

要指導医薬品・一般用医薬品の備蓄品目数の平均は、全体で 65.4 品目であった。

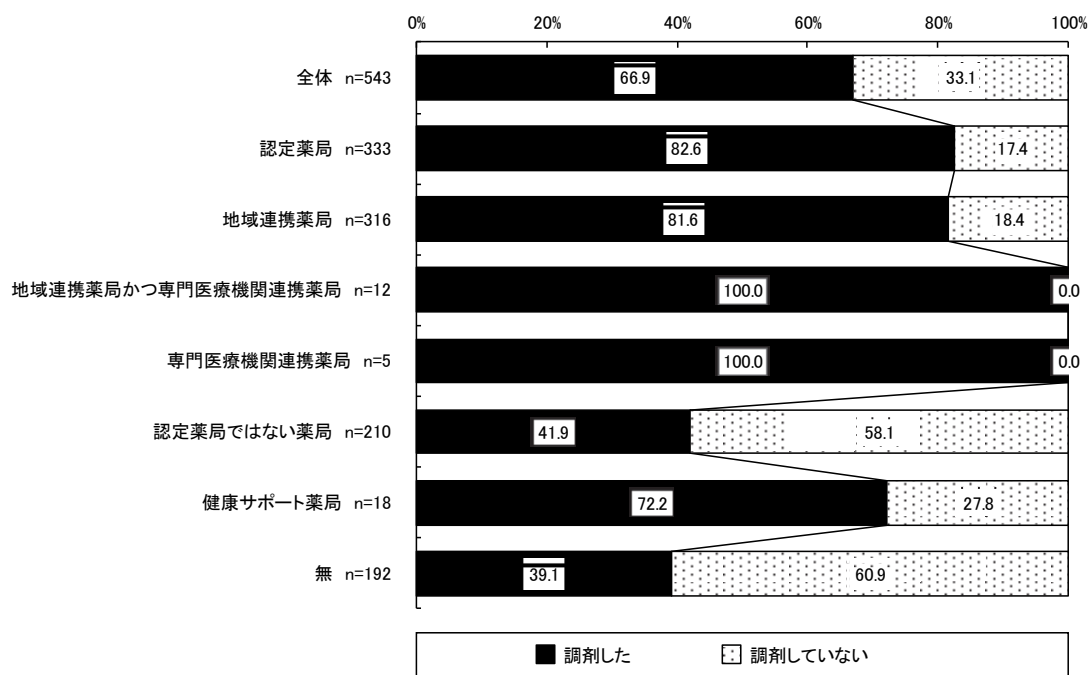
図表 15 要指導医薬品・一般用医薬品の備蓄品目数（問 9-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	65.4	129.4	0	1300	30.0
認定薬局	333 61.3	66.6	97.0	0	609	42.0
地域連携薬局	316 58.2	66.8	97.9	0	609	42.5
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	86.3	80.6	4	260	50.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	8.2	7.9	0	20	5.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	63.4	168.5	0	1300	14.0
健康サポート薬局	18 3.3	47.9	37.7	0	120	38.5
無	192 35.4	64.9	175.8	0	1300	10.0

15) 麻薬の調剤の実績

過去 6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における麻薬の調剤の実績については、全体では「調剤した」が 66.9%であった。

図表 16 麻薬の調剤の実績（問 10）



(2) 薬局の体制

1) 当該店舗に勤務する薬剤師 常勤 実人数

当該店舗に勤務する薬剤師（休職中の者を含む） 常勤 実人数の平均は、全体で3.3人であった。

図表 17 当該店舗に勤務する薬剤師 常勤 実人数（問 11-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	3.3	2.9	1	32	3.0
認定薬局	333 61.3	4.0	3.3	1	32	3.0
地域連携薬局	316 58.2	3.8	3.0	1	32	3.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	9.1	6.3	3	28	7.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	5.8	4.2	2	13	4.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	2.3	1.6	1	9	2.0
健康サポート薬局	18 3.3	3.7	1.8	1	7	3.5
無	192 35.4	2.2	1.5	1	9	2.0

2) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 実人数

当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 の平均は、全体で2.5人であった。

図表 18 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 実人数（問 11-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	2.5	3.4	0	25	1.0
認定薬局	333 61.3	2.9	3.8	0	25	2.0
地域連携薬局	316 58.2	2.8	3.7	0	25	2.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	2.6	3.2	0	9	1.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	5.0	7.2	0	19	2.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	2.0	2.8	0	20	1.0
健康サポート薬局	18 3.3	3.2	5.5	0	20	0.0
無	192 35.4	1.9	2.3	0	13	1.0

3) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 常勤換算

当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 常勤換算の平均は、全体で0.8人であった。

図表 19 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 非常勤 常勤換算（問 11-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	0.8	1.3	0.0	20.0	0.4
認定薬局	333 61.3	0.9	1.5	0.0	20.0	0.6
地域連携薬局	316 58.2	0.9	1.5	0.0	20.0	0.6
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	1.0	1.5	0.0	5.0	0.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	1.1	1.2	0.0	2.9	0.7
認定薬局ではない薬局	210 38.7	0.7	1.0	0.0	6.0	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.5	1.0	0.0	4.0	0.0
無	192 35.4	0.7	1.0	0.0	6.0	0.2

図表 20 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤 常勤換算（問 11-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	4.2	3.3	1.0	33.0	3.2
認定薬局	333 61.3	4.9	3.8	1.0	33.0	4.0
地域連携薬局	316 58.2	4.7	3.4	1.0	32.0	4.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	10.1	7.5	3.0	33.0	8.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	6.9	5.1	2.0	15.0	4.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	3.0	1.9	1.0	14.9	2.5
健康サポート薬局	18 3.3	4.2	1.9	1.0	8.0	4.0
無	192 35.4	2.9	1.9	1.0	14.9	2.4

4) 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数

当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数の平均は、全体で1.0人であった。

図表 21 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数（問 12-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	430 100.0	1.0	1.2	0	8	1.0
認定薬局	262 60.9	1.3	1.3	0	8	1.0
地域連携薬局	248 57.7	1.2	1.2	0	7	1.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.3	2.7	2.2	1	8	2.0
専門医療機関連携薬局	4 0.9	2.0	1.9	0	5	1.5
認定薬局ではない薬局	168 39.1	0.7	0.9	0	4	0.0
健康サポート薬局	14 3.3	1.1	0.9	0	3	1.0
無	154 35.8	0.6	0.9	0	4	0.0

5) 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数

当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数の平均は、全体で0.7人であった。

図表 22 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数（問 12-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	463 100.0	0.7	1.8	0	20	0.0
認定薬局	280 60.5	0.8	1.9	0	20	0.0
地域連携薬局	265 57.2	0.8	2.0	0	20	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.2	0.2	0.4	0	1	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	0.4	0.5	0	1	0.0
認定薬局ではない薬局	183 39.5	0.6	1.5	0	12	0.0
健康サポート薬局	13 2.8	0.2	0.5	0	2	0.0
無	170 36.7	0.6	1.5	0	12	0.0

6) 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算

当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算の平均は、全体で0.2人であった。

図表 23 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算（問 12-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	471 100.0	0.2	0.5	0.0	3.2	0.0
認定薬局	280 59.4	0.2	0.5	0.0	3.2	0.0
地域連携薬局	264 56.1	0.2	0.5	0.0	3.2	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	11 2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	0.2	0.4	0.0	0.9	0.0
認定薬局ではない薬局	191 40.6	0.1	0.4	0.0	2.0	0.0
健康サポート薬局	16 3.4	0.1	0.2	0.0	0.8	0.0
無	175 37.2	0.2	0.4	0.0	2.0	0.0

7) 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数

当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数の平均は、全体で0.5人であった。

図表 24 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 常勤 実人数（問 13-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	430 100.0	0.5	1.0	0	12	0.0
認定薬局	262 60.9	0.7	1.1	0	12	0.0
地域連携薬局	248 57.7	0.7	1.1	0	12	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.3	0.9	1.0	0	3	0.5
専門医療機関連携薬局	4 0.9	0.3	0.4	0	1	0.0
認定薬局ではない薬局	168 39.1	0.3	0.7	0	4	0.0
健康サポート薬局	14 3.3	0.5	0.6	0	2	0.0
無	154 35.8	0.3	0.7	0	4	0.0

8) 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数

当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数の平均は、全体で0.4人であった。

図表 25 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 実人数 (問 13-2)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	463 100.0	0.4	1.0	0	11	0.0
認定薬局	280 60.5	0.4	1.1	0	11	0.0
地域連携薬局	265 57.2	0.4	1.0	0	11	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.2	0.8	2.1	0	7	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	0.4	0.5	0	1	0.0
認定薬局ではない薬局	183 39.5	0.3	0.8	0	6	0.0
健康サポート薬局	13 2.8	0.0	0.0	0	0	0.0
無	170 36.7	0.3	0.8	0	6	0.0

9) 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算

当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算の平均は、全体で0.1人であった。

図表 26 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算 (問 13-3)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	471 100.0	0.1	0.4	0.0	4.0	0.0
認定薬局	280 59.4	0.1	0.4	0.0	4.0	0.0
地域連携薬局	264 56.1	0.1	0.4	0.0	2.9	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	11 2.3	0.4	1.2	0.0	4.0	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	0.1	0.2	0.0	0.4	0.0
認定薬局ではない薬局	191 40.6	0.1	0.3	0.0	2.0	0.0
健康サポート薬局	16 3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無	175 37.2	0.1	0.3	0.0	2.0	0.0

10) 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 常勤 実人数

当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 常勤 実人数の平均は、全体で1.4人であった。

図表 27 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 常勤 実人数（問14-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	430 100.0	1.4	2.0	0	24	1.0
認定薬局	262 60.9	1.7	2.4	0	24	1.0
地域連携薬局	248 57.7	1.6	2.2	0	24	1.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.3	4.9	3.9	1	14	3.0
専門医療機関連携薬局	4 0.9	1.8	1.3	0	3	2.0
認定薬局ではない薬局	168 39.1	0.9	1.0	0	5	1.0
健康サポート薬局	14 3.3	1.5	1.5	0	5	1.0
無	154 35.8	0.9	1.0	0	5	1.0

11) 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 実人数

当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 実人数の平均は、全体で0.7人であった。

図表 28 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 実人数（問14-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	463 100.0	0.7	1.2	0	7	0.0
認定薬局	280 60.5	0.8	1.3	0	7	0.0
地域連携薬局	265 57.2	0.8	1.2	0	7	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	10 2.2	1.3	2.4	0	7	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	1.0	1.1	0	3	1.0
認定薬局ではない薬局	183 39.5	0.5	1.1	0	6	0.0
健康サポート薬局	13 2.8	0.4	1.1	0	4	0.0
無	170 36.7	0.5	1.1	0	6	0.0

12) 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算

当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算の平均は、全体で0.3人であった。

図表 29 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数 非常勤 常勤換算 (問 14-3)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	471 100.0	0.3	0.6	0.0	5.0	0.0
認定薬局	280 59.4	0.3	0.7	0.0	5.0	0.0
地域連携薬局	264 56.1	0.3	0.7	0.0	5.0	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	11 2.3	0.3	0.7	0.0	2.5	0.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	0.5	0.8	0.0	2.0	0.0
認定薬局ではない薬局	191 40.6	0.2	0.6	0.0	4.0	0.0
健康サポート薬局	16 3.4	0.1	0.4	0.0	1.8	0.0
無	175 37.2	0.3	0.6	0.0	4.0	0.0

13) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 常勤 実人数

薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 常勤 実人数の平均は、全体で2.4人であった。

図表 30 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 常勤 実人数 (問 15-1)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	536 100.0	2.4	2.0	0	17	2.0
認定薬局	327 61.0	3.0	2.1	0	17	3.0
地域連携薬局	310 57.8	2.8	1.9	0	14	2.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	6.9	4.0	2	17	6.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	4.8	2.8	2	9	4.0
認定薬局ではない薬局	209 39.0	1.5	1.3	0	7	1.0
健康サポート薬局	18 3.4	3.0	1.9	1	7	3.0
無	191 35.6	1.4	1.1	0	5	1.0

14) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 非常勤 実人数

薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 非常勤 実人数の平均は、全体で1.0人であった。

図表 31 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数 非常勤 実人数 (問 15-2)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	537 100.0	1.0	2.3	0	25	0.0
認定薬局	329 61.3	1.2	2.6	0	25	0.0
地域連携薬局	312 58.1	1.3	2.7	0	25	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	0.4	0.6	0	2	0.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	0.8	1.2	0	3	0.0
認定薬局ではない薬局	208 38.7	0.7	1.4	0	9	0.0
健康サポート薬局	18 3.4	0.7	1.4	0	4	0.0
無	190 35.4	0.7	1.4	0	9	0.0

15) 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 常勤 実人数

健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 常勤 実人数の平均は、全体で2.0人であった。

図表 32 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 常勤 実人数 (問 16-1)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	537 100.0	2.0	2.1	0	20	2.0
認定薬局	328 61.1	2.8	2.2	0	20	2.0
地域連携薬局	311 57.9	2.6	1.8	0	17	2.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	6.7	4.5	2	20	5.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	2.4	3.8	0	10	1.0
認定薬局ではない薬局	209 38.9	0.9	1.2	0	7	0.0
健康サポート薬局	18 3.4	2.7	1.7	1	7	2.5
無	191 35.6	0.7	1.0	0	5	0.0

16) 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 非常勤 実人数

健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 非常勤 実人数の平均は、全体で0.6人であった。

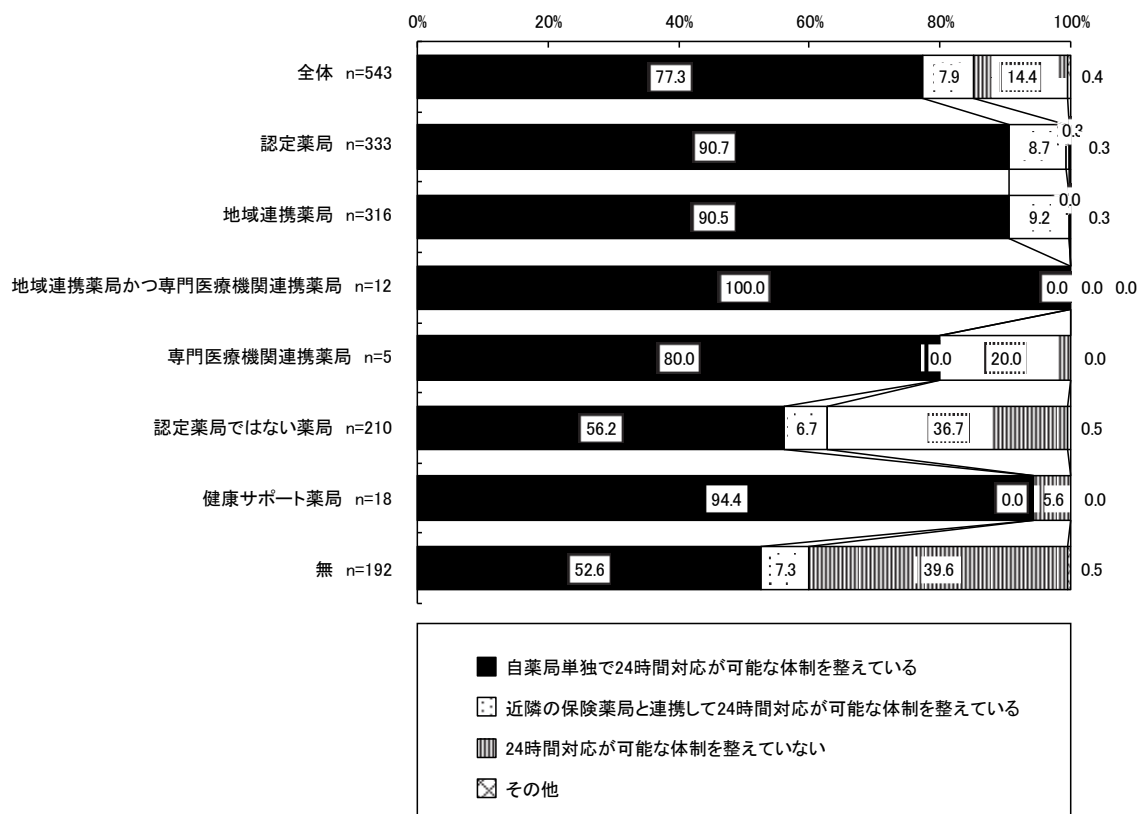
図表 33 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数 非常勤 実人数 (問 16-2)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	538 100.0	0.6	1.5	0	14	0.0
認定薬局	330 61.3	0.8	1.7	0	14	0.0
地域連携薬局	313 58.2	0.8	1.7	0	14	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	0.8	2.5	0	9	0.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	0.0	0.0	0	0	0.0
認定薬局ではない薬局	208 38.7	0.3	0.9	0	8	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.7	1.3	0	4	0.0
無	190 35.3	0.2	0.9	0	8	0.0

17) 24 時間対応体制

24 時間対応体制については、全体では「自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている」が 75.7%で最も割合が高く、ついで「24 時間対応が可能な体制を整えていない」が 16.0%であった。

図表 34 24 時間対応体制（問 17-1）



※「その他」の主な回答は以下の通り。
 ・グループで 24 時間対応の体制をとっている
 ・準備中。24 時間体制にはしている

18) 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数

自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数の平均は、全体で 1.8 人であった。

図表 35 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数（問 17-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	409 100.0	1.8	1.9	0	28	1.0
認定薬局	296 72.4	1.9	2.1	0	28	1.0
地域連携薬局	283 69.2	1.8	1.4	0	10	1.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	11 2.7	4.8	7.7	1	28	1.0
専門医療機関連携薬局	2 0.5	2.5	1.5	1	4	2.5
認定薬局ではない薬局	113 27.6	1.5	1.0	0	6	1.0
健康サポート薬局	16 3.9	2.4	1.6	0	6	2.0
無	97 23.7	1.3	0.8	1	6	1.0

19) 自薬局単独で24時間対応が可能な場合における対応件数

自薬局単独で24時間対応が可能な場合における3か月間(2021年12月～2022年2月)の対応件数の平均は、全体で31.1件であった。

図表 36 自薬局単独で24時間対応が可能な場合における3か月間の対応件数(問17-3)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	409 100.0	30.7	167.4	0	1944	2.0
認定薬局	296 72.4	40.8	195.8	0	1944	3.0
地域連携薬局	283 69.2	29.7	138.2	0	1842	3.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	11 2.7	334.6	671.2	0	1944	6.0
専門医療機関連携薬局	2 0.5	0.5	0.5	0	1	0.5
認定薬局ではない薬局	113 27.6	4.2	6.9	0	36	1.0
健康サポート薬局	16 3.9	6.3	7.3	0	30	4.5
無	97 23.7	3.8	6.7	0	36	1.0

20) 近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応で連携している薬局数

近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応で連携している薬局数の平均は、全体で 3.1 軒であった。

図表 37 近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における夜間等時間外の対応で連携している薬局数（問 17-4）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	43 100.0	3.1	4.3	0	24	1.0
認定薬局	29 67.4	3.0	3.4	0	15	1.0
地域連携薬局	29 67.4	3.0	3.4	0	15	1.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	- -	-	-	-	-	-
専門医療機関連携薬局	- -	-	-	-	-	-
認定薬局ではない薬局	14 32.6	3.2	5.8	1	24	1.5
健康サポート薬局	- -	-	-	-	-	-
無	14 32.6	3.2	5.8	1	24	1.5

21) 近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における対応件数

近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における 3 か月間（2021 年 12 月～2022 年 2 月）の対応件数の平均は、全体で 8.4 件であった。

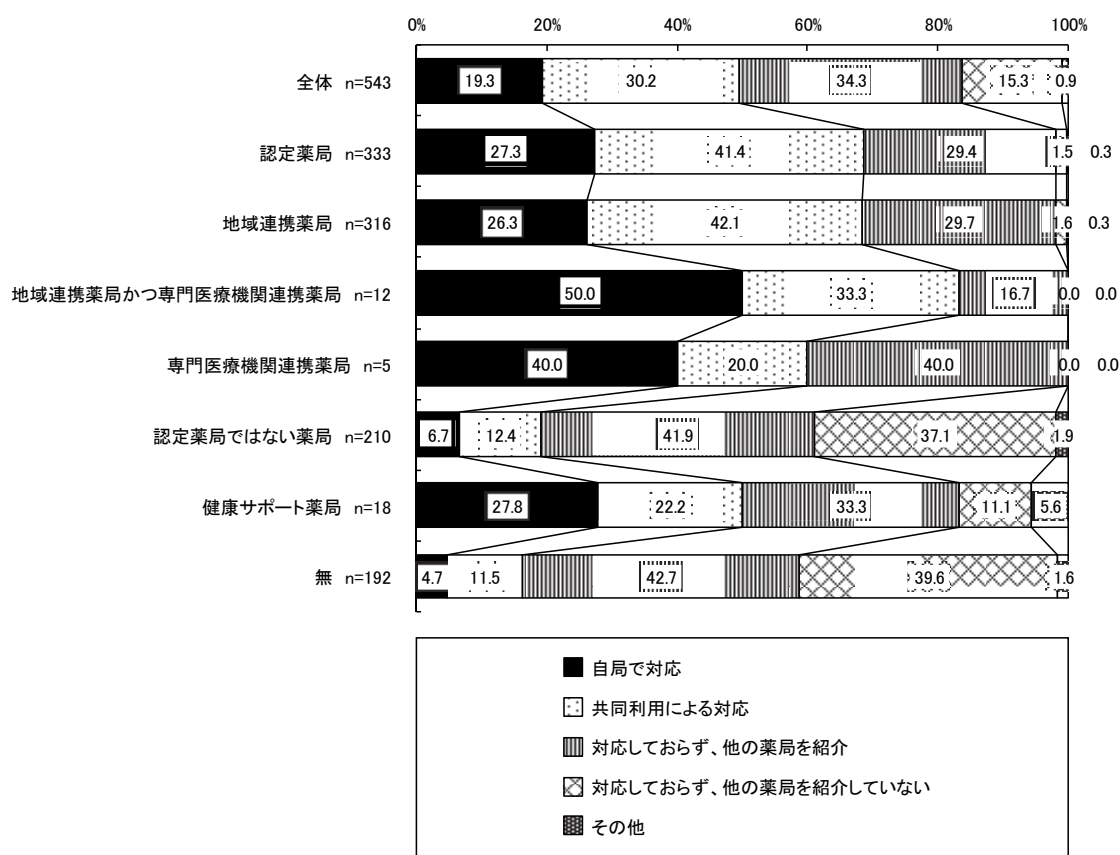
図表 38 近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている場合における 3 か月間の対応件数（問 17-5）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	43 100.0	8.4	25.2	0	149	0.0
認定薬局	29 67.4	9.8	28.3	0	149	0.0
地域連携薬局	29 67.4	9.8	28.3	0	149	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	- -	-	-	-	-	-
専門医療機関連携薬局	- -	-	-	-	-	-
認定薬局ではない薬局	14 32.6	5.4	16.6	0	65	0.0
健康サポート薬局	- -	-	-	-	-	-
無	14 32.6	5.4	16.6	0	65	0.0

22) 無菌製剤処理における必要な調剤対応について

無菌製剤処理における必要な調剤対応については、全体では「対応しておらず、他の薬局を紹介」が 34.3%で最も割合が高く、ついで「共同利用による対応」が 30.2%であった。

図表 39 無菌製剤処理における必要な調剤対応（問 18）



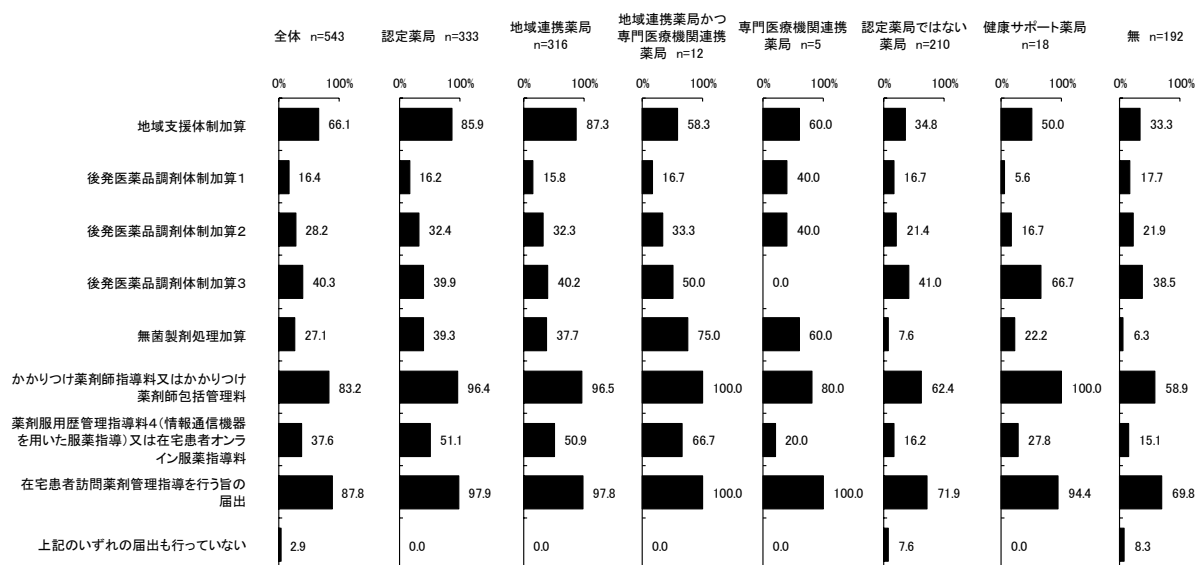
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・応需無し
- ・対象者なし
- ・対応する患者が見えたことがない
- ・対応しておらず、事案なし
- ・無菌調剤が必要になったことがない

23) 調剤報酬の施設基準等の届出を行っているもの

調剤報酬の施設基準等の届出を行っているものについては、全体では「在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出」が 87.8%で最も割合が高く、ついで「かかりつけ薬剤師指導料又はかかりつけ薬剤師包括管理料」が 83.2%であった。

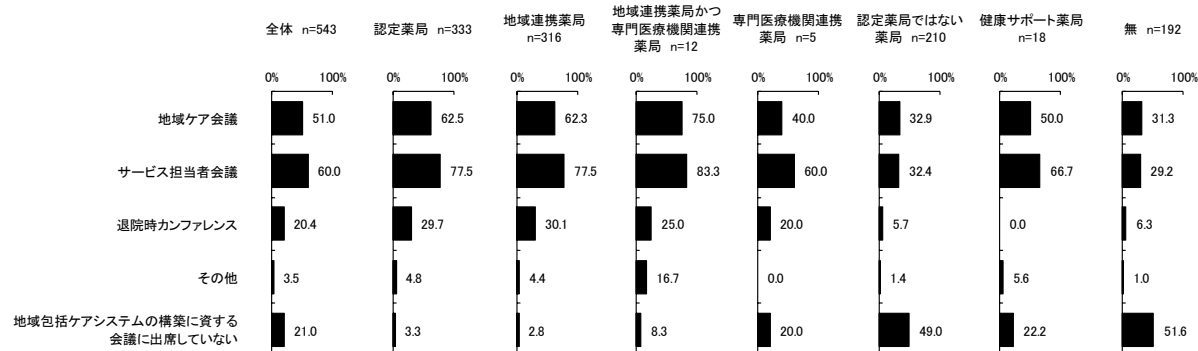
図表 40 調剤報酬の施設基準等の届出を行っているもの（問 19）【複数回答】



24) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

地域包括ケアシステムの構築に資する会議（オンラインでの開催を含む）として出席しているものについては、全体では「サービス担当者会議」が60.0%で最も割合が高く、ついで「地域ケア会議」が51.0%であった。

図表 41 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの（問 20-1）【複数回答】



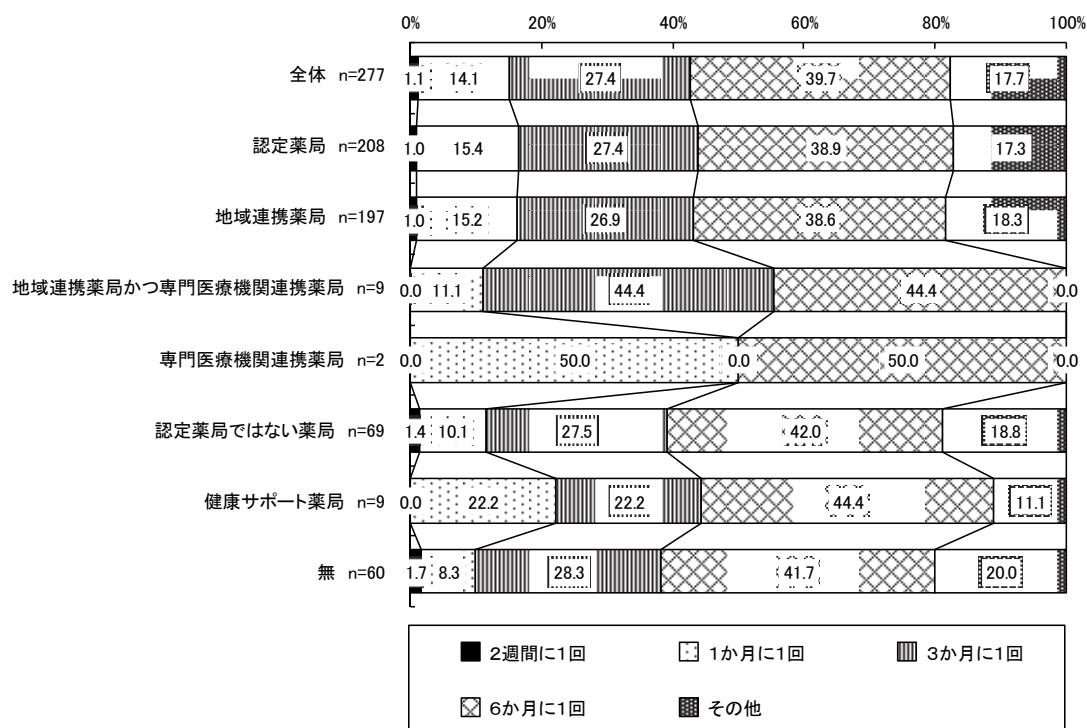
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・ケアマネとのケアプラン会議
- ・セミナー
- ・メーカーや病院主催の勉強会
- ・医療と福祉の多職種連携会議・認定審査会等
- ・介護連携推進会議に出席
- ・岐阜市高齢福祉課の行う認知症症例検討会
- ・広域病院薬剤部を訪問して症例検討
- ・災害時研修会議
- ・在宅支援カンファレンスなど
- ・在宅地域連携カンファレンス
- ・市の地域包括ケアシステム研究会
- ・出雲圏域精神保健包括支援会議
- ・新型コロナウイルス感染症有明地域会議
- ・精神科患者担当者会議
- ・多職種会議
- ・多職種連携会議
- ・多職種連携交流研修会
- ・対応診療所がグループホームへ往診に行っているため、そこへ薬剤師が同行して施設内で医師・看護師・薬剤師と介護施設職員とで個々の服薬状況や残薬調整、医薬品の剤形の提案など行っている（ミニカンファ）
- ・地域包括連携会議
- ・認知症キャラバンメイト連絡会
- ・認知症キャラバンメイト会議など

25) 地域ケア会議への出席頻度

地域ケア会議への出席頻度については、全体では「6か月に1回」が39.7%で最も割合が高く、ついで「3か月に1回」が27.4%であった。

図表 42 地域ケア会議への出席頻度（問 20-2）



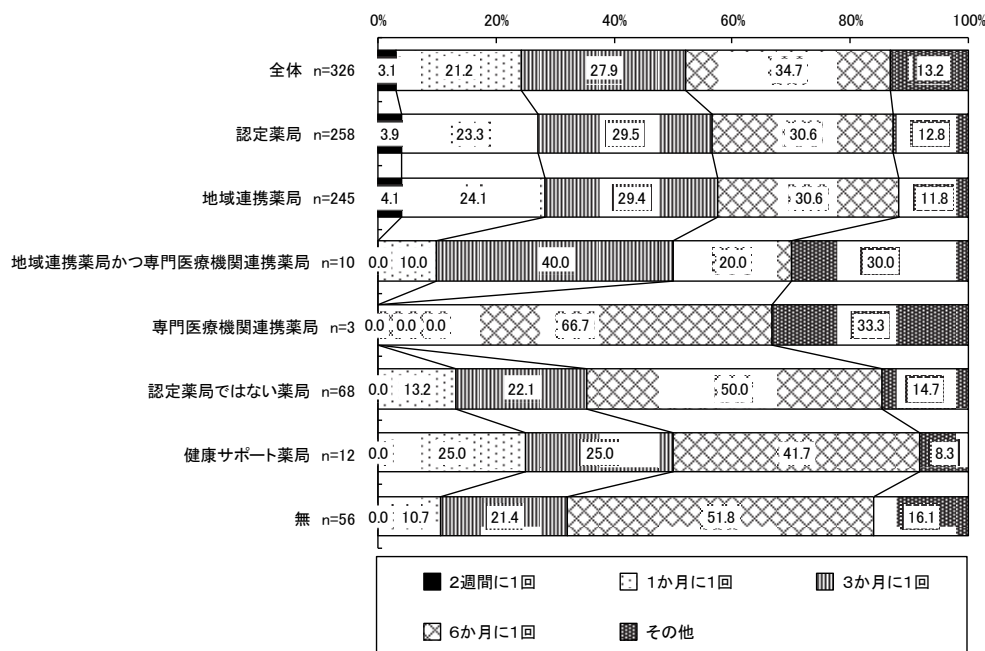
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・2か月に1回（3コマ）
- ・2ヶ月に一度くらい。5人にてローテーション
- ・奇数月
- ・コロナのため今年度は1回のみ開催。本来は2ヶ月に1回開催
- ・コロナ禍休止。通常は月に1回
- ・コロナ禍以前は年に2-3回
- ・年1, 2回。コロナ禍で中止
- ・年1~2回
- ・年1回
- ・年間1回。地域で制限をかけられているため
- ・2年に1回。コロナ禍で包括ケアセンターに参加を断られている
- ・不定期
- ・開催があれば参加している
- ・2021年1回出席
- ・2年前に1回

26) サービス担当者会議への出席頻度

サービス担当者会議への出席頻度については、全体では「6か月に1回」が34.7%で最も割合が高く、ついで「3か月に1回」が27.9%であった。

図表 43 サービス担当者会議への出席頻度（問 20-3）



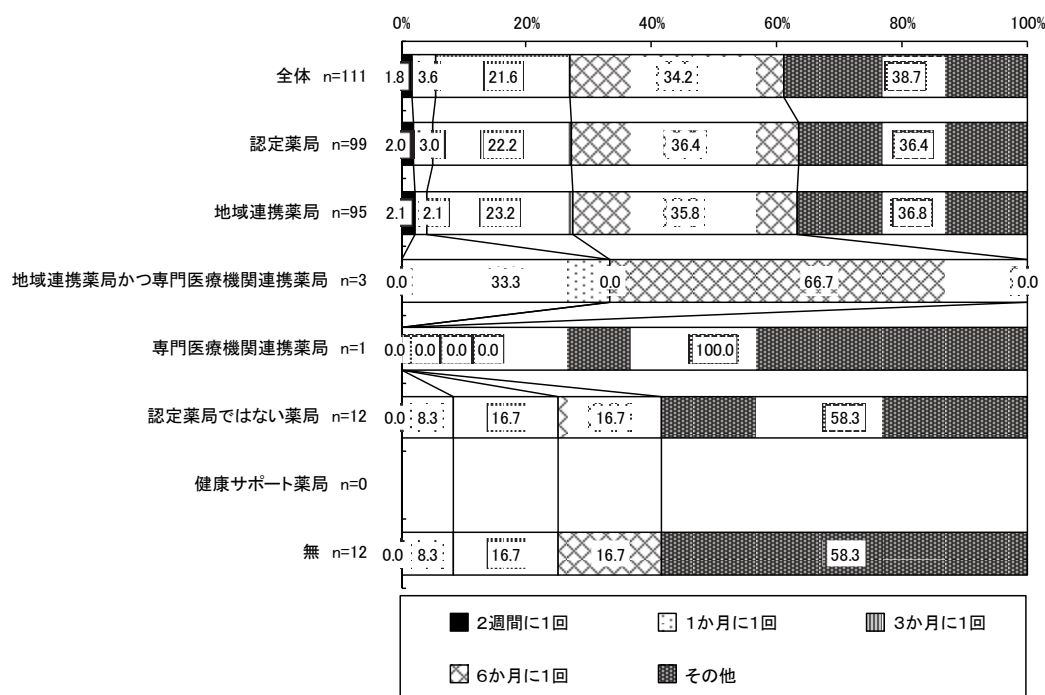
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・ 1週間に1回
- ・ 2ヶ月に1回程度
- ・ 年に1, 2回
- ・ 1年に1回
- ・ 年に1回程度
- ・ 患者1名につき年に1回程度開催されるため、参加頻度は不明
- ・ 1回
- ・ ケアプラン変更時のみ
- ・ 新規在宅患者受け入れの度
- ・ 在宅を開始したときのみ
- ・ 在宅患者で必要な患者がいると呼ばれるので不定期
- ・ 状況が大きく変わる時
- ・ 患者の状態により
- ・ 担当患者の状況に応じて
- ・ 当薬局の在宅の患者の担当者会議
- ・ 保険が更新される時
- ・ 保険の切り替わり時に
- ・ 必要により
- ・ 必要時
- ・ 開催した時。コロナ禍で開催されていない
- ・ 開催の案内があった時に参加
- ・ 開催時に声がかかった時
- ・ 担当者開催時
- ・ コロナで不定期
- ・ 不定期
- ・ 不明

27) 退院時カンファレンスへの出席頻度

退院時カンファレンスへの出席頻度については、全体では「その他」が38.7%で最も割合が高く、ついで「6か月に1回」が34.2%であった。

図表 44 退院時カンファレンスへの出席頻度（問 20-4）



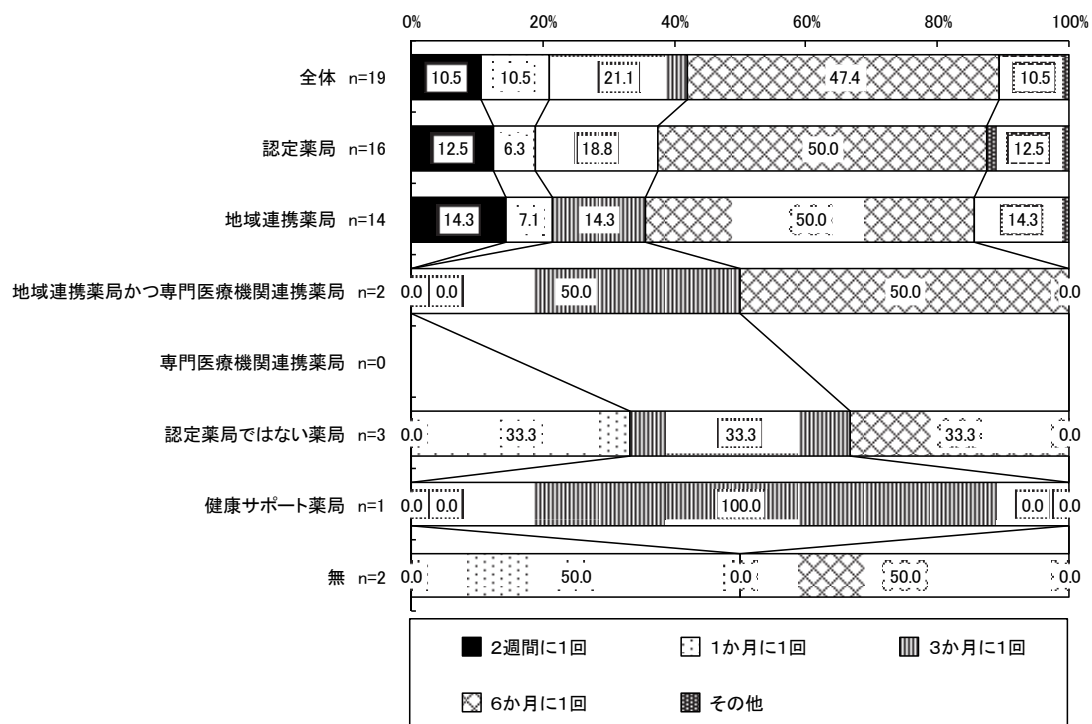
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・1年に1～2回
- ・1年に1回
- ・年に1回あるかどうか
- ・1年～2年に1回程度
- ・当薬局の在宅を行っている施設の患者が入院して施設に戻る時
- ・不定期。担当患者が入退院したときに
- ・新規在宅患者受け入れの度
- ・その都度
- ・随時
- ・案件があれば
- ・依頼があった時
- ・依頼があれば。去年は1年で1回参加
- ・開催されれば参加する
- ・開催の案内があった時に参加
- ・声がかかった時
- ・出席要請があった場合
- ・必要に応じて
- ・必要時
- ・要請あり次第
- ・要望時で決まっていない
- ・連絡があれば
- ・不定期
- ・1回
- ・一度出席した経験がある

28) その他の会議への出席頻度

その他の会議への出席頻度については、全体では「6か月に1回」が47.4%で最も割合が高く、ついで「3か月に1回」が21.1%であった。

図表 45 その他の会議への出席頻度（問 20-5）



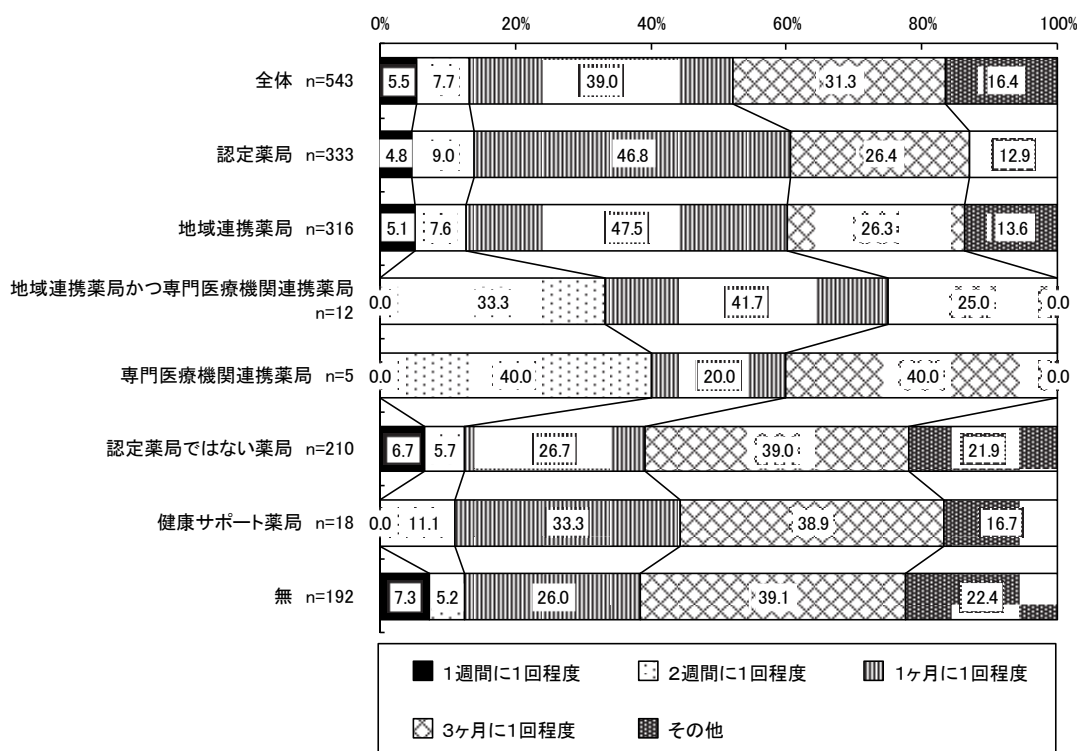
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・年1回
- ・必要時

29) 自薬局における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の開催頻度

自薬局における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の開催頻度については、全体では「1ヶ月に1回程度」が39.0%で最も割合が高く、ついで「3ヶ月に1回程度」が31.3%であった。

図表 46 自薬局における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の開催頻度（問 21）



※「その他」の主な回答は以下の通り。

【定期】

- ・毎日
- ・1週間に2回
- ・半年に1回程度
- ・年1から2回程度
- ・年1回
- ・1年に1回程度
- ・グループ全体として2か月に1度程度。自店舗内だけであれば週1回ほど
- ・コロナ禍でなかなか開催が難しいため、年に一度くらい

【不定期、随時】

- ・複数の医療機関を受診しているときや、ハイリスク薬服用患者さんについて
- ・検討が必要な症例が発生した時に行う。緊急の事例や複数事例もあるので随時フィードバック
- ・情報共有をしたほうが良い対象者がいれば、その時に
- ・気になった症例があった時にスタッフ同士で似た症例があるか相談している
- ・発生時に担当者と打ち合わせを行う。頻度はバラバラである
- ・問題症例があるときに随時開催
- ・症例検討会はしていないが、過誤やミスに関してミーティングを実施
- ・必要時、提案時
- ・必要性があれば都度実施
- ・連絡があれば

【その他】

- ・症例検討に関して、勉強会というよりハウレンソウとして行っている。業務の一環のため頻度を数えること

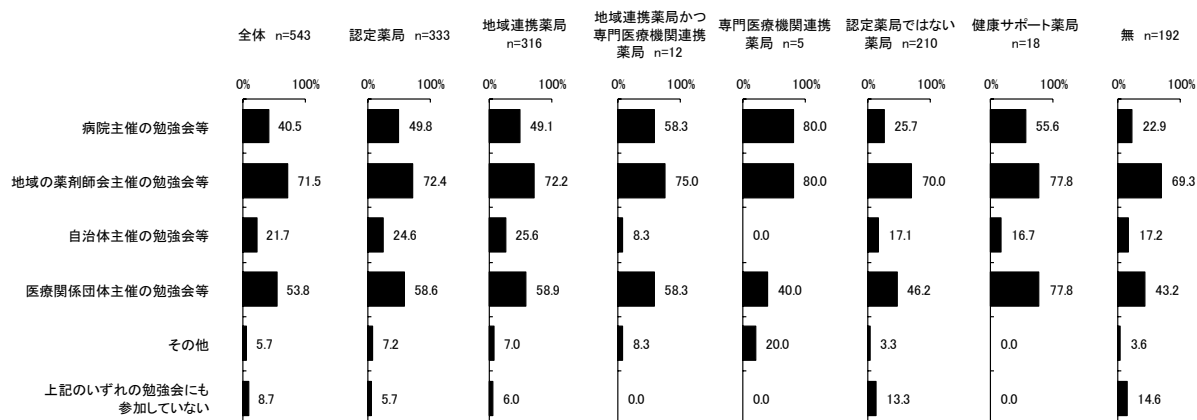
- ・ができない。すべて数えるなら週 2~3 回
- ・勉強会という形では定期的開催できていない。引き継ぎ等で随時話し合いはしている
- ・系列薬局と合同で不定期に行う
- 【実施していない】
- ・皆で集まって打ち合わせする時間を取らず、その都度薬剤師に伝えている
- ・1人薬剤師のため、特になし
- ・1人薬剤師なので。その都度、検討はしている
- ・勤務時間・日程が一致するのが難しいため
- ・講習会への参加以外は無し
- ・勉強会の形式を取っていない
- ・自薬局では行ってない
- ・本社にてオンラインで実施
- ・毎月1回行っていたが、現在コロナ感染があるため、カンファレンスで集まることは控えている
- ・直近約2年間はコロナ対策の為開催無し
- ・開催していない
- ・実施無し
- ・ほとんどなし

30) 自薬局以外における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）への参加状況

自薬局以外における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）への参加状況については、全体では「地域の薬剤師会主催の勉強会等」が71.5%で最も割合が高く、ついで「医療関係団体主催の勉強会等」が53.8%であった。

図表 47 自薬局以外における個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）への参加状況（問 22）

【複数回答】



※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・医療薬学会他の研修会
- ・当薬局利用の患者様で依頼があれば。2021年はケアマネ主催の検討会に1回参加。また、泌尿器科のカンファレンスに不定期参加。2021年は2回
- ・他薬局での症例検討会
- ・ケアマネジャー協会
- ・メーカーによる薬局内の勉強会
- ・メーカー主催、病院医師講師の勉強会
- ・メーカー主催の勉強会
- ・医薬品メーカー
- ・製薬メーカーによるオンライン研修
- ・レセコン会社、薬歴会社主催の勉強会・医師会主催の勉強会
- ・介護支援センターの勉強会
- ・行政
- ・漢方勉強会
- ・独自の勉強会
- ・会社主催の勉強会
- ・自社3店舗での合同勉強会
- ・社内で行われる学習会
- ・社内で自身が講師として半年に1回行っている
- ・社内講師開催の勉強会
- ・社内研修
- ・本社にて
- ・グループ内薬局主催の勉強会
- ・グループ薬局内での症例検討会
- ・同一グループ内研修会

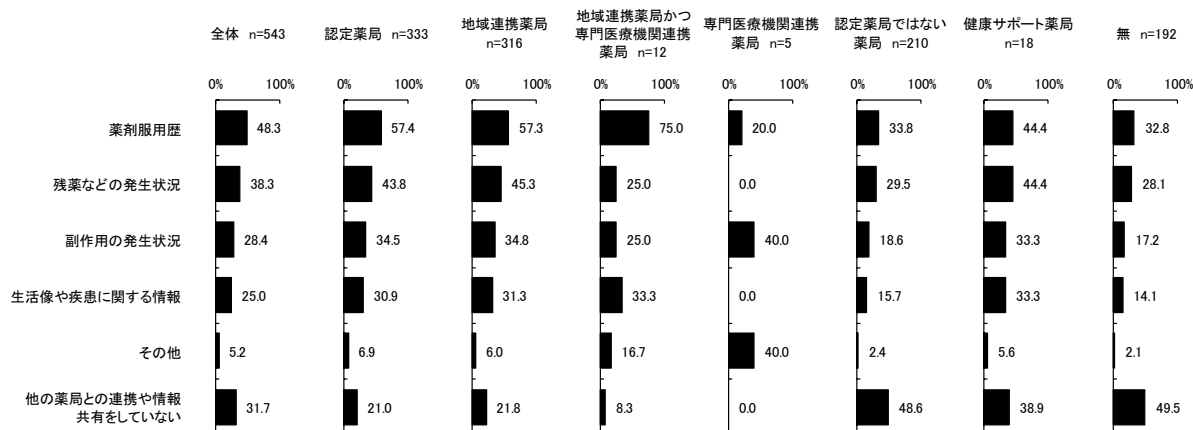
(3) 他の薬局、医療機関等との連携

1) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における他の薬局との連携や情報共有に関する内容については、全体では「薬剤服用歴」が 48.3%で最も割合が高く、ついで「残薬などの発生状況」が 38.3%であった。

内容ごとの頻度については後述する。

図表 48 他の薬局との連携や情報共有に関する内容（問 23-1）



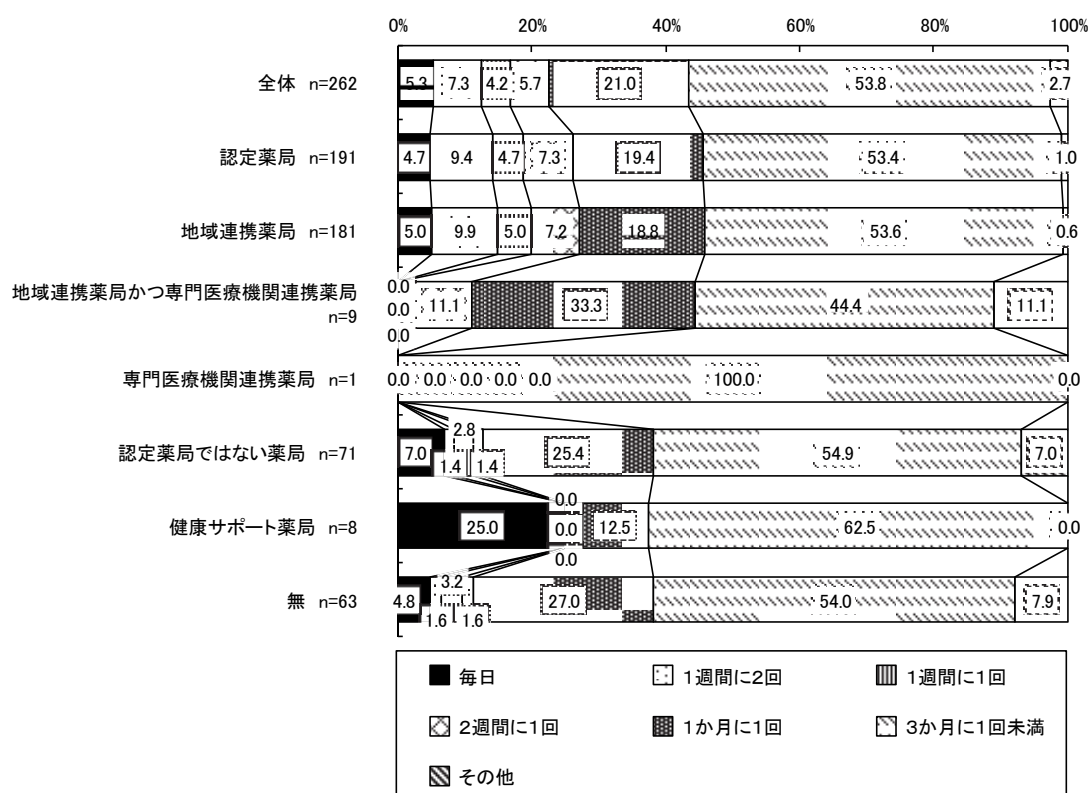
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・処方内容について
- ・薬物について
- ・併用薬情報
- ・重複薬の報告
- ・お薬手帳での残薬・重複投与などの共用
- ・処方元に薬の変更・追加があった時に副作用・コンプライアンスについて報告
- ・ラゲブリオやコロナ陽性患者の対応に関して
- ・特殊な調剤方法の確認
- ・緊急時の対応（いつもはかかりつけが他薬局であるが、家族の都合などで調剤した場合）について情報提供
- ・患者からの相談について
- ・患者の許可を得て処方薬で当薬局に在庫が無く手配が間に合わない場合近隣薬局に照会して紹介するなど
- ・居宅療養患者の状況報告
- ・在宅担当薬局変更時の情報提供
- ・患者の内容については、連携実績はないが、連絡が取れる体制（セキュリティ SMS）は整っている（MCS）
- ・医薬品の購入等
- ・在庫していない医薬品を薬局間で譲受
- ・在庫状況の共有
- ・在庫不足による対応
- ・自社独自の DI 情報
- ・DSU などの情報提供
- ・診療報酬改定についての意見交換
- ・地域連携薬局認定のための資料共有
- ・合同の勉強会
- ・薬剤師会連絡など
- ・限定採用品のお知らせ
- ・他局とは上記の項目に関する連携はしていない。薬の流通状況や、DI のようなものの共有はしている。

2) 薬剤服用歴に関する連携や情報共有の頻度

6か月間（2021年9月～2022年2月の6か月間）における薬剤服用歴に関する連携や情報共有の頻度については、全体では「3か月に1回未満」が53.8%で最も割合が高く、ついで「1か月に1回」が21.0%であった。

図表 49 薬剤服用歴に関する連携や情報共有の頻度（問 23-2）



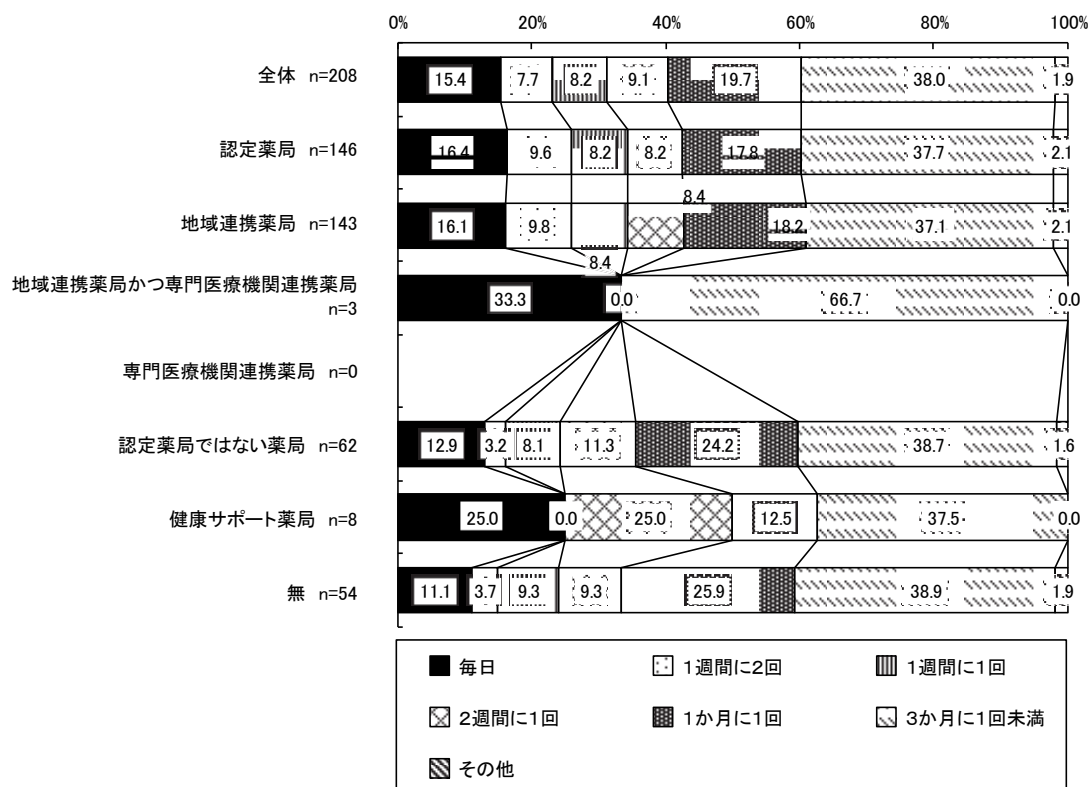
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・必要時
- ・転院した為継続していた処方薬についての問い合わせ
- ・系列店来局時

3) 残薬などの発生状況に関する連携や情報共有の頻度

6か月間（2021年9月～2022年2月）における残薬などの発生状況に関する連携や情報共有の頻度については、全体では「3か月に1回未満」が38.0%で最も割合が高く、ついで「1か月に1回」が19.7%であった。

図表 50 残薬などの発生状況に関する連携や情報共有の頻度（問 23-3）



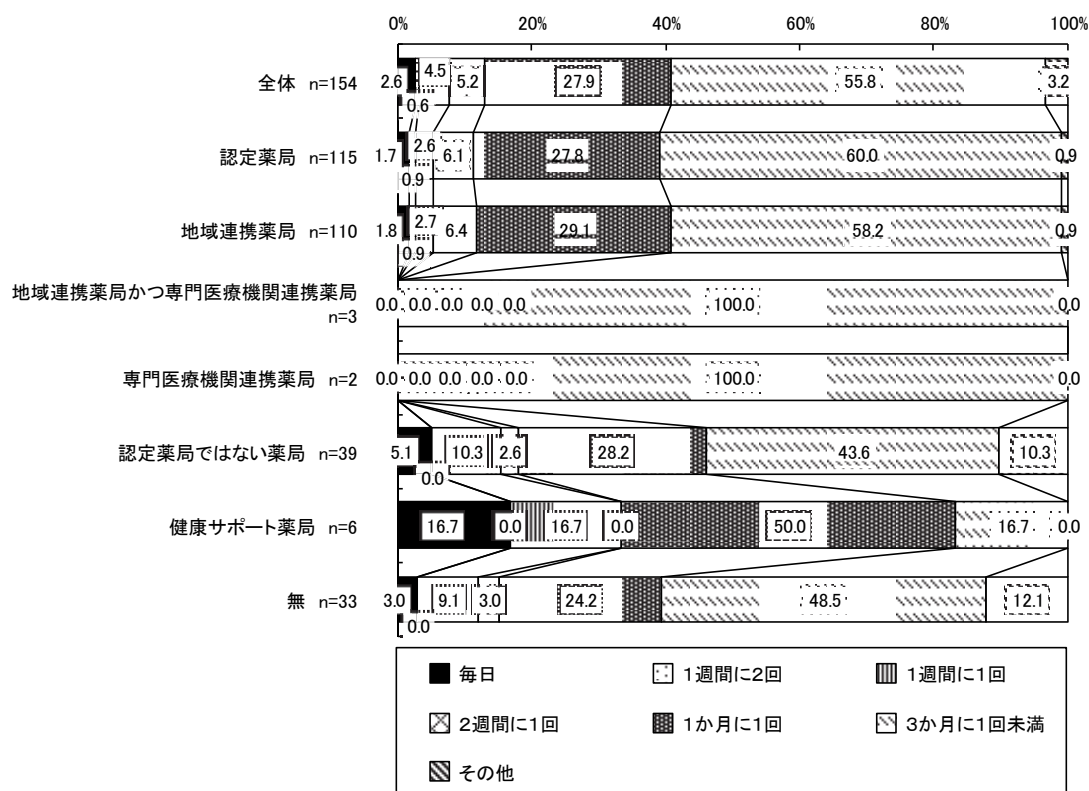
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・その都度
- ・必要時のみ
- ・麻薬処方が必要な方、在宅移行時の引き継ぎ

4) 副作用の発生状況に関する連携や情報共有の頻度

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における副作用の発生状況に関する連携や情報共有の頻度については、全体では「3 か月に 1 回未満」が 55.8%で最も割合が高く、ついで「1 か月に 1 回」が 27.9%であった。

図表 51 副作用の発生状況に関する連携や情報共有の頻度（問 23-4）



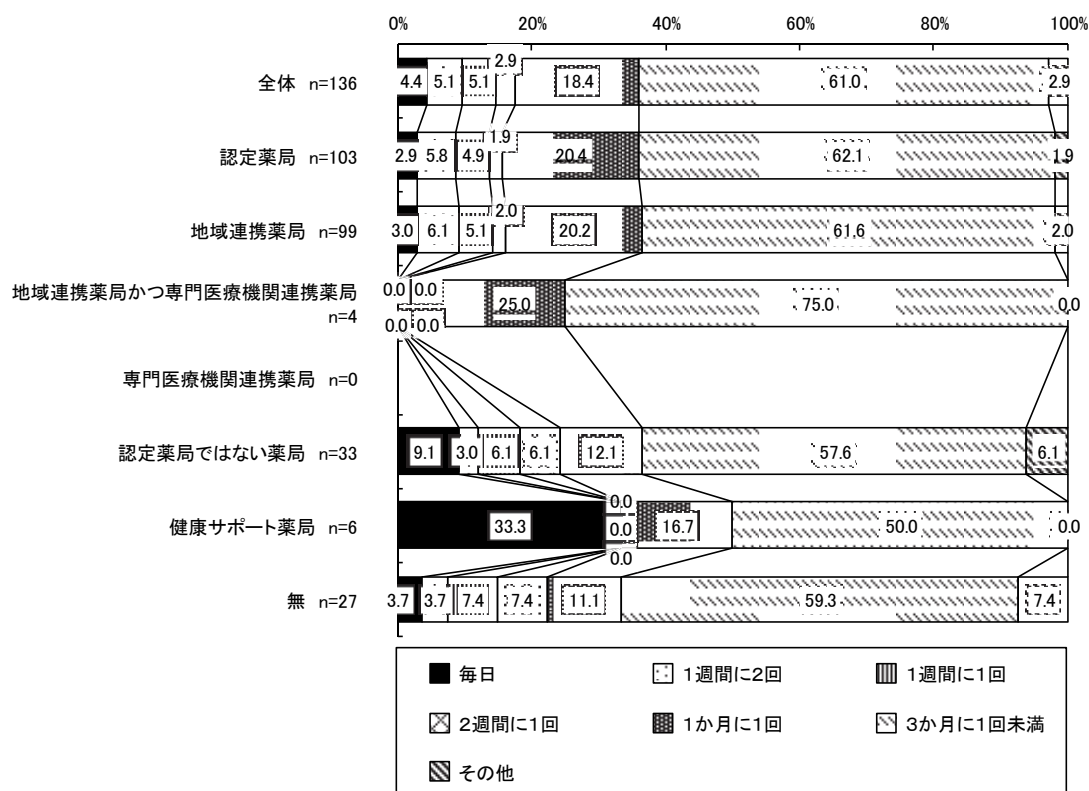
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・発生時
- ・その都度
- ・発生の都度、必要に応じて情報提供書を送付

5) 生活像や疾患に関する情報に関する連携や情報共有の頻度

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における生活像や疾患に関する情報に関する連携や情報共有の頻度については、全体では「3 か月に 1 回未満」が 61.0%で最も割合が高く、ついで「1 か月に 1 回」が 18.4%であった。

図表 52 生活像や疾患に関する情報に関する連携や情報共有の頻度（問 23-5）



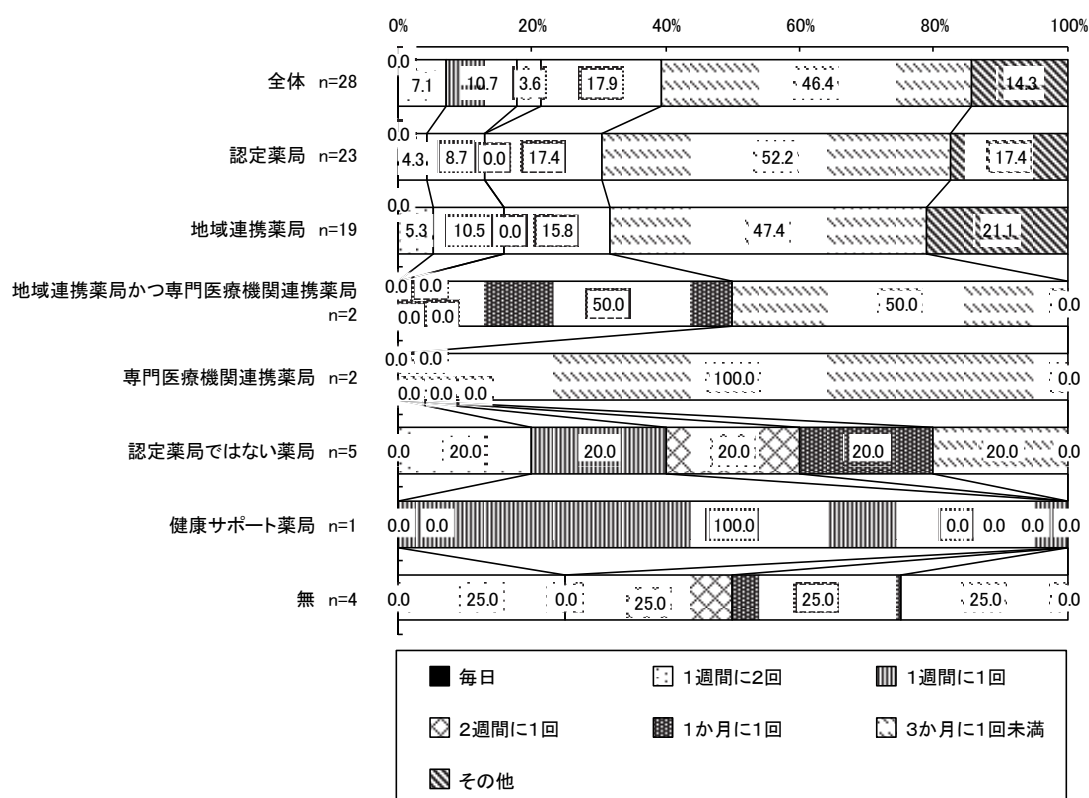
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・必要の都度
- ・お薬手帳から他薬局にかかりつけ薬剤師がいた時や、来局患者が他薬局との連携要請があったときなど
- ・系列店来局時

6) その他に関する連携や情報共有の頻度

6か月間（2021年9月～2022年2月）におけるその他に関する連携や情報共有の頻度については、全体では「3か月に1回未満」が46.4%で最も割合が高く、ついで「1か月に1回」が17.9%であった。

図表 53 その他に関する連携や情報共有の頻度（問 23-6）



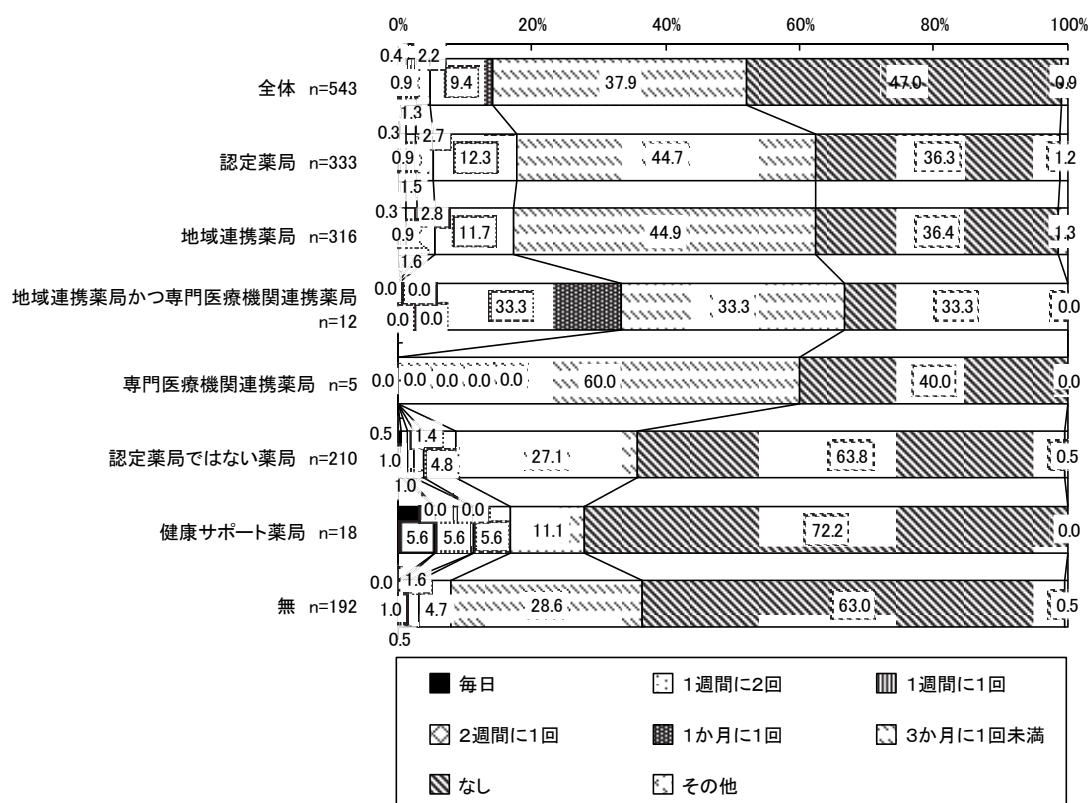
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・薬剤取り扱いリストの共有
- ・必要時
- ・不定期

7) 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況

6か月間（2021年9月～2022年2月の6か月間）における他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況については、全体では「なし」が47.0%で最も割合が高く、ついで「3か月に1回未満」が37.9%であった。

図表 54 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況（問 24）



※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・在宅への切り替え時
- ・臨時利用の薬局から求めがあり対応
- ・適合する患者さんがあればその都度なので頻度はその時による
- ・随時
- ・不定期

8) 医薬品の提供について求めがあった件数

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）において医薬品の提供について求めがあった件数の平均は、全体で 61.5 件であった。

図表 55 医薬品の提供について求めがあった件数（問 25-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	61.5	173.1	0	2483	10.0
認定薬局	333 61.3	83.0	209.8	0	2483	20.0
地域連携薬局	316 58.2	74.7	164.0	0	1800	20.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	306.8	677.8	0	2483	47.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	67.6	63.3	0	182	61.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	27.4	76.2	0	700	5.0
健康サポート薬局	18 3.3	16.9	18.2	0	60	10.0
無	192 35.4	28.4	79.4	0	700	5.0

9) 医薬品を提供した件数

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）において医薬品を提供した件数の平均は、全体で 50.5 件であった。

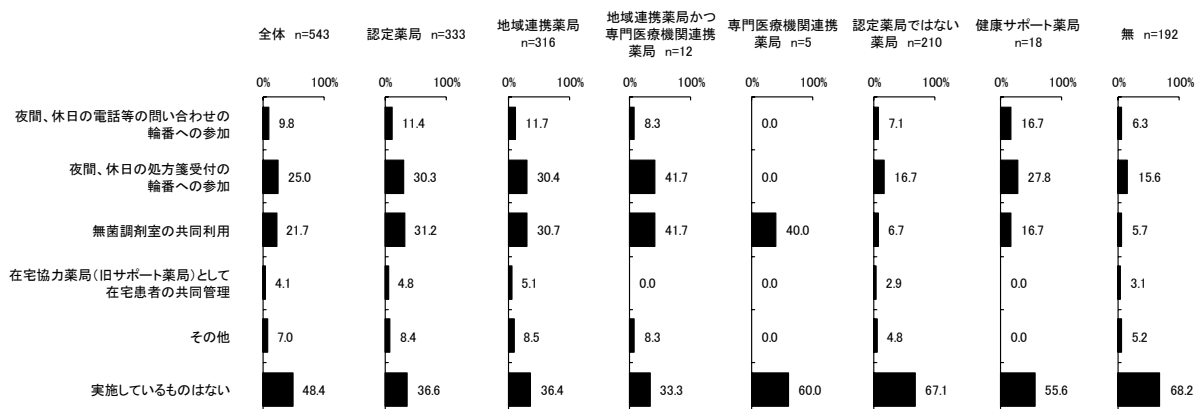
図表 56 医薬品を提供した件数（問 25-2）

	調査数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	543 100.0	50.5	9.0	157.4	0	2483
認定薬局	333 61.3	69.4	15.0	193.3	0	2483
地域連携薬局	316 58.2	61.2	15.0	140.4	0	1546
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	295.8	37.0	680.6	0	2483
専門医療機関連携薬局	5 0.9	50.6	57.0	45.0	0	122
認定薬局ではない薬局	210 38.7	20.5	4.0	58.0	0	530
健康サポート薬局	18 3.3	14.2	7.5	16.7	0	58
認定・健サポいずれも無し	192 35.4	21.1	3.5	60.4	0	530

10) 薬局間の連携として実施しているもの

薬局間の連携として実施しているもの（同一グループの薬局間で実施しているものは除く）については、全体では「実施しているものはない」が48.4%で最も割合が高く、ついで「夜間、休日の処方箋受付の輪番への参加」が25.0%、「無菌調剤室の共同利用」が21.7%であった。

図表 57 薬局間の連携として実施しているもの（問 26）【複数回答】



※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・DSU などの情報提供
- ・ラゲブリオ処方時の対応
- ・ラゲブリオ対応薬局として、夜間・休日の輪番制をとるグループに参加
- ・新型コロナ検査及び治療薬について
- ・依頼があった時のみ非常勤務している、他の薬局がある
- ・医薬品の小分け
- ・他薬局と医薬品の小分け
- ・小分け小売
- ・医薬品の譲受
- ・医薬品の提供
- ・医薬品の分譲
- ・利用者等に関する情報提供
- ・患者併用薬の確認
- ・患者の服用状況の共有
- ・患者の服薬情報を提供する旨をホームページ等を用いて周知している
- ・在庫の無い方の処方対応ができるかどうかの問合せ
- ・在庫の流通協力
- ・施設患者の引き継ぎ
- ・麻薬の小売業者間グループを申請している
- ・麻薬分譲
- ・無菌製剤室の紹介
- ・無菌調剤患者の紹介
- ・無菌調剤が必要な在宅患者の紹介
- ・無菌調剤発生時の紹介体制
- ・新興感染症の対応や、災害時の対応
- ・使用済み注射針回収事業
- ・近隣医療機関の採用薬情報共有
- ・薬事衛生自治指導員としての情報提供・共有
- ・薬剤師会を通しての質問事項回答
- ・輪番ではないが、他薬局の患者から、自分の薬局は夜間の対応をしていないという理由で、24時間対応の

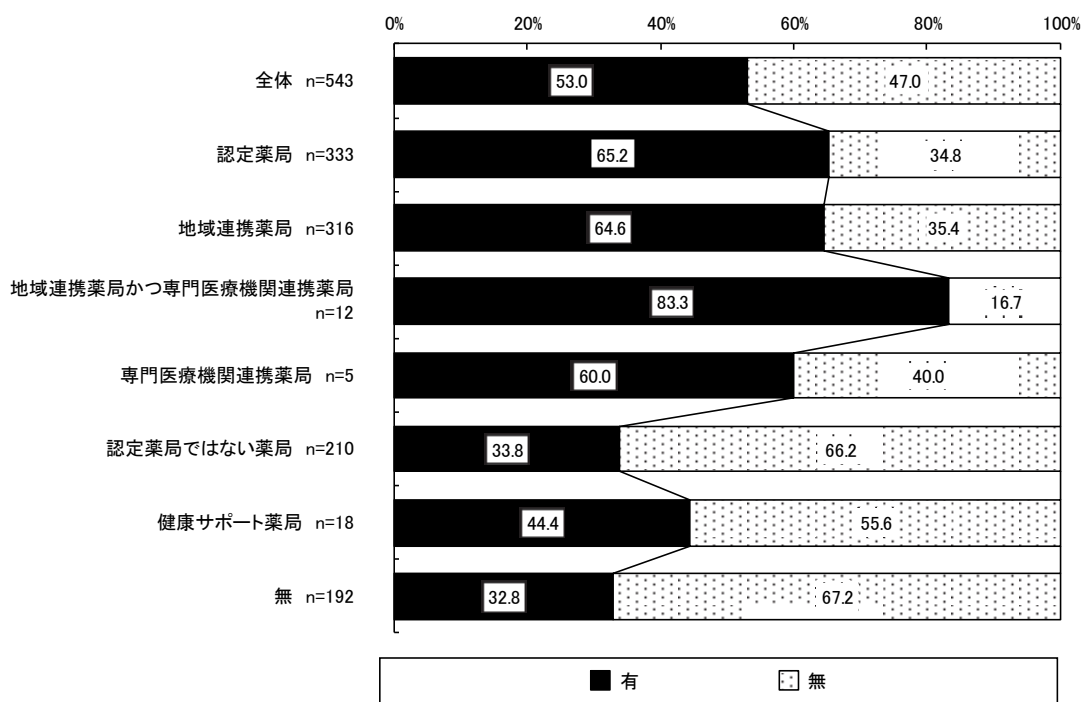
携帯電話に相談や質問されることがある

- ・医師会からの休日・夜間対応の依頼を薬剤師会が受け、薬剤師会委託事業として、地域における薬局輪番体制の代わりに救急医療の受け皿として年中無休、23時までの夜間開局している
- ・休日当番のお知らせ
- ・区の薬剤師会の休日当番
- ・地域の薬剤師会で運営している薬局の休日当番
- ・地域休日診療所への参画
- ・地域休日当番医療への参加
- ・夜間休日薬局の勤務
- ・薬剤師会が運営する夜間休日薬局への参加

11) 人生の最終段階（終末期）の利用者・患者への訪問薬剤管理指導の有無

6か月間（2021年9月～2022年2月）における人生の最終段階（終末期）の利用者・患者への訪問薬剤管理指導の実施有無については、「有」が全体で53.0%であった。

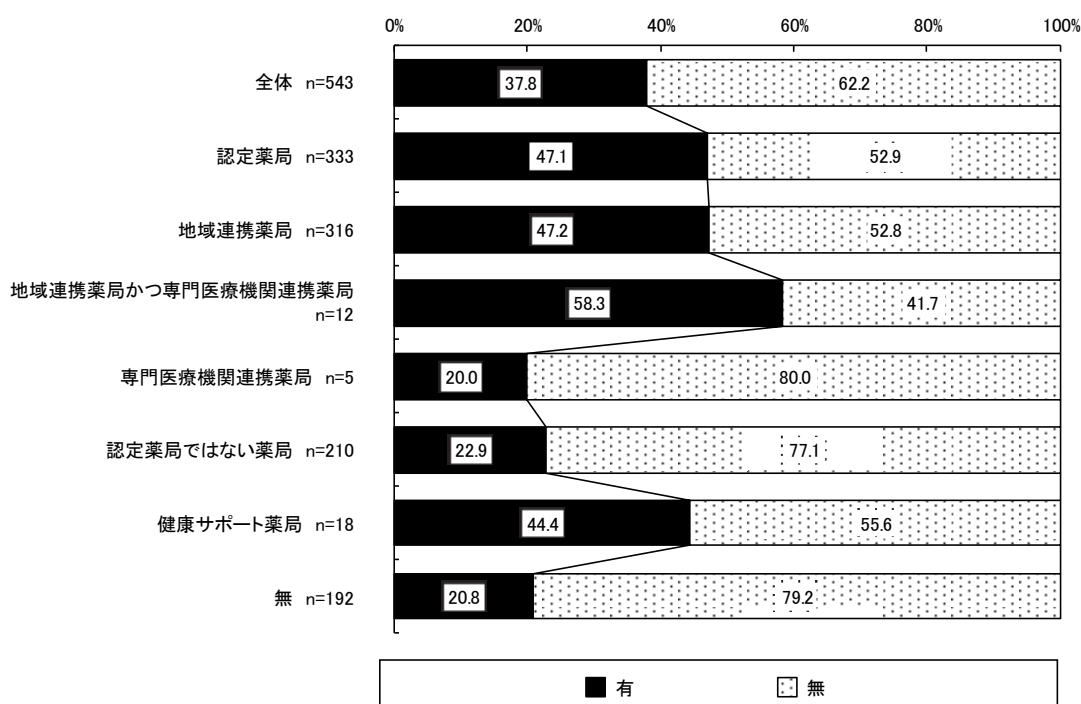
図表 58 人生の最終段階（終末期）の利用者・患者への訪問薬剤管理指導の実施有無（6か月間）（問 27-1）



12) 人生の最終段階（終末期）の利用者・患者や家族等との話し合いの場に参加した薬剤師の有無

6か月間（2021年9月～2022年2月）に人生の最終段階（終末期）の利用者・患者や家族等との話し合いの場に参加した薬剤師の有無については、「有」が全体で37.8%であった。

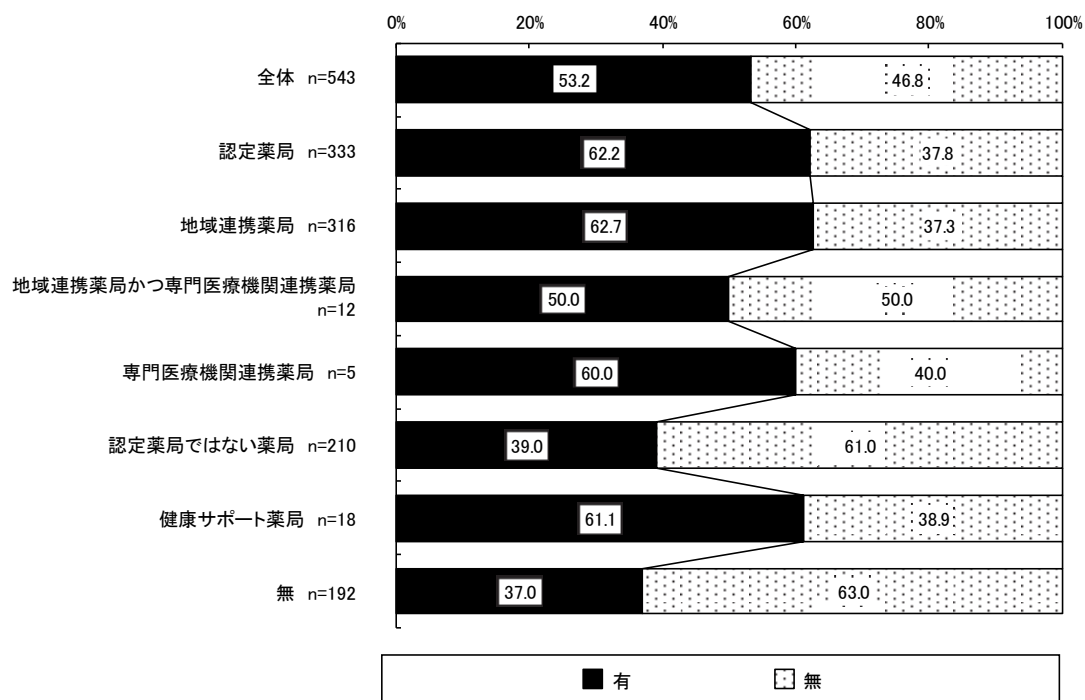
図表 59 人生の最終段階（終末期）の利用者・患者や家族等との話し合いの場に参加した薬剤師の有無（6か月間）（問 27-2）



13) 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績については、「有」が全体で 53.2%であった。

図表 60 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績（6 か月間）（問 28-1）



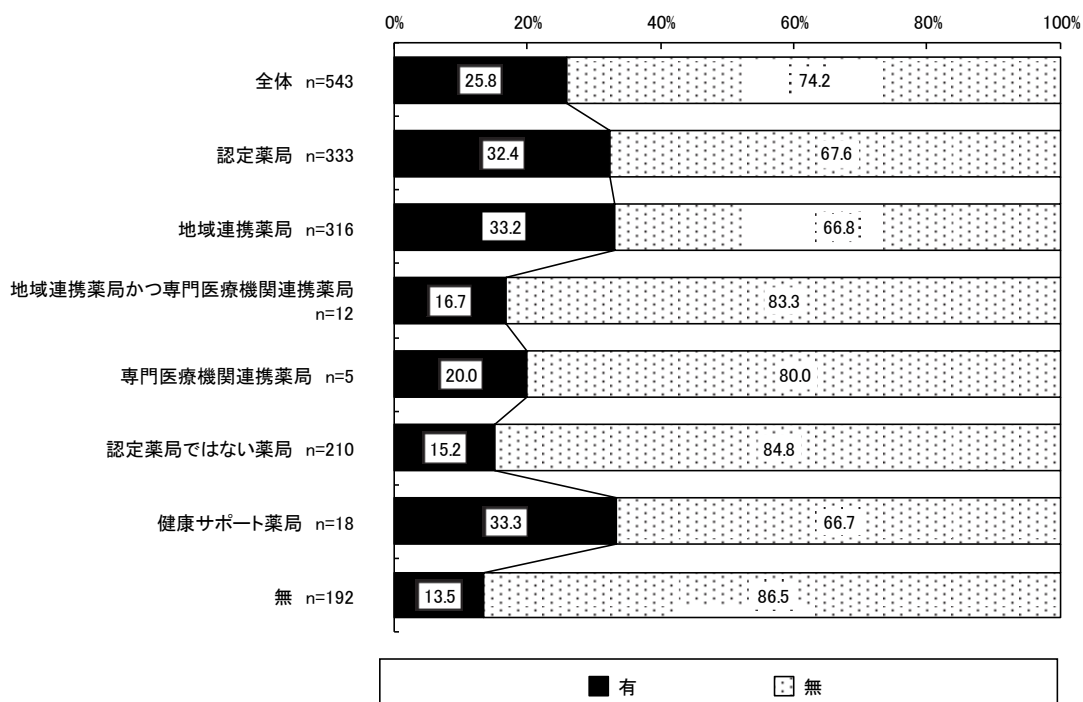
14) 訪問診療に関わる医療機関等への医療機器や衛生材料の提供実績

6 か月間（2021 年 9 月～2022 年 2 月）における訪問診療に関わる医療機関等への医療機器（※1）や衛生材料（※2）の提供実績については、「有」が全体で 25.8%であった。

※1：胃ろう・経管栄養チューブ、注射器・注射針、血圧計、気管カニューレ、シリンジポンプ、吸引カテーテルなど

※2：ガーゼ、脱脂棒、綿棒、絆創膏、包帯、使い捨て手袋など

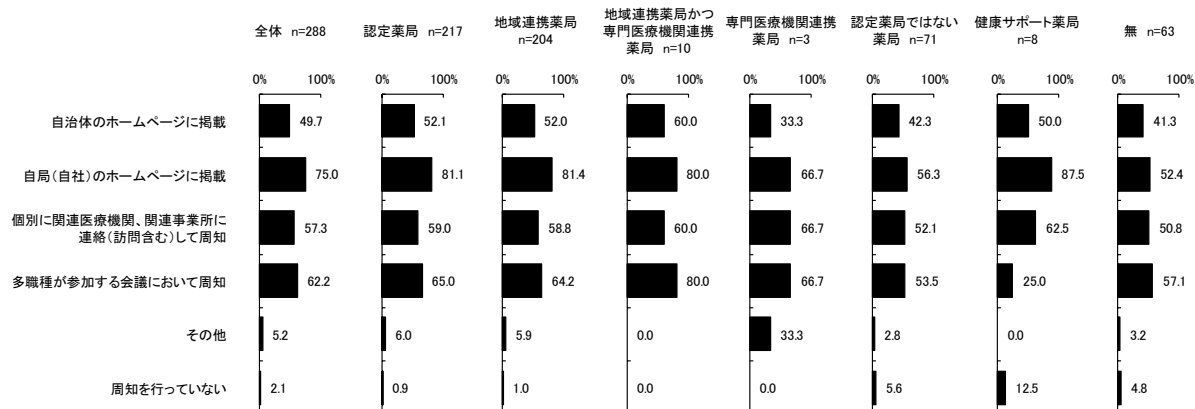
図表 61 訪問診療に関わる医療機関等への医療機器や衛生材料の提供実績（6 か月間）（問 28-2）



15) 訪問薬剤管理指導を行っている旨の周知方法

訪問薬剤管理指導を行っている旨の近隣医療機関や介護関係事業所等への周知方法については、全体では「自局（自社）のホームページに掲載」が75.0%で最も割合が高く、ついで「多職種が参加する会議において周知」が62.2%であった。

図表 62 訪問薬剤管理指導を行っている旨の周知方法（問 29）【複数回答】



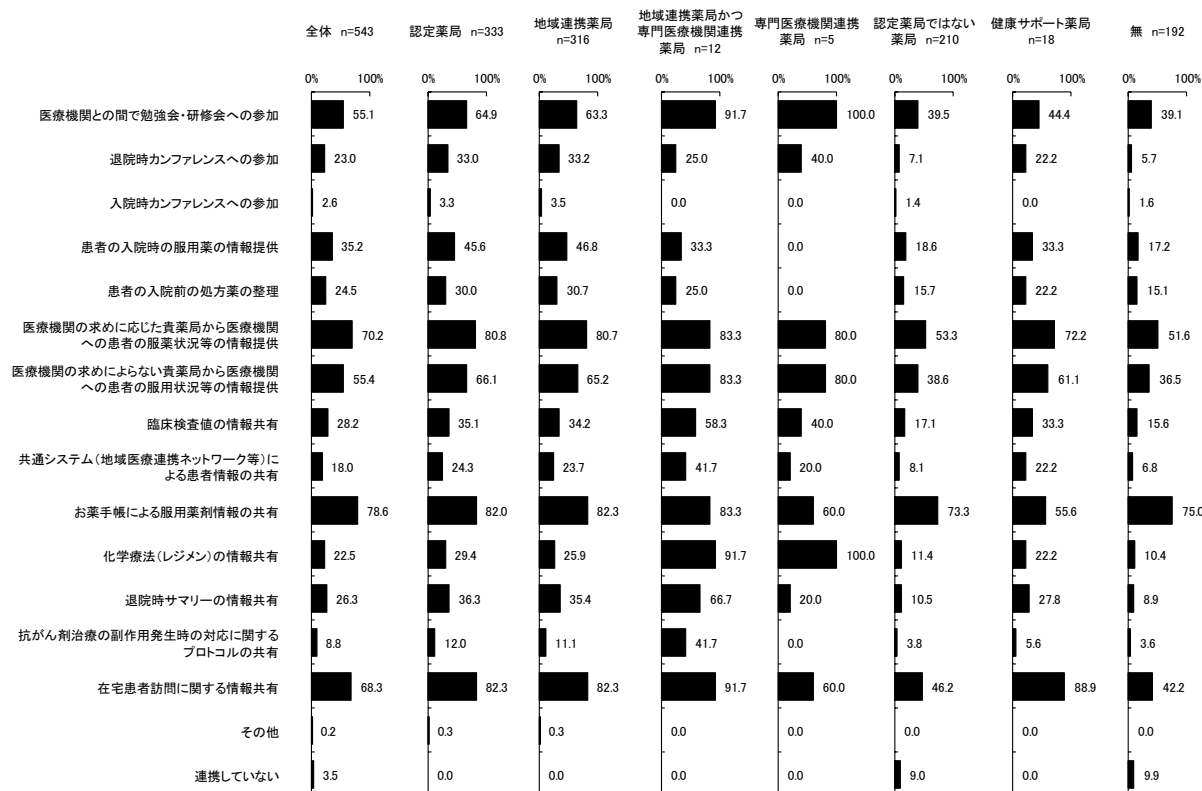
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・患者に渡しているお薬情報に在宅訪問服薬指導や居宅療養管理指導を行っている事と随時相談を受ける旨を記載している
- ・看板にて周知を実施している
- ・店頭及び店内にポスター掲示
- ・入り口に「在宅支援薬局」と表示
- ・薬局内外に掲示
- ・県が作成した薬局案内のホームページに掲載
- ・地域薬剤師会のホームページに掲載
- ・薬剤師会ホームページに掲載
- ・自治体と医師会が運営する在宅療養支援センターのホームページに掲載
- ・薬剤師会を通じて
- ・医師会に連絡し無菌調剤室設置の周知徹底

16) 医療機関との連携内容

医療機関との連携内容については、「お薬手帳による服用薬剤情報の共有」が78.6%で最も割合が高く、ついで「医療機関の求めに応じた貴薬局から医療機関への患者の服薬状況等の情報提供」が70.2%であった。

図表 63 医療機関との連携内容（問 30）【複数回答】



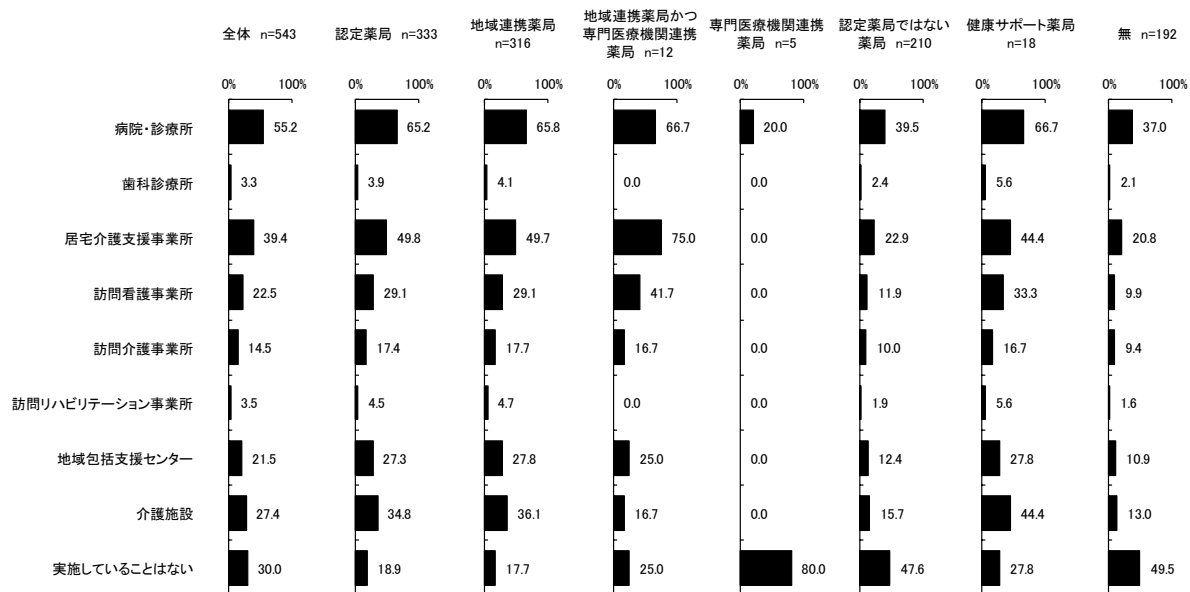
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・退院時処方と入院前処方の違いの精査と退院後に服用が必要な薬の調整（残薬調整や必要に応じて他医療機関の薬と退院時処方の薬との一包化調剤など）

17) 関わりのある事業所等

関わりのある事業所等については、全体では「病院・診療所」が55.2%で最も割合が高く、ついで「居宅介護支援事業所」が39.4%であった。

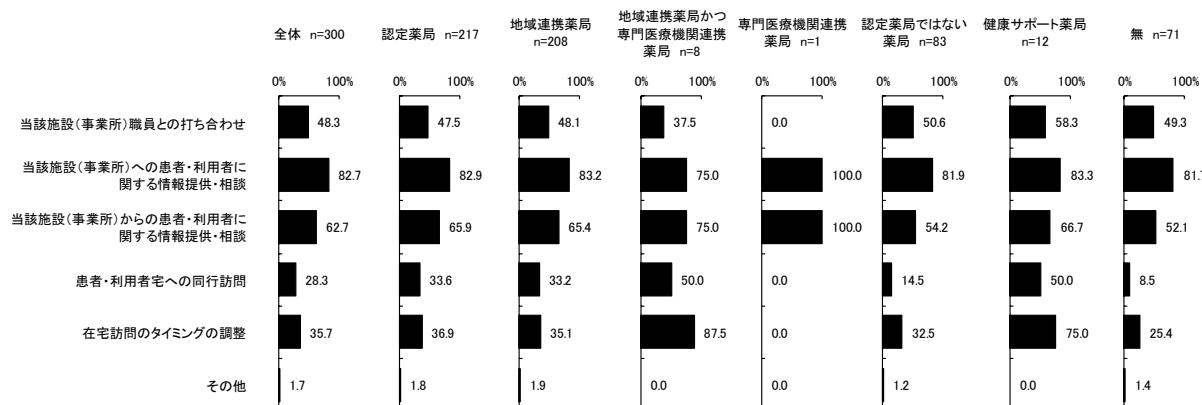
図表 64 関わりのある事業所等（問 31-1）【複数回答】



18) 病院・診療所と定期的実施していること

病院・診療所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が82.7%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が62.7%であった。

図表 65 病院・診療所と定期的実施していること（問 31-2）【複数回答】



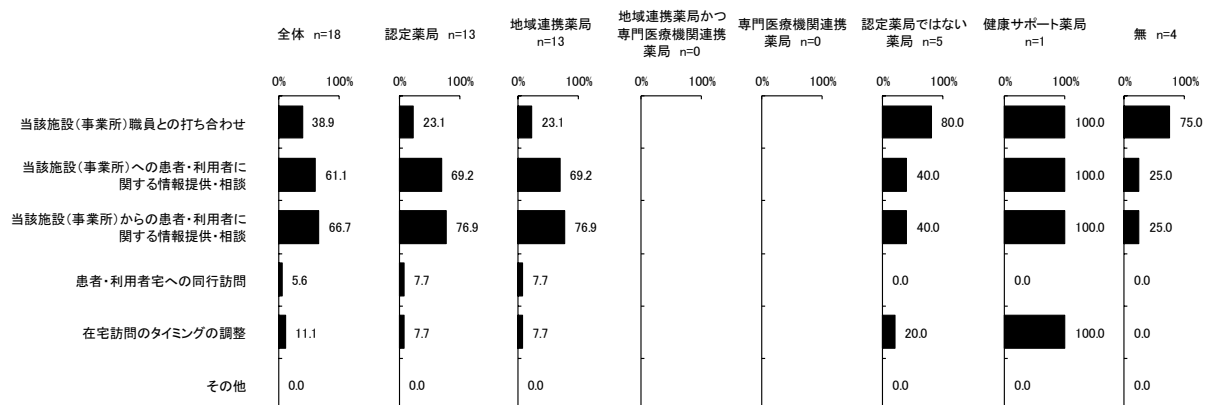
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・介護施設での医療機関診療時の同行
- ・患者や医薬品情報の提供等
- ・在宅訪問開始前の薬剤師訪問を行っている。訪問の意味や患者や家族との関係づくり、残薬の把握、薬剤師がバイタルサインも収集する事の説明など
- ・病院からの依頼で、透析患者様の残薬確認及び処方内容調整の為の打ち合わせ
- ・薬剤の欠品状況、在庫状況等

19) 歯科診療所と定期的実施していること

歯科診療所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が66.7%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が61.1%であった。

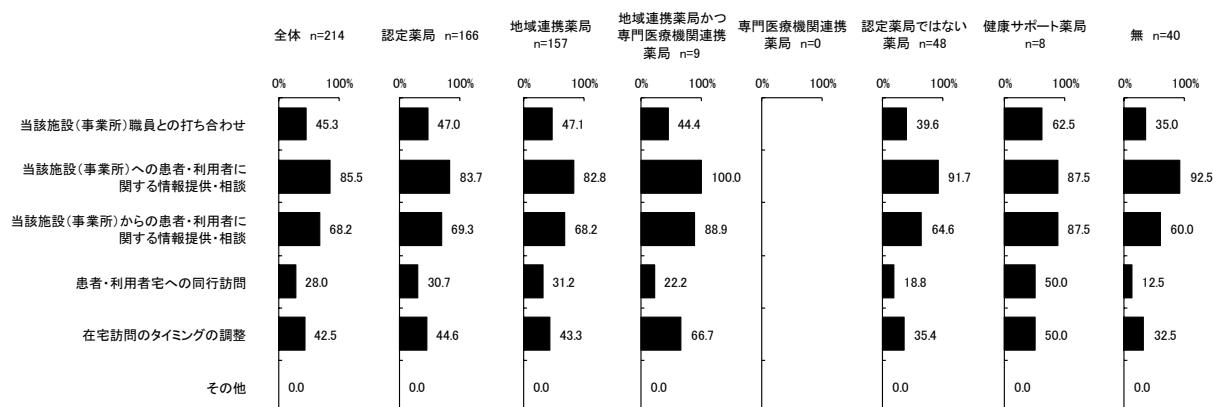
図表 66 歯科診療所と定期的実施していること（問 31-3）【複数回答】



20) 居宅介護支援事業所と定期的実施していること

居宅介護支援事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が85.5%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が68.2%であった。

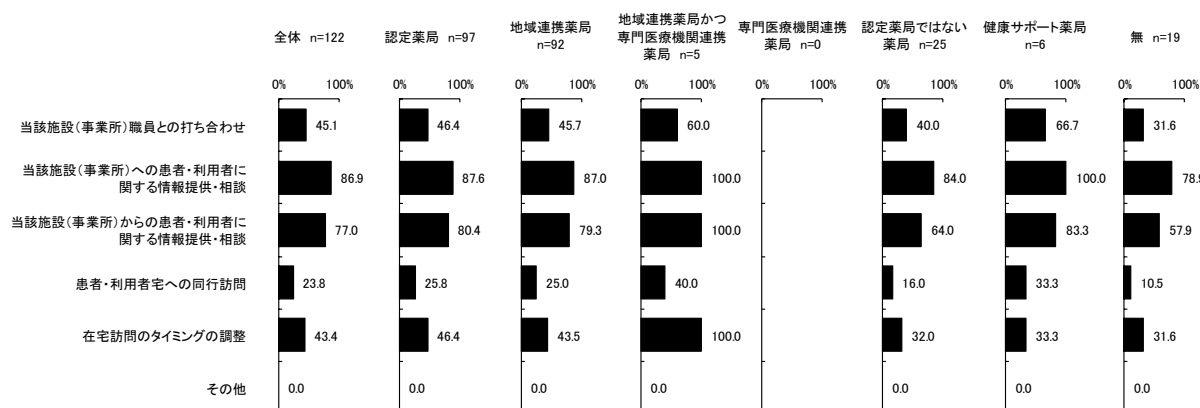
図表 67 居宅介護支援事業所と定期的実施していること（問 31-4）【複数回答】



21) 訪問看護事業所と定期的に実施していること

訪問看護事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が86.9%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が77.0%であった。

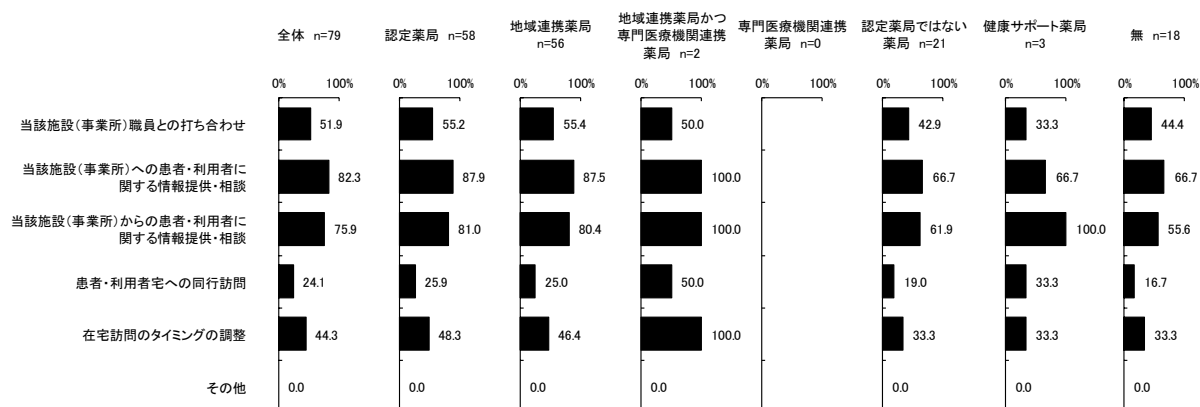
図表 68 訪問看護事業所と定期的に実施していること（問 31-5）【複数回答】



22) 訪問介護事業所と定期的に実施していること

訪問介護事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が82.3%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が75.9%であった。

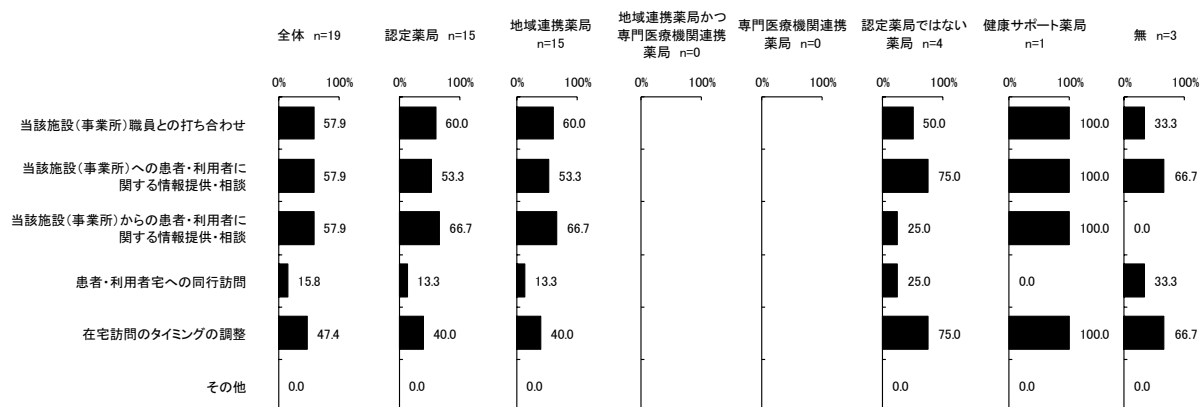
図表 69 訪問介護事業所と定期的に実施していること（問 31-6）【複数回答】



23) 訪問リハビリテーション事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していること

訪問リハビリテーション事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）職員との打ち合わせ」、「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」、「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」がそれぞれ57.9%で最も割合が高く、ついで「在宅訪問のタイミングの調整」が47.4%であった。

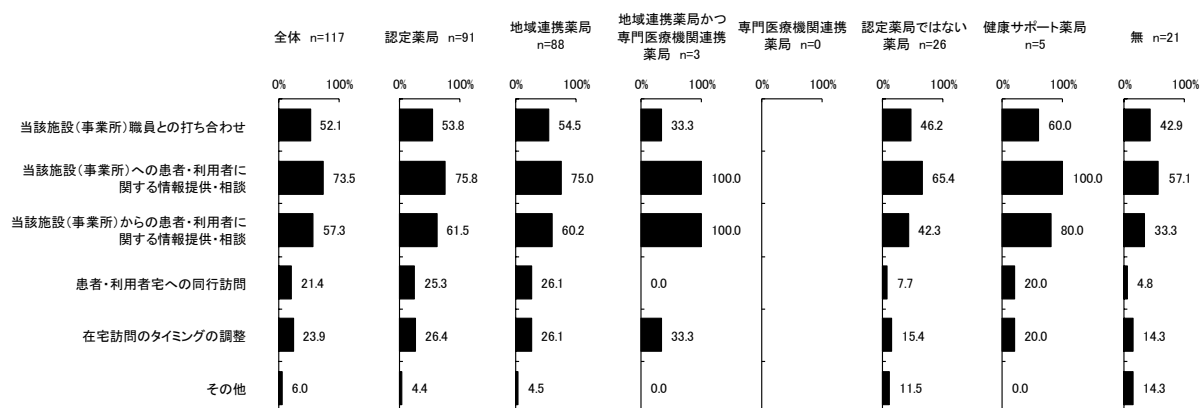
図表 70 訪問リハビリテーション事業所と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していること（問 31-7）【複数回答】



24) 地域包括支援センターと定期的を実施していること

地域包括支援センターと定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が73.5%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が57.3%であった。

図表 71 地域包括支援センターと定期的を実施していること（問 31-8）【複数回答】



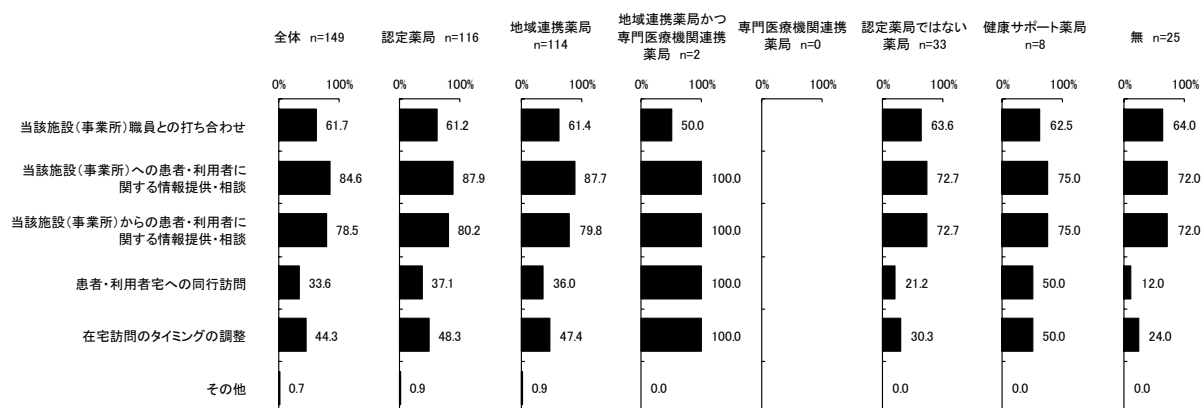
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・在宅患者のケアプランの連絡
- ・訪問指導報告書の送付
- ・地域ケア会議
- ・地域セミナーへの参加
- ・地域での患者を特定しないケアカンファレンス
- ・地域活動の場所提供
- ・地域イベントの共催
- ・認知症カフェの開催

25) 介護施設と定期的実施していること

介護施設と定期的（概ね1か月に1度以上）に実施していることについては、全体では「当該施設（事業所）への患者・利用者に関する情報提供・相談」が84.6%で最も割合が高く、ついで「当該施設（事業所）からの患者・利用者に関する情報提供・相談」が78.5%であった。

図表 72 介護施設と定期的実施していること（問 31-9）【複数回答】



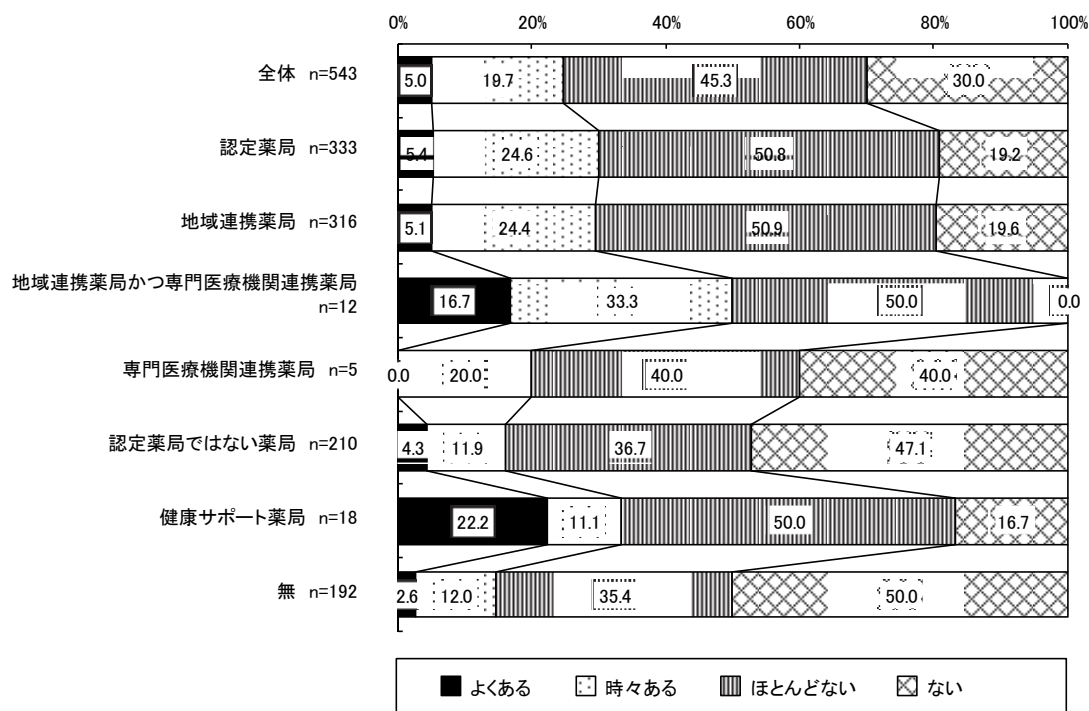
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・施設へのお薬対応

26) 行政の福祉系部局との連携の頻度

行政の福祉系部局（介護部局、障害福祉部局等）との連携の頻度（市町村事業への参加含む）については、全体では「ほとんどない」が45.3%で最も割合が高く、ついで「ない」が30.0%であった。

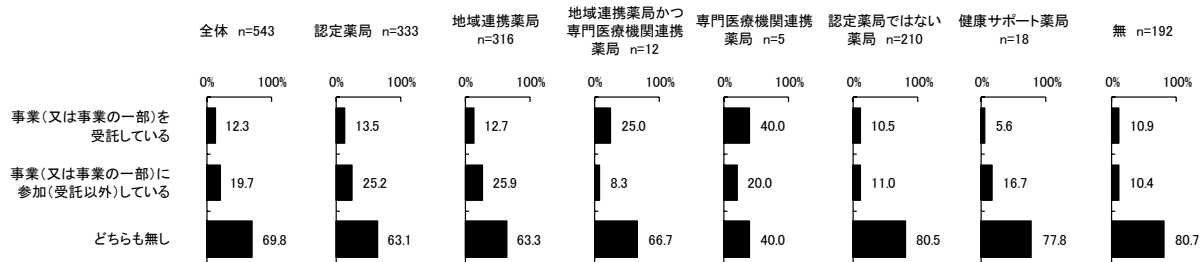
図表 73 行政の福祉系部局との連携の頻度（問 32）



27) 都道府県や市区町村が実施する事業の受託や参加の状況

都道府県や市区町村が実施する事業の受託や参加の状況については、全体では「どちらも無し」が 69.8%で最も割合が高く、ついで「事業（又は事業の一部）に参加（受託以外）している」が 19.7%であった。

図表 74 都道府県や市区町村が実施する事業の受託や参加の状況（問 33）



※ 受託している事業名の主な回答は以下の通り。

【新型コロナ関連】

- ・Cov 自宅配達対応薬局
- ・PCR 等検査事業
- ・PCR 等無料検査事業
- ・抗原検査無料化事業
- ・コロナワクチン接種業務
- ・新型コロナワクチン充填事業
- ・コロナワクチンの医療機関への配送
- ・コロナワクチンの集団接種会場への参加
- ・新型コロナウイルスワクチン集団接種ワクチン充填業務
- ・コロナ経口薬対応薬局
- ・コロナ陽性患者への薬剤交付事業
- ・新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設にかかる薬剤の調剤及び配送
- ・薬剤交付支援事業
- ・薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業
- ・パキロピッドの試用期間の連携
- ・ラゲブリオ基幹薬局
- ・ラゲブリオ供給薬局
- ・ラゲブリオ交付事業
- ・ラゲブリオ対応薬局
- ・ワクチン検査パッケージ事業
- ・ワクチン検査パッケージとラゲブリオの常備
- ・ワクチン検査パッケージに係る検査無料化事業

【その他薬剤、医療関連】

- ・DEM（薬剤イベントモニタリング）
- ・DOTS
- ・ICT 運営委員会
- ・安定ヨウ素剤薬局配布事業
- ・抗 HIV 薬配備事業
- ・重複多剤服薬支援事業
- ・腎不全研究
- ・先天性血液凝固因子障害等医療給付
- ・認定薬局整備支援事業
- ・学校薬剤師
- ・応急診療所
- ・休日診療所

- ・休日調剤開局薬局
- ・休日夜間診療所薬剤師業務
- ・平日夜間応急こどもクリニック
- 【配布、支給事業】
- ・ストマ用器具、紙オムツ等の給付事業
- ・母子栄養ミルクの支給
- 【災害対策】
- ・災害医薬備蓄品事業
- ・災害対策協議会
- ・災害薬事コーディネーター
- 【健康管理】
- ・ハイリスクアプローチ
- ・フレイルチェック
- ・フレイル予防
- ・ポピュレーションアプローチ
- ・健康マイレージ
- ・心電図測定、血圧測定
- ・物忘れチェック
- 【地域特定事業】
- ・旭川市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・無理のない卒煙講座(伊豆市健康支援課)。卒煙講座のサポート薬局として毎年参加
- ・茨城県肝炎治療費助成事業
- ・茨城県安定ヨウ素剤事前配布事業
- ・在宅医療廃棄物回収(愛媛県松山市)
- ・春日部市 災害用医薬品備蓄事業
- ・神戸市紙おむつ支給事業
- ・神奈川県特定疾患医療給付
- ・四国4県ヘルプマーク普及啓発事業
- ・すみだ多職種連携会
- ・墨田区管理栄養士派遣事業
- ・多摩市糖尿病性腎症重症化予防事業
- ・沼津市家族介護用品支給事業
- ・練馬区薬剤交付事業
- ・ひたちなか市安定ヨウ素剤事前配布事業
- ・ひたちなか市節薬バッグ配布事業
- ・松山市禁煙ぞなもし松山協力施設
- ・松山市健康づくり応援パートナー登録施設
- ・南小国町家族介護用品支給事業
- 【その他】
- ・エンディングノート推進委員会
- ・介護認定審査会
- ・在宅介護対応薬局
- ・地域包括ケアワーキング部会
- ・地域包括センターと連携を取って情報共有している
- ・入退院支援ルール作成
- ・薬剤師会の窓口
- ・行方不明高齢者探してメール

※ 参加している事業名の主な回答は以下の通り。

- 【新型コロナ関連】
- ・CoV 自宅療養患者への対応
- ・PCR等無料検査事業
- ・無料抗原検査事業
- ・抗原検査キット助成事業
- ・ワクチン検査パッケージ事業
- ・新型コロナウイルス検査促進事業

- ・新型コロナウイルス感染症検査無料化事業
- ・新型コロナウイルスワクチンの集団接種にかかる希釈・分取作業
- ・新型コロナウイルスワクチン充填協力業務
- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業
- ・コロナワクチン接種補助
- ・コロナワクチン大規模接種
- ・コロナワクチン調製事業
- ・休日・夜間新型コロナウイルス感染症対応薬局輪番参加
- ・コロナ輪番への参加等
- ・新型コロナウイルス感染症自宅療養者対応報償金支給事業
- ・新型コロナ検査及び治療薬の提供
- ・ラゲブリオの対応薬局
- ・ラゲブリオ、バキロビッド対応
- ・定着促進事業
- ・自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業
- 【その他薬剤、医療関連】
- ・3歳児健診
- ・DOTS
- ・TDM
- ・薬の週間
- ・オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤
- ・ポリファーマシー事業
- ・お薬個別相談会
- ・医介連携事業
- ・肝炎コーディネーター
- ・休日診療
- ・休日夜間調剤事業
- ・夜間急病センター
- ・国保ポリファーマシー解消事業（薬剤師による保健指導）
- ・在宅医療介護連携推進事業
- ・離島の薬剤配送について
- ・使用済み注射針回収事業
- 【健康管理】
- ・フレイルチェック実施業務
- ・健康相談コーナーなど
- ・献血サポート薬局
- ・特定健診受診サポート事業
- ・薬物乱用防止活動
- 【地域特定事業】
- ・社協との健康フェア共催
- ・見守り事業（ひまわりホルダー）
- ・介護支援券、いきいきバスチケット販売
- ・朝霞市コロナワクチン接種事業
- ・茨城県薬剤耐性対策推進事業
- ・茨城県救急車適正使用の周知活動
- ・茨城県新型コロナウイルス陽性者への聞き取り調査事業
- ・えどがわ毎日ごはん
- ・大阪府アスマイル事業
- ・大田圏域地域連携対策会議
- ・大田市認知症ネットワーク協議会
- ・大田食支援研究会
- ・岡山市地域包括ケア推進課と連携してフレイルチェック実地機関
- ・春日井市コロナウイルス家族内感染予防事業
- ・元気フェスタ健康まつど 21
- ・健康長寿とちぎ
- ・坂戸市高齢者見守りネットワーク

- ・島根県高次脳機能障がい者支援事業
- ・吹田市健康づくり財団
- ・世田谷区の抗原検査キットの無料配布事業
- ・多摩市介護認定審査会
- ・多摩市国民健康保険運営協議会
- ・多摩市学校薬剤師
- ・多摩市在宅医療・介護連携推進協議会研修部会
- ・立川市糖尿病性腎症重症化プログラム
- ・ひたちなか市夜間休日診療事業
- ・東広島市委託事業（地域包括ケア推進課、障害福祉課、医療保健課）
- ・枕崎市市民健康講座
- ・目黒区薬剤師会主催のワクチン分注業務
- ・山口県健康エキスパート薬剤師
- ・山梨県新型コロナウイルス感染症無料検査
- ・和光市コロナワクチン接種事業

【その他】

- ・おむつ配達
- ・介護認定審査会
- ・介護保険策定事業
- ・高齢者見守りネットワーク
- ・高齢者見守り事業
- ・高齢者総合対策懇談会
- ・国民健康保険運営協議会
- ・第2層協議体
- ・地域見守りネットワーク
- ・地域包括ケアシステム
- ・地域包括ケア会議
- ・地域包括運営協議会
- ・地域密着型サービス運営委員会
- ・認知症カフェ
- ・認知症ケア会議
- ・認知症サポート事業
- ・認知症初期集中支援チーム、地域ケア会議、重複事業など
- ・認知症専門部会
- ・認知症短期集中チーム
- ・迷い人探し

(4) フォローアップ等の状況

1) 調剤後のフォローアップ実施患者数

調剤後のフォローアップ実施患者数（2021年12月～2022年2月の3か月における月平均）の平均は、全体で17.9人／月であった。

図表 75 調剤後のフォローアップ実施患者数（月平均人数）（問 34-1）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	541 100.0	17.9	43.4	0	453	5.0
認定薬局	332 61.4	24.4	49.2	0	453	10.0
地域連携薬局	315 58.2	23.4	47.4	0	453	10.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	43.9	78.8	3	296	14.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	43.4	53.4	12	150	20.0
認定薬局ではない薬局	209 38.6	7.6	29.4	0	400	2.0
健康サポート薬局	18 3.3	16.8	18.7	0	70	10.0
無	191 35.3	6.7	30.1	0	400	2.0

2) 患者1人あたりのフォローアップ回数

患者1人あたりのフォローアップ回数(2021年12月～2022年2月の3か月における月平均)の平均は、全体で5.3回/月であった。

図表 76 患者1人あたりのフォローアップ回数(問 34-2)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	535 100.0	5.3	15.9	0	200	1.0
認定薬局	328 61.3	7.4	19.7	0	200	1.0
地域連携薬局	311 58.1	7.6	20.2	0	200	1.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	3.1	5.2	1	20	1.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	3.2	4.4	1	12	1.0
認定薬局ではない薬局	207 38.7	2.0	4.1	0	32	1.0
健康サポート薬局	18 3.4	1.8	1.8	0	8	1.0
無	189 35.3	2.0	4.2	0	32	1.0

3) フィードバック回数

フィードバック回数（2021年12月～2022年2月の3か月における月平均）の平均は、全体で6.1回/月であった。

図表 77 フィードバック回数（問 34-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	536 100.0	6.1	15.9	0	172	1.0
認定薬局	329 61.4	8.1	16.8	0	172	2.0
地域連携薬局	312 58.2	7.3	14.0	0	100	2.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	28.1	47.0	1	172	11.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	10.8	9.1	1	25	12.0
認定薬局ではない薬局	207 38.6	2.8	13.9	0	160	0.0
健康サポート薬局	18 3.4	2.4	3.3	0	10	1.0
無	189 35.3	2.8	14.5	0	160	0.0

4) 日程調整も含めた1回のフォローアップに要する平均時間

月に1回以上、フォローアップを行っている場合における日程調整も含めた1回のフォローアップに要するおおよその平均時間の平均は、全体で9.3分であった。

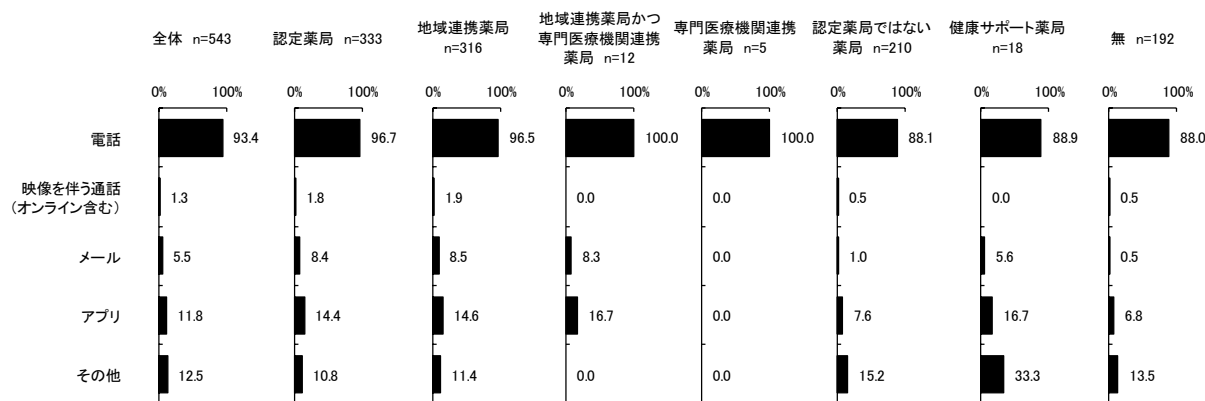
図表 78 日程調整も含めた1回のフォローアップに要する平均時間（問 35）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	447 100.0	9.3	8.2	1	80	5.0
認定薬局	307 68.7	9.2	8.2	1	80	5.0
地域連携薬局	290 64.9	9.0	8.1	1	80	5.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.7	12.2	8.6	3	30	10.0
専門医療機関連携薬局	5 1.1	13.2	12.7	3	38	10.0
認定薬局ではない薬局	140 31.3	9.5	8.3	1	60	5.0
健康サポート薬局	16 3.6	11.8	8.5	2	30	10.0
無	124 27.7	9.2	8.2	1	60	5.0

5) フォローアップの実施方法

フォローアップの実施方法については、全体では「電話」が93.4%で最も割合が高く、ついで「その他」が12.5%であった。

図表 79 フォローアップの実施方法（問 36）【複数回答】



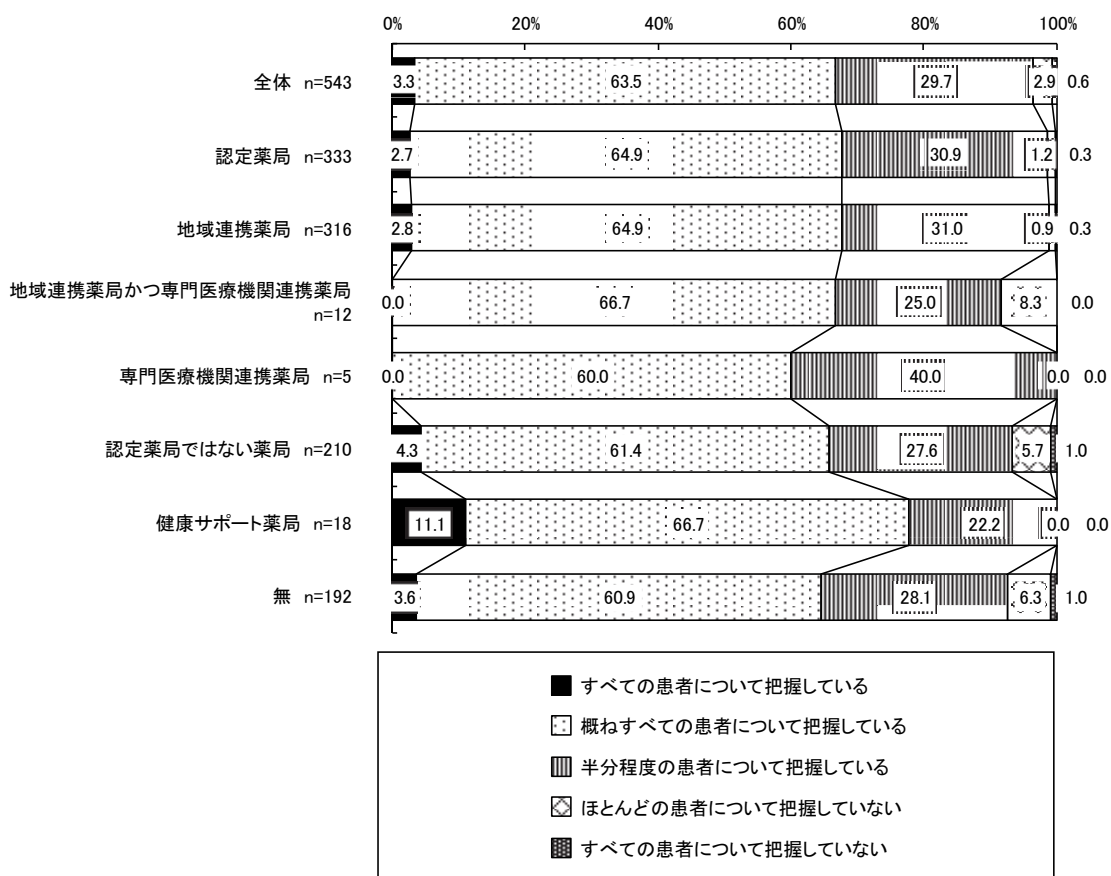
※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・ FAX
- ・ LINE
- ・ ドラッグストアへの来店時
- ・ 調剤以外での来店時
- ・ 買い物来店時
- ・ 他科受診時の来局、患者家族の別の来局時
- ・ 近所に住む患者が直接来局された時に対面にて
- ・ 在宅訪問時
- ・ 自宅訪問
- ・ 自宅訪問などの対面
- ・ 訪問診療同行時
- ・ 糖尿病の薬変更後には電話で。薬を全く飲もうとしない患者がおり、それは自宅訪問し、服用させている
- ・ 介護施設、患者様宅等へ直接訪問してフォローアップ
- ・ 介護施設訪問時
- ・ 施設訪問時
- ・ 面談
- ・ 家族に確認
- ・ 文書と直接訪問
- ・ 情報提供書作成
- ・ 健康相談をしている
- ・ 調剤後のフォローアップに対して、適当な患者がいない
- ・ 実施していない
- ・ 未実施

6) 患者の受診医療機関数の把握状況

患者の受診医療機関数の把握状況については、全体では「概ねすべての患者について把握している」が63.5%で最も割合が高く、ついで「半分程度の患者について把握している」が29.7%であった。

図表 80 患者の受診医療機関数の把握状況（問 37）



(5) 新型コロナウイルス感染症対応等の状況

1) 処方箋受付回数 (0410 対応分)

3 か月間 (2021 年 12 月～2022 年 2 月) における、0410 対応※にかかる処方箋受付回数の平均は、全体で 22.5 回であった。

※令和 2 年 4 月 10 日事務連絡 ((厚生労働省医政局医事課、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課) 新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて) に基づき、薬局において電話や情報通信機器による情報の提供及び指導を行うこと

図表 81 処方箋受付回数 (0410 対応分) (3 か月間) (問 38-1)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	22.5	63.4	0	900	8.0
認定薬局	333 61.3	30.3	78.0	0	900	10.0
地域連携薬局	316 58.2	29.6	76.4	0	900	10.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	53.3	120.4	2	450	17.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	19.2	21.8	0	60	17.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	10.2	21.9	0	243	4.0
健康サポート薬局	18 3.3	12.4	11.5	0	30	9.0
無	192 35.4	10.0	22.6	0	243	4.0

2) 処方箋受付回数（新型コロナウイルス感染者のうち自宅療養中の患者分）

3か月間（2021年12月～2022年2月）における、新型コロナウイルスへの感染者のうち自宅療養中の患者にかかる処方箋受付回数の平均は、全体で14.1回であった。

図表 82 処方箋受付回数（新型コロナウイルス感染者のうち自宅療養中の患者分）（3か月間）
（問 38-2）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	14.1	37.2	0	500	3.0
認定薬局	333 61.3	16.6	40.0	0	500	5.0
地域連携薬局	316 58.2	17.0	41.0	0	500	5.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	6.7	5.9	0	16	4.5
専門医療機関連携薬局	5 0.9	15.2	18.2	0	43	2.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	10.1	31.8	0	300	1.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.7	1.2	0	4	0.0
無	192 35.4	11.0	33.2	0	300	1.0

3) 処方箋受付回数（新型コロナウイルス感染者のうち宿泊療養中の患者分）

3か月間（2021年12月～2022年2月）における、新型コロナウイルスへの感染者のうち宿泊療養中の患者にかかる処方箋受付回数の平均は、全体で1.2回であった。

図表 83 処方箋受付回数（新型コロナウイルス感染者のうち宿泊療養中の患者分）（3か月間）
（問 38-3）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	1.2	21.5	0	500	0.0
認定薬局	333 61.3	1.9	27.5	0	500	0.0
地域連携薬局	316 58.2	2.0	28.2	0	500	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	2.1	3.7	0	12	0.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	0.0	0.0	0	0	0.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	0.2	0.9	0	10	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.0	0.0	0	0	0.0
無	192 35.4	0.2	0.9	0	10	0.0

4) 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（0410 対応分）

3 か月間（2021 年 12 月～2022 年 2 月）における、0410 対応にかかる電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患者訪問も含む）の平均は、全体で 13.6 回であった。

図表 84 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（0410 対応分）（3 か月間）（問 38-4）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	13.6	59.0	0	900	1.0
認定薬局	333 61.3	18.9	73.7	0	900	2.0
地域連携薬局	316 58.2	17.8	71.5	0	900	2.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	49.6	121.7	0	450	6.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	14.6	18.7	0	50	5.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	5.2	16.1	0	189	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	5.2	7.2	0	30	3.0
無	192 35.4	5.2	16.7	0	189	0.0

5) 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（新型コロナウイルス感染者のうち自宅療養中の患者分）

3 か月間（2021 年 12 月～2022 年 2 月）における、新型コロナウイルス感染者のうち自宅療養中の患者分にかかる電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患家訪問も含む）の平均は、全体で 11.4 回であった。

図表 85 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患家訪問も含む）
（新型コロナウイルス感染者のうち自宅療養中の患者分）（3 か月間）（問 38-5）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	11.4	33.3	0	500	2.0
認定薬局	333 61.3	14.2	38.6	0	500	3.0
地域連携薬局	316 58.2	14.5	39.5	0	500	3.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	6.3	6.1	0	16	4.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	15.2	18.2	0	43	2.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	7.0	22.0	0	212	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.7	1.2	0	4	0.0
無	192 35.4	7.6	22.9	0	212	0.0

6) 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患家訪問も含む）（新型コロナウイルス感染者のうち宿泊療養中の患者分）

3 か月間（2021 年 12 月～2022 年 2 月）における、新型コロナウイルス感染者のうち宿泊療養中の患者分にかかる電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患家訪問も含む）の平均は、全体で 1.1 回であった。

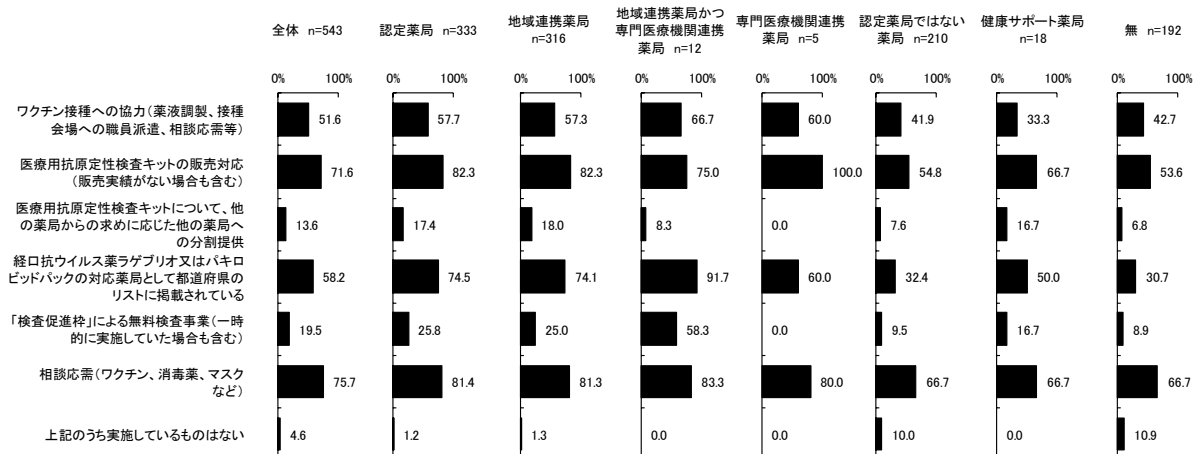
**図表 86 電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患家訪問も含む）
（新型コロナウイルス感染者のうち宿泊療養中の患者分）（3 か月間）（問 38-6）**

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	1.1	21.5	0	500	0.0
認定薬局	333 61.3	1.8	27.4	0	500	0.0
地域連携薬局	316 58.2	1.9	28.2	0	500	0.0
地域連携薬局かつ専門医療機関連携薬局	12 2.2	0.8	1.9	0	7	0.0
専門医療機関連携薬局	5 0.9	0.0	0.0	0	0	0.0
認定薬局ではない薬局	210 38.7	0.1	0.5	0	5	0.0
健康サポート薬局	18 3.3	0.0	0.0	0	0	0.0
無	192 35.4	0.1	0.5	0	5	0.0

7) 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施していること

新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施していることについては、全体では「相談応需（ワクチン、消毒薬、マスクなど）」が75.7%で最も割合が高く、ついで「医療用抗原定性検査キットの販売対応（販売実績がない場合も含む）」が71.6%であった。

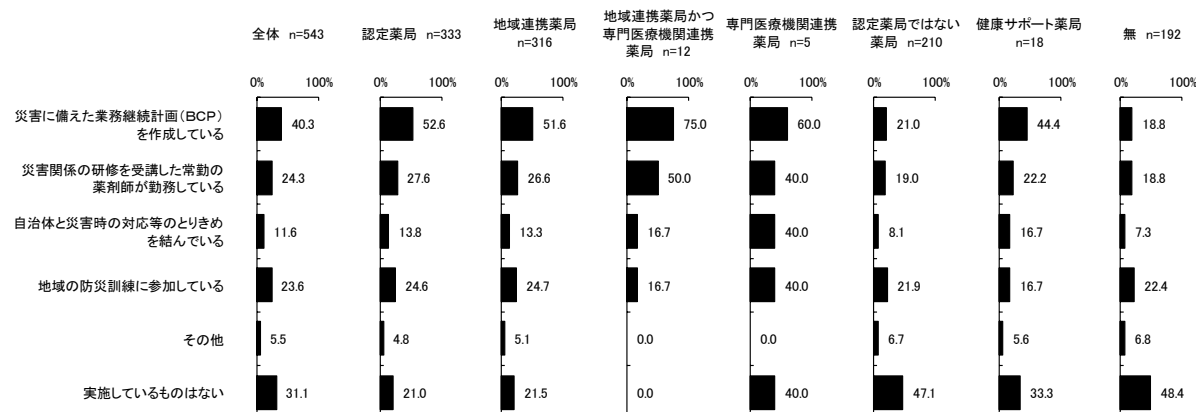
図表 87 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施していること（問 39）【複数回答】



8) 災害に関して実施していること

災害に関して実施していることについては、全体では「災害に備えた業務継続計画 (BCP) を作成している」が40.3%で最も割合が高く、ついで「実施しているものはない」が31.1%であった。

図表 88 災害に関して実施していること（問 40）【複数回答】



※「その他」の主な回答は以下の通り。

- ・BCP を作成予定
- ・災害発生時の対策マニュアルの策定（社内）
- ・薬局薬剤師の災害対応マニュアルを設置
- ・マニュアル作成
- ・社内ルール
- ・本部の指示に従う

- ・ビルの防災訓練に参加している
- ・避難訓練の実施
- ・災害時に必要な備品の整備、管理
- ・消火器、防災バッグを常備
- ・水、非常食、ヘルメット等の防災用品の備蓄
- ・停電時対応の発電機とバッテリー準備
- ・非常食・防災用品の備蓄
- ・必要な医薬品の備蓄
- ・衛生用品の備蓄
- ・県薬剤師会作成の災害対策マニュアルを設置し、薬局内に周知している
- ・現在薬剤師会として災害時の医薬品の備蓄など区役所、医師会等と連携を組み計画中
- ・地域の薬剤師会が行政と連携を取っていて、それに参加する
- ・薬剤師会の応援指示により薬剤師派遣予定
- ・薬剤師会による防災訓練
- ・薬剤師会の救護活動協定書に参加している
- ・岐阜市薬剤師会の災害時派遣薬剤師に登録している薬剤師がいる
- ・薬剤師会の災害対策訓練に参加している
- ・薬局単独では無く地域薬剤師会として自治体との間で救護所等への配置など役割の取り決めをしている
- ・災害時、サポート薬局を中心とした近隣薬局の連絡網の構築
- ・LINE

3. 調査結果（特別集計結果）

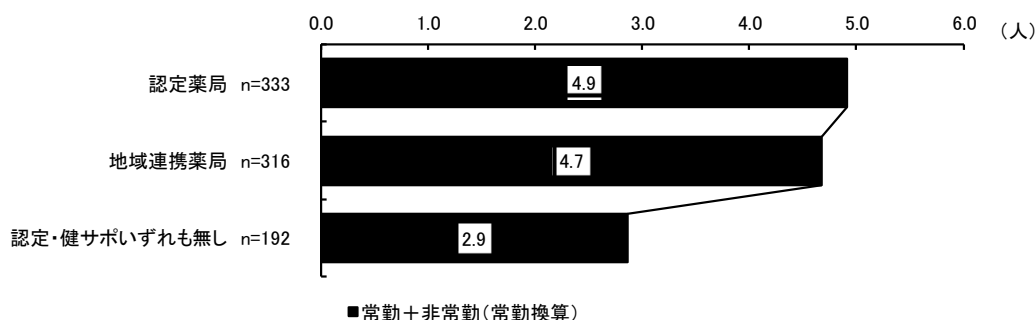
(1) 認定薬局、地域連携薬局の充実している点にかかる集計結果

以下の集計結果は、「2.」で示した集計結果のうち、認定薬局や地域連携薬局が、認定薬局でも健康サポート薬局でもない薬局と比べて、体制や取組が充実している結果を示した集計結果の中から代表的なものを対象として、再掲したものである。

※なお認定薬局、地域連携薬局、認定薬局でも健康サポート薬局でもない薬局の3つのカテゴリの調査結果にはn数が相応にある。

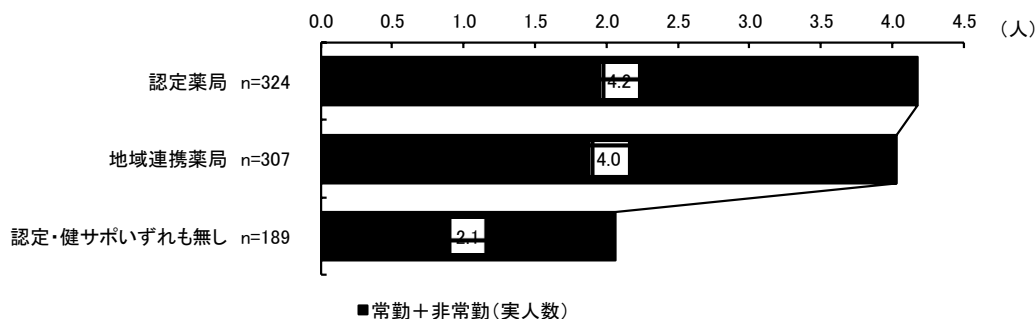
1) 当該店舗に勤務する勤務薬剤師数

図表 89 当該店舗に勤務する勤務薬剤師数（常勤＋非常勤（常勤換算））（問 11）



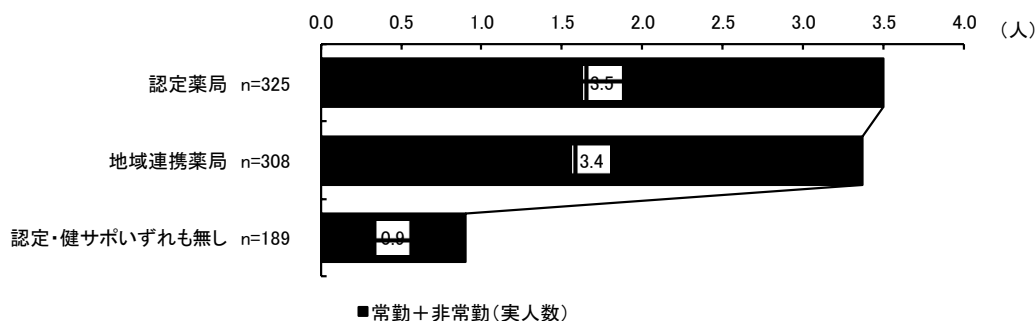
2) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数

図表 90 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数（常勤＋非常勤（実人数））（問 15）



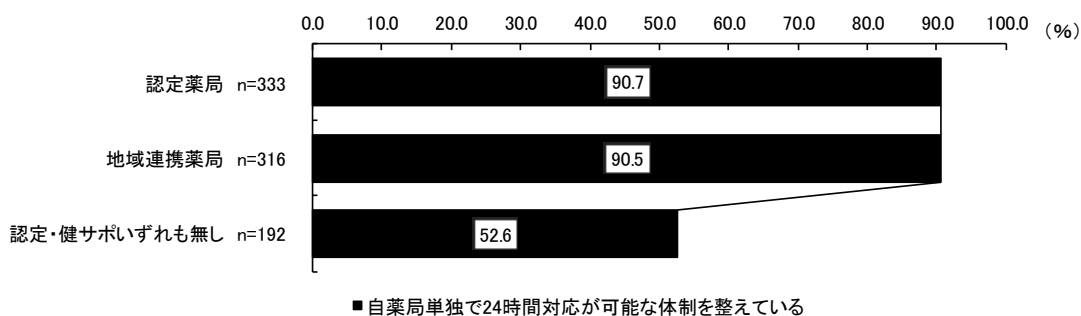
3) 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数

図表 91 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数（常勤＋非常勤（実人数））（問 16）



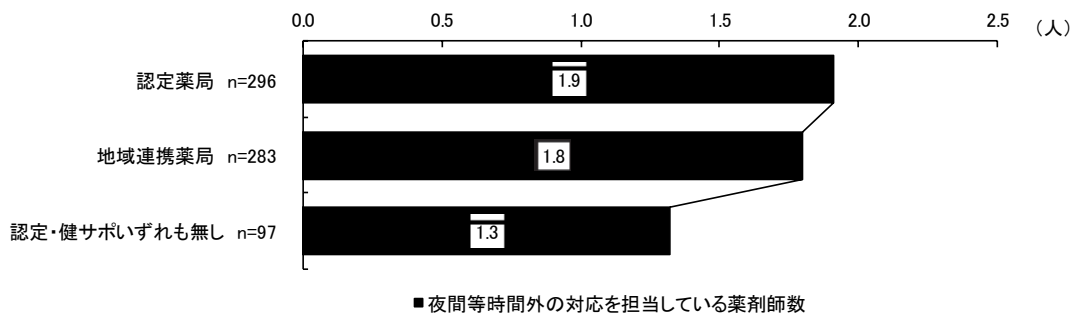
4) 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えているか

図表 92 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えているか（問 17）



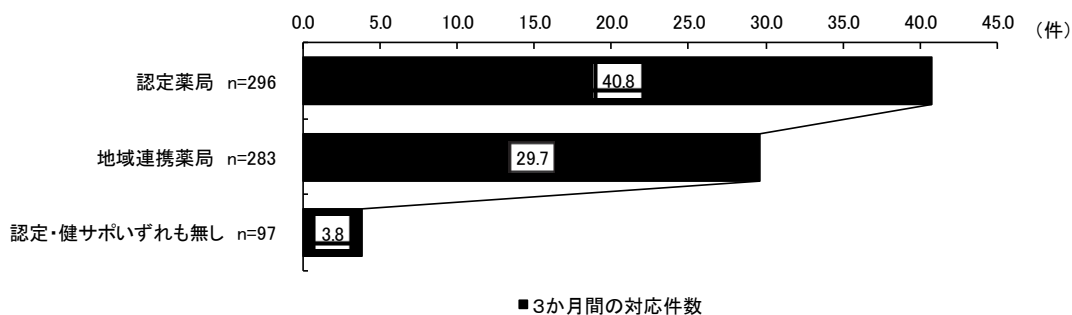
5) 自薬局単独で 24 時間対応が可能な場合における夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数

図表 93 自薬局単独で 24 時間対応が可能な場合における、夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数（問 17）



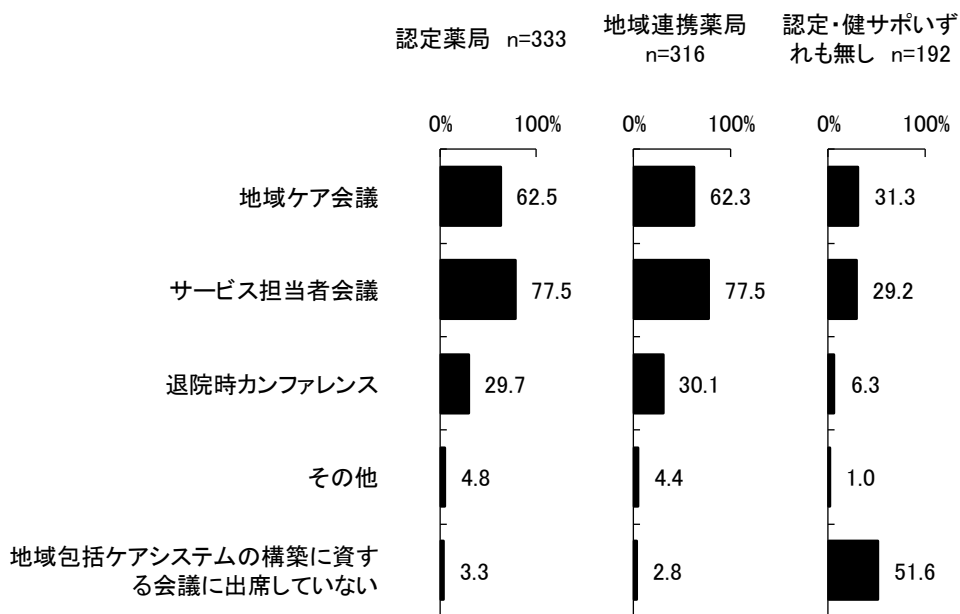
6) 自薬局単独で 24 時間対応が可能の場合における 3 か月間の対応件数

図表 94 自薬局単独で 24 時間対応が可能の場合における 3 か月間の対応件数 (問 17)



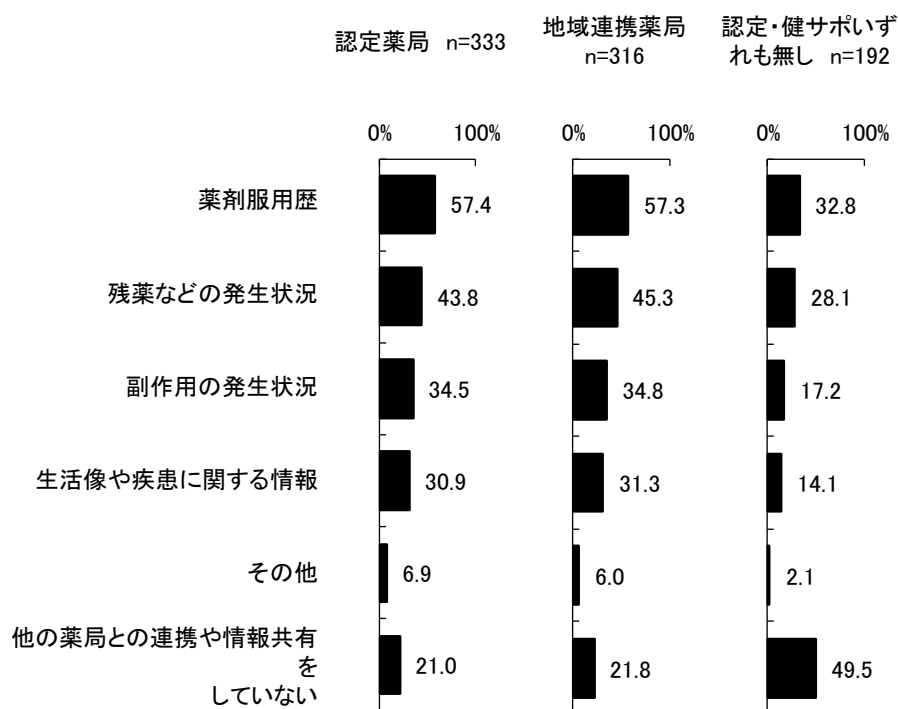
7) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

図表 95 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの (問 20)



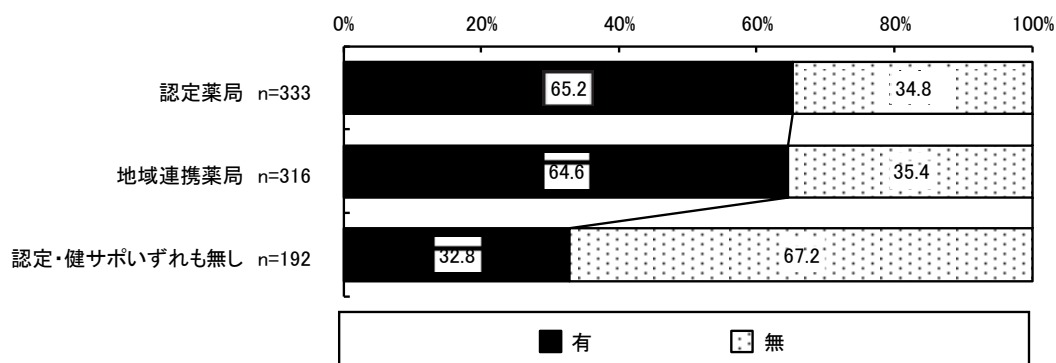
8) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容（6か月間）

図表 96 他の薬局との連携や情報共有に関する内容（6か月間）（問 23）



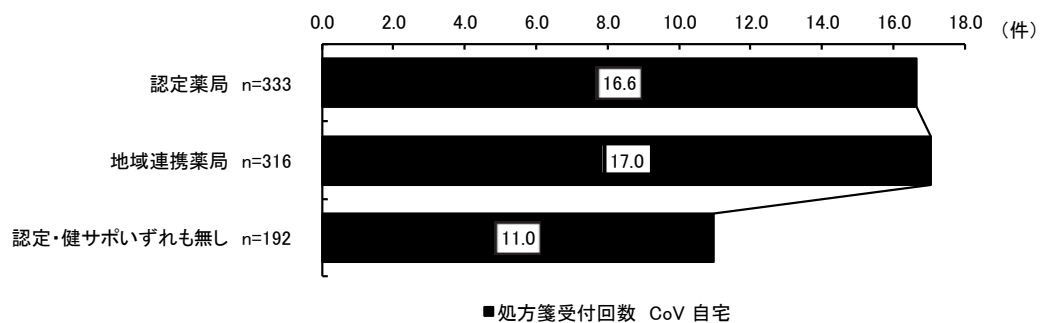
9) 訪問薬剤管理指導の有無（6か月間）

図表 97 訪問薬剤管理指導の有無（6か月間）（問 27）



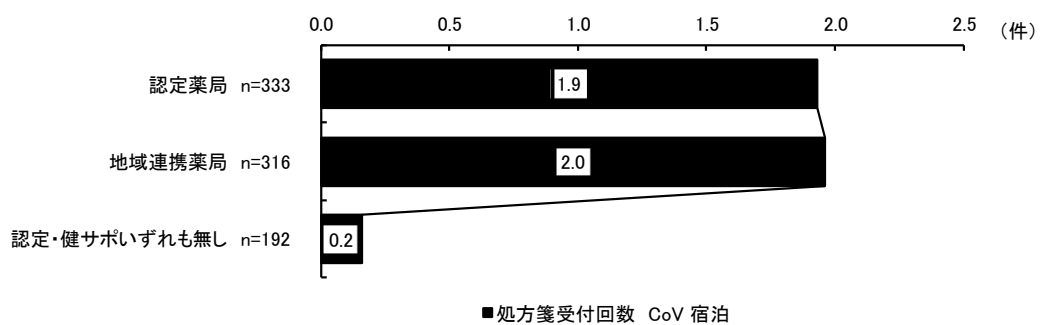
10) 処方箋受付回数 CoV 自宅 (2021年12月~2022年2月)

図表 98 処方箋受付回数 CoV 自宅 (問 38)



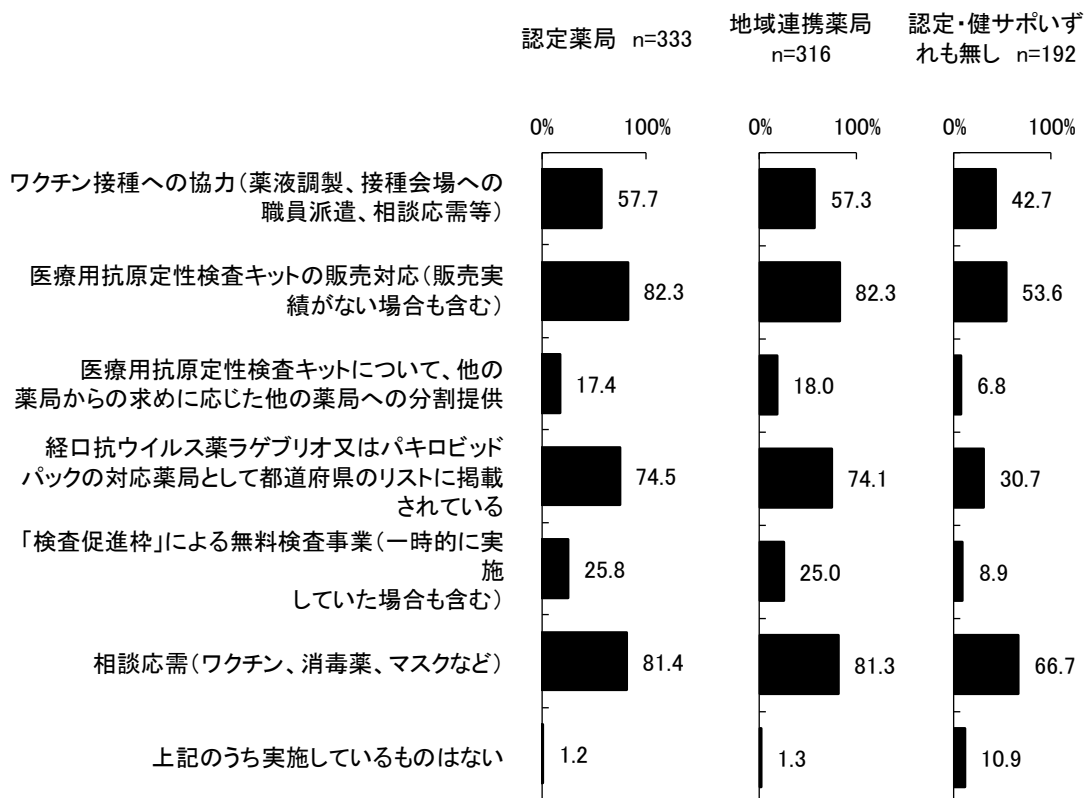
11) 処方箋受付回数 CoV 宿泊 (2021年12月~2022年2月)

図表 99 処方箋受付回数 CoV 宿泊 (2021年12月~2022年2月) (問 38)



12) 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているもの

図表 100 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているもの（問 39）



(2) 薬局単体の規模別の分析

1) 目的

一般に施設単体の規模が大きくなるほどそのスケールメリットを生かして、薬局としてより多くの機能発揮を行いやすくなることが想定され、小規模薬局では体制整備や機能発揮を行うことが難しいことが考えられる中、認定薬局である小規模薬局における体制整備や機能発揮が充実している点が有るのかどうか、有る場合にはどのような事項なのか、という実態を把握することを目的として集計分析した。

2) 設定条件

薬局の規模を表す指標として、薬局単体に所属する薬剤師の常勤換算数（常勤薬剤師数＋非常勤薬剤師の常勤換算数）を使用し、「3人未満」「3人以上6人未満」「6人以上」の3つのカテゴリに分類し、「3人未満」を小規模と位置づけた上、それぞれの薬局における調査結果を比較した。

なお「調査への回答があった全ての薬局」、「認定薬局」、「認定薬局ではない薬局」、参考として「認定薬局・健康サポート薬局のいずれでもない薬局」の4カテゴリの集計結果を示す。

3) 結果

全86の集計結果のうち23の集計結果において、認定薬局である小規模薬局において、認定薬局でない小規模薬局と比べて、体制整備や機能発揮の観点から充実した取組が行われていることが把握された。具体的な事項を下表に示す。また集計結果は別添に示す。

図表 101 認定薬局である小規模薬局が体制整備や機能発揮の点で比較的充実していた事項

<p>(体制整備)</p> <ul style="list-style-type: none">● 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数● 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤実績● 24時間対応について (自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている薬局の割合)● 無菌製剤処理の必要な調剤対応について (自局で対応する薬局の割合)● 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの (地域支援体制加算、かかりつけ薬剤師指導料(包括管理料)、在宅患者訪問薬剤管理指導) <p>(機能発揮)</p> <ul style="list-style-type: none">● 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への出席● 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会(打合せ)の参加状況

(病院主催の勉強会等、自治体主催の勉強会等、医療関係団体主催の勉強会等)

- 他の薬局との連携や情報共有に関する内容 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の頻度 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医薬品の提供について求めがあった件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 訪問薬剤管理指導の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績 (2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医療機関との連携内容
- 関わりがある他の事業所等について
- 調剤後のフォローアップ実施患者数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- 患者1人あたりのフォローアップ実施回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- フィードバック回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- 処方箋受付回数 0410 対応 (2021年12月～2022年2月)
- 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数 (患者訪問も含む) 0410 対応 (2021年12月～2022年2月)
- 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているもの
- 災害に関して実施しているもの
(災害に備えた業務継続計画 (BCP) の作成、自治体と災害時の対応等のとりきめ)

第3章 まとめ

1. 認定薬局における体制や取組内容

認定薬局または地域連携薬局と認定薬局や健康サポート薬局のいずれでも無い薬局とを比べた結果、薬局の体制や取組内容（新型コロナウイルス・災害への対応を含む）について、基本的には充実しており、特に「在宅業務」、「薬局以外の機関との連携」、「新型コロナウイルス・災害への対応の状況」については調査で設定した質問の全般に渡り充実した結果が得られていた。これらの充実している点のうち代表的なものを以下の図表に示す。

図表 102 認定薬局、地域連携薬局が、認定薬局や健康サポート薬局のいずれでも無い薬局と比較して、充実している点（問 39）

<ul style="list-style-type: none">● 当該店舗に勤務する勤務薬剤師数が多いこと● 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数が多いこと● 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数が多いこと● 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている薬局の割合が高いこと● 自薬局単独で 24 時間対応が可能な場合における夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数が多いこと● 自薬局単独で 24 時間対応が可能な場合における 3 か月間の対応件数が多いこと● 地域包括ケアシステムの構築に資する会議へ出席している薬局の割合が高いこと● 他の薬局との連携や情報共有に関して取り組む薬局の割合が高いこと● 訪問薬剤管理指導を実施する薬局の割合が高いこと● 処方箋受付回数（自宅療養中の新型コロナウイルス患者分）が多いこと● 処方箋受付回数（宿泊療養中の新型コロナウイルス患者分）が多いこと● 新型コロナウイルス感染症対策に関連した取組を実施する薬局の割合が高いこと

なお以下に示す事項については、認定薬局や健康サポート薬局のいずれでも無い薬局と比べて、同程度あるいは少なかった。

図表 103 認定薬局、地域連携薬局が、認定薬局や健康サポート薬局のいずれでも無い薬局と比較して、同程度あるいは少なかった点（問 39）

<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none">● 店舗形態、主たる保険医療機関の処方箋受付割合、要指導・一般用医薬品の備蓄品目数については、認定・健サポいずれも無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局では同等であった。● 他薬局と連携して 24 時間対応が可能な薬局の連携薬局数は、認定・健サポいずれ
--

も無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局では少なかった。

<地域活動>

- 地域ケア会議への出席頻度については、認定・健サポ無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局ではほぼ同程度であった。
- 自薬局での個別症例の検討を含む勉強会の開催頻度については、認定・健サポ無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局では同程度であった。

<他薬局との連携>

- 他薬局との連携頻度については、認定・健サポ無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局では選択肢として挙げたいずれの事項についても同程度であった。

<薬局以外の機関との連携>

- 病院・診療所と定期的実施していることのうち、認定・健サポ無しの薬局と比べて、職員との打ち合わせでは同等であった。
- 都道府県や市町村が実施する事業の受託や参加については、「どちらも無し」との回答が、認定薬局、地域連携薬局では約6割と相応に高い割合で存在した。

<フォローアップ>

- 患者の受診医療機関数の把握状況については、認定・健サポ無しの薬局と比べて、認定薬局、地域連携薬局では同様の状況であった。

2. 薬局規模別の分析結果

認定薬局である小規模薬局において、認定薬局でない小規模薬局と比べて、いくつかの取組において体制整備や機能発揮の観点から充実した取組が行われていることが把握された。具体的には以下の通り。

図表 104 認定薬局である小規模薬局が体制整備や機能発揮の点で比較的充実していた事項（再掲）

（体制整備）

- 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数
- 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤実績
- 24時間対応について
（自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている薬局の割合）
- 無菌製剤処理の必要な調剤対応について
（自局で対応する薬局の割合）
- 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの

(地域支援体制加算、かかりつけ薬剤師指導料(包括管理料)、在宅患者訪問薬剤管理指導)

(機能発揮)

- 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への出席
- 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会(打合せ)の参加状況
(病院主催の勉強会等、自治体主催の勉強会等、医療関係団体主催の勉強会等)
- 他の薬局との連携や情報共有に関する内容(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の頻度(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医薬品の提供について求めがあった件数(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 訪問薬剤管理指導の有無(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績(2021年9月～2022年2月の6か月間)
- 医療機関との連携内容
- 関わりがある他の事業所等について
- 調剤後のフォローアップ実施患者数(2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- 患者1人あたりのフォローアップ実施回数(2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- フィードバック回数(2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)
- 処方箋受付回数 0410対応(2021年12月～2022年2月)
- 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数(患者訪問も含む) 0410対応(2021年12月～2022年2月)
- 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているもの
- 災害に関して実施しているもの
(災害に備えた業務継続計画(BCP)の作成、自治体と災害時の対応等のとりきめ)

調 査 票

特に断りのない限り、2022年3月1日現在の状況についてお答えください。

1. 基本情報

1) 認定・届出の有無について、あてはまるものを全て選択してください。(複数回答)

1. 地域連携薬局 2. 専門医療機関連携薬局 3. 健康サポート薬局
4. 無

2) 1) で「2. 専門医療機関連携薬局」を選択した場合、貴薬局の所在について、連携先の医療機関（がん治療に係る医療機関）(※)との関係で最もよくあてはまるものを1つ選択してください。

※複数ある場合は最も近い連携先との関係についてお答えください。

1. 連携先医療機関の敷地内 2. 連携先医療機関の周辺
3. 連携先医療機関と同じ市区町村（1及び2を除く）
4. 連携先医療機関と同じ都道府県（1～3を除く）
5. その他（ ）

3) 同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）等による薬局店舗数（貴薬局を含む）をご記入ください。(数字を整数で記入)

() 店舗

4) 薬局の面積について、許可申請時の資料等を参考に記載してください。なお、複数階等に分かれている場合は合計の値を記載してください。

薬局全体 () 平方メートル うち調剤室 () 平方メートル

5) 店舗形態について、あてはまるものを1つ選択してください。

1. 薬局のみ 2. 薬局とドラッグストア等店舗販売業の併設
3. その他（ ）

6) 貴薬局の立地について、最もよくあてはまるものを1つ選択してください。

1. 診療所周辺 2. 診療所の敷地内 3. 病院周辺 4. 病院の敷地内
5. 同一ビル内に複数の保険医療機関がある（医療モール）
6. 同一ビル内に単一の保険医療機関がある 7. 近隣に医療機関はない
8. その他（具体的に： ）

7) 2021年12月～2022年2月の3か月間における以下の状況についてご記入ください。

来局者数（実人数）	人（3か月合計）
うち、調剤以外の目的（※）の来局者数（実人数）	人（3か月合計）
処方箋枚数（整数）	枚／月平均
うち、在宅患者（施設含む）に係る処方箋枚数（整数）	枚／月平均

※要指導・一般用医薬品の販売、お薬相談、通いの場等

8) 主たる保険医療機関に係る処方箋の受付回数の割合についてご記入ください。(調剤基本料の根拠となる数字) (2021年)

() % (小数点以下第一位まで)

9) 医薬品の備蓄品目数についてご記入ください。(数字を整数で記入) (※異なる規格は別品目とする)

保険調剤に係る医薬品 () 品目

要指導・一般用医薬品 () 品目

10) 過去6か月間(2021年9月から2022年2月)における麻薬の調剤の実績について、どちらか1つ選択してください。

1. 調剤した 2. 調剤していない

2. 体制

・貴薬局(当該店舗)に勤務する薬剤師の人数についてお答えください。(該当者がいない場合は「0」と記入)

	常勤(実人数) ※	非常勤	
		実人数	常勤換算※※
11) 当該店舗に勤務する薬剤師数 (休職中の者も含む)	人	人	人
12) 当該店舗に1年以上3年未満在籍している薬剤師数	人	人	人
13) 当該店舗に3年以上5年未満在籍している薬剤師数	人	人	人
14) 当該店舗に5年以上在籍している薬剤師数	人	人	人
15) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	人	人	
16) 健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数	人	人	

※常勤薬剤師数は、貴薬局で定めた就業規則に基づく勤務時間の全てを勤務する薬剤師の実人数(薬局で定める勤務時間が週32時間未満の場合は週32時間以上勤務している薬剤師の実人数)を計上します。

※※非常勤薬剤師は、勤務時間が貴薬局で定める勤務時間に満たない薬剤師(薬局で定める勤務時間が週32時間未満の場合は週32時間に満たない薬剤師)をいい、常勤換算数は、以下により算出(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。

非常勤薬剤師数(常勤換算) =

当該薬局で定める1週間あたりの勤務時間(※週32時間未満の場合は週32時間)に満たない薬剤師の勤務時間の合計(時間) / 当該薬局で定める1週間あたりの勤務時間(※週32時間未満の場合は32(時間))

17) 24時間対応について、あてはまるものを1つ選び、具体的な数値を記入してください。

チェック		夜間等時間外に対応について	2021年12月～2022年2月の3か月間の対応件数
<input type="checkbox"/>	自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている	担当している薬剤師人	件
<input type="checkbox"/>	近隣の保険薬局と連携して24時間対応が可能な体制を整えている	連携している薬局軒	件※1
<input type="checkbox"/>	24時間対応が可能な体制を整えていない		
<input type="checkbox"/>	その他（ ）		

※1 近隣の保険薬局（認定薬局含む）と連携して対応した件数すべて

18) 無菌製剤処理の必要な調製対応について、あてはまるものを1つ選択してください。

1. 自局で対応 2. 共同利用による対応 3. 対応しておらず、他の薬局を紹介 4. 対応しておらず、他の薬局を紹介していない 5. その他（ ）

19) 調剤報酬の施設基準等の以下の届出のうち、あてはまるものを全て選択してください。

1. 地域支援体制加算
2. 後発医薬品調剤体制加算1
3. 後発医薬品調剤体制加算2
4. 後発医薬品調剤体制加算3
5. 無菌製剤処理加算
6. かかりつけ薬剤師指導料又はかかりつけ薬剤師包括管理料
7. 薬剤服用歴管理指導料4（情報通信機器を用いた服薬指導）又は在宅患者オンライン服薬指導料
8. 在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出
9. 上記のいずれの届出も行っていない

20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもので、あてはまるもの全てに出席頻度（オンラインでの開催を含む）を選択肢から選択して回答してください。（概ねで構いません）

チェック	会議の種類	頻度
<input type="checkbox"/>	地域ケア会議	
<input type="checkbox"/>	サービス担当者会議	
<input type="checkbox"/>	退院時カンファレンス	
<input type="checkbox"/>	その他（ ）	
<input type="checkbox"/>	地域包括ケアシステムの構築に資する会議に出席していない	

1. 2週間に1回 2. 1か月に1回 3. 3か月に1回
4. 6か月に1回 5. その他（ ）

ただし、同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）の薬局間で実施しているものは除きます。

1. 夜間、休日の電話等の問い合わせの輪番への参加
2. 夜間、休日の処方箋受付の輪番への参加
3. 無菌調剤室の共同利用
4. 在宅協力薬局（旧サポート薬局）として在宅患者の共同管理
5. その他（ ）
6. 実施しているものはない

○在宅関係

27) 2021年9月～2022年2月の6か月間において、人生の最終段階（終末期）の利用者・患者への訪問薬剤管理指導の有無及び利用者・患者や家族等と話し合いを行う場に参加したことがある薬剤師がいるかについて、あてはまるものを選択してください。

	回答欄
訪問薬剤管理指導の有無	
話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無	

1. 有 2. 無

28) 2021年9月～2022年2月の6か月間において、患者・利用者及び訪問診療に関わる医療機関等に対する医療機器（*1）や衛生材料（*2）の提供実績について、あてはまるものを選択してください。

	回答欄
患者・利用者への提供の有無	
訪問診療に関わる医療機関等への提供の有無	

1. 有 2. 無

*1：胃ろう・経管栄養チューブ、注射器・注射針、血圧計、気管カニューレ、シリンジポンプ、吸引カテーテルなど

*2：ガーゼ、脱脂綿、綿棒、絆創膏、包帯、使い捨て手袋など

29) 訪問薬剤管理指導を行っている旨について、近隣医療機関、介護関係事業所等にどのように周知を行っているか。（あてはまるもの全てに○）

1. 自治体のホームページに掲載
2. 自局（自社）のホームページに掲載
3. 個別に関連医療機関、関連事業所に連絡（訪問含む）して周知
4. 多職種が参加する会議において周知
5. その他（ ）
6. 周知を行っていない

30) 医療機関との連携内容について、実施しているもの全てを選択してください。（複数選択）

1. 医療機関との間で勉強会・研修会への参加
2. 退院時カンファレンスへの参加

33) 都道府県や市区町村が実施する事業の受託、事業への参加についてあてはまるもの全て選択・回答してください。

1. 事業（又は事業の一部）を受託している（事業名： ）
2. 事業（又は事業の一部）に参加（受託以外）している（事業名： ）
3. どちらも無し

4. フォローアップ等

34) 調剤後のフォローアップ実施患者数、患者1人あたりのフォローアップ実施回数及びフォローアップで得られた情報を処方医等にフィードバックした回数について、2021年12月～2022年2月の3か月間の1か月あたりの平均をご記入ください。（数字を整数で記入）

実施患者数	患者あたりのフォローアップ実施回数	フィードバック回数
人/月	回/月	回/月

→ 35) 月に1回以上、フォローアップを行っている場合、日程調整も含め1回のフォローアップに要するおおよその時間（平均）をご記入ください。（数字を整数で記入）

平均（ ）分

36) フォローアップはどのように行っているか、あてはまるものを全て選択してください。

1. 電話 2. 映像を伴う通話（オンライン含む） 3. メール
4. アプリ 5. その他（ ）

37) 患者の受診医療機関数を把握していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

1. すべての患者について把握している
2. 概ねすべての患者について把握している
3. 半分程度の患者について把握している
4. ほとんどの患者について把握していない
5. すべての患者について把握していない

5. 新型コロナウイルス感染症対応等

38) 電話や情報通信機器を用いた服薬指導について、2021年12月～2022年2月の3か月間の状況をご記入ください。（数字を整数で記入）ただし、該当がない場合は、「0」を記入してください。

	処方箋備考欄の記載		
	0410 対応* ¹	CoV 自宅* ²	CoV 宿泊* ³
処方箋受付回数	回	回	回
うち電話や情報通信機器を用いた服薬指導実施回数（患家に訪問した場合も含む）	回	回	回

*1: 令和2年4月10日事務連絡「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて」に基づく対応

*2: Covid-19による感染者のうち、自宅療養中の患者

*3: Covid-19による感染者のうち、宿泊療養中の患者

39) 新型コロナウイルス感染症対策に関連して実施しているものを全て選択してください。(複数選択可)

1. ワクチン接種への協力(薬液調製、接種会場への職員派遣、相談応需等)
2. 医療用抗原定性検査キットの販売対応(販売実績がない場合も含む)
3. 医療用抗原定性検査キットについて、他の薬局からの求めに応じた他の薬局への分割提供
4. 経口抗ウイルス薬ラゲブリオ又はパキロビッドパックの対応薬局として都道府県のリストに掲載されている
5. 「検査促進枠」による無料検査事業(一時的に実施していた場合も含む)
6. 相談応需(ワクチン、消毒薬、マスクなど)
7. 上記のうち実施しているものはない

40) 災害に関して実施しているものを全て選択してください。

1. 災害に備えた業務継続計画(BCP)を作成している
2. 災害関係の研修を受講した常勤の薬剤師が勤務している
3. 自治体と災害時の対応等のとりきめを結んでいる。
4. 地域の防災訓練に参加している
5. その他()
6. 実施しているものはない

別添

薬局単体の規模別のクロス集計結果

- 1 9) 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数
 1) 全体
 11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	542 100.0	1390.19	502.57	0	4124	1304.5
3人未満	190 35.1	1132.34	454.64	0	2500	1219.5
3人以上6人未満	240 44.3	1407.98	379.53	100	3360	1349
6人以上	112 20.7	1789.51	538.56	863	4124	1700

- 9) 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数
 認定薬局
 11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	332 100.0	1560.67	441.98	561	4124	1494
3人未満	74 22.3	1385.8	325.28	577	2233	1284.5
3人以上6人未満	166 50.0	1483.34	348.98	561	3360	1420.5
6人以上	92 27.7	1840.87	534.98	1200	4124	1746

- 9) 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数
 認定薬局ではない薬局
 11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	210 100.0	1120.67	473.77	0	2600	1200
3人未満	116 55.2	970.66	451.59	0	2500	1011.5
3人以上6人未満	74 35.2	1238.92	390.71	100	2329	1245
6人以上	20 9.5	1553.25	489.66	863	2600	1500

- 9) 保険調剤に係る医薬品の備蓄品目数
 認定・健サボいずれも無し
 11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	192 100.0	1100.55	484.74	0	2600	1190
3人未満	112 58.3	961.25	455.9	0	2500	1000
3人以上6人未満	65 33.9	1239.8	414.1	100	2329	1240
6人以上	15 7.8	1537.27	541.31	863	2600	1450

2 10) 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤の実績

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	調剤した	い調剤していな
全体	543	363	180
	100.0	66.9	33.1
3人未満	190	89	101
	100.0	46.8	53.2
3人以上6人未満	241	170	71
	100.0	70.5	29.5
6人以上	112	104	8
	100.0	92.9	7.1

10) 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤の実績

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	調剤した	い調剤していな
全体	333	275	58
	100.0	82.6	17.4
3人未満	74	52	22
	100.0	70.3	29.7
3人以上6人未満	167	134	33
	100.0	80.2	19.8
6人以上	92	89	3
	100.0	96.7	3.3

10) 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤の実績

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	調剤した	い調剤していな
全体	210	88	122
	100.0	41.9	58.1
3人未満	116	37	79
	100.0	31.9	68.1
3人以上6人未満	74	36	38
	100.0	48.6	51.4
6人以上	20	15	5
	100.0	75.0	25.0

10) 2021年9月から2022年2月における麻薬の調剤の実績

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	調剤した	い調剤していな
全体	192	75	117
	100.0	39.1	60.9
3人未満	112	35	77
	100.0	31.3	68.8
3人以上6人未満	65	29	36
	100.0	44.6	55.4
6人以上	15	11	4
	100.0	73.3	26.7

3 17) 24時間対応について

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	体時自 制間薬 を対局 整応単 えが独 て可で い能2 るな4	を対連 整応携 えがし て可保 い能2 るな4 体時局 制間と	い能2 なな4 い体時 制間 を対 整応 えが て可	そ の 他
全 体	543 100.0	420 77.3	43 7.9	78 14.4	2 0.4
3人未満	190 100.0	119 62.6	20 10.5	51 26.8	- -
3人以上6人未満	241 100.0	198 82.2	18 7.5	23 9.5	2.0 0.8
6人以上	112 100.0	103 92.0	5 4.5	4 3.6	- -

17) 24時間対応について

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	体時自 制間薬 を対局 整応単 えが独 て可で い能2 るな4	を対連 整応携 えがし て可保 い能2 るな4 体時局 制間と	い能2 なな4 い体時 制間 を対 整応 えが て可	そ の 他
全 体	333 100.0	302 90.7	29 8.7	1 0.3	1 0.3
3人未満	74 100.0	66 89.2	7 9.5	1 1.4	- -
3人以上6人未満	167 100.0	149 89.2	17 10.2	-	1 0.6
6人以上	92 100.0	87 94.6	5 5.4	-	- -

17) 24時間対応について

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	体時自 制間薬 を対局 整応単 えが独 て可で い能2 るな4	を対連 整応携 えがし て可保 い能2 るな4 体時局 制間と	い能2 なな4 い体時 制間 を対 整応 えが て可	そ の 他
全 体	210 100.0	118 56.2	14 6.7	77 36.7	1 0.5
3人未満	116 100.0	53 45.7	13 11.2	50 43.1	- -
3人以上6人未満	74 100.0	49 66.2	1 1.4	23 31.1	1 1.4
6人以上	20 100.0	16 80.0	-	4 20.0	- -

17) 24時間対応について

認定・健サがいづれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	体時自 制間薬 を対局 整応単 えが独 て可で い能2 るな4	を対連 整応携 えがし て可保 い能2 るな4 体時局 制間と	い能2 なな4 い体時 制間 を対 整応 えが て可	そ の 他
全 体	192 100.0	101 52.6	14 7.3	76 39.6	1 0.5
3人未満	112 100.0	50 44.6	13 11.6	49 43.8	- -
3人以上6人未満	65 100.0	40 61.5	1 1.5	23 35.4	1 1.5
6人以上	15 100.0	11 73.3	-	4 26.7	- -

4 18) 無菌製剤処理の必要な調剤対応について

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	自局で対応	よ共 る同 対利 応用 に	薬ら対 局ず応 を、し 紹他て 介のお	し薬ら対 局ず応 いを、し な紹他て い介のお	その他
全体	543	105	164	186	83	5
	100.0	19.3	30.2	34.3	15.3	0.9
3人未満	190	20	41	78	49	2
	100.0	10.5	21.6	41.1	25.8	1.1
3人以上6人未満	241	46	81	82	29	3
	100.0	19.1	33.6	34.0	12.0	1.2
6人以上	112	39	42	26	5	-
	100.0	34.8	37.5	23.2	4.5	-

18) 無菌製剤処理の必要な調剤対応について

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	自局で対応	よ共 る同 対利 応用 に	薬ら対 局ず応 を、し 紹他て 介のお	し薬ら対 局ず応 いを、し な紹他て い介のお	その他
全体	333	91	138	98	5	1
	100.0	27.3	41.4	29.4	1.5	0.3
3人未満	74	16	27	26	5	-
	100.0	21.6	36.5	35.1	6.8	-
3人以上6人未満	167	41	72	53	-	1
	100.0	24.6	43.1	31.7	-	0.6
6人以上	92	34	39	19	-	-
	100.0	37.0	42.4	20.7	-	-

18) 無菌製剤処理の必要な調剤対応について

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	自局で対応	よ共 る同 対利 応用 に	薬ら対 局ず応 を、し 紹他て 介のお	し薬ら対 局ず応 いを、し な紹他て い介のお	その他
全体	210	14	26	88	78	4
	100.0	6.7	12.4	41.9	37.1	1.9
3人未満	116	4	14	52	44	2
	100.0	3.4	12.1	44.8	37.9	1.7
3人以上6人未満	74	5	9	29	29	2
	100.0	6.8	12.2	39.2	39.2	2.7
6人以上	20	5	3	7	5	-
	100.0	25.0	15.0	35.0	25.0	-

18) 無菌製剤処理の必要な調剤対応について

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	自局で対応	よ共 る同 対利 応用 に	薬ら対 局ず応 を、し 紹他て 介のお	し薬ら対 局ず応 いを、し な紹他て い介のお	その他
全体	192	9	22	82	76	3
	100.0	4.7	11.5	42.7	39.6	1.6
3人未満	112	3	14	49	44	2
	100.0	2.7	12.5	43.8	39.3	1.8
3人以上6人未満	65	4	5	27	28	1
	100.0	6.2	7.7	41.5	43.1	1.5
6人以上	15	2	3	6	4	-
	100.0	13.3	20.0	40.0	26.7	-

5 19) 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	地域支援体制加算	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	無菌製剤処理加算	かかりつけ薬剤師包括管理料又はかかりつけ薬剤師指導料	服薬指導料	報酬通信機器を用いたオンライン（情報）	在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出	上記のいずれの届出も行ってない
全体	543	359 66.1	89 16.4	153 28.2	219 40.3	147 27.1	452 83.2	204 37.6	477 87.8	16 2.9	
3人未満	190	99 52.1	25 13.2	48 25.3	84 44.2	24 12.6	129 67.9	41 21.6	144 75.8	10 5.3	
3人以上6人未満	241	170 70.5	45 18.7	69 28.6	94 39.0	76 31.5	219 90.9	112 46.5	223 92.5	5 2.1	
6人以上	112	90 80.4	19 17.0	36 32.1	41 36.6	47 42.0	47 92.9	51 45.5	110 98.2	1 0.9	

19) 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	地域支援体制加算	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	無菌製剤処理加算	かかりつけ薬剤師包括管理料又はかかりつけ薬剤師指導料	服薬指導料	報酬通信機器を用いたオンライン（情報）	在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出	上記のいずれの届出も行ってない
全体	333	286 85.9	54 16.2	108 32.4	133 39.9	131 39.3	321 96.4	170 51.1	326 97.9	-	
3人未満	74	67 90.5	12 16.2	23 31.1	32 43.2	19 25.7	69 93.2	26 35.1	70 94.6	-	
3人以上6人未満	167	139 83.2	26 15.6	55 32.9	67 40.1	69 41.3	163 97.6	98 58.7	164 98.2	-	
6人以上	92	80 87.0	16 17.4	30 32.6	34 37.0	43 46.7	89 96.7	46 50.0	92 100.0	-	

19) 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	地域支援体制加算	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	無菌製剤処理加算	かかりつけ薬剤師包括管理料又はかかりつけ薬剤師指導料	服薬指導料	報酬通信機器を用いたオンライン（情報）	在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出	上記のいずれの届出も行ってない
全体	210	73 34.8	35 16.7	45 21.4	86 41.0	16 7.6	131 62.4	34 16.2	151 71.9	16 7.6	
3人未満	116	32 27.6	13 11.2	25 21.6	52 44.8	5 4.3	60 51.7	15 12.9	74 63.8	10 8.6	
3人以上6人未満	74	31 41.9	19 25.7	14 18.9	27 36.5	7 9.5	56 75.7	14 18.9	59 79.7	5 6.8	
6人以上	20	10 50.0	3 15.0	6 30.0	7 35.0	4 20.0	15 75.0	5 25.0	18 90.0	1 5.0	

19) 調剤報酬の施設基準等の届出であてはまるもの

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	地域支援体制加算	後発医薬品調剤体制加算1	後発医薬品調剤体制加算2	後発医薬品調剤体制加算3	無菌製剤処理加算	かかりつけ薬剤師包括管理料又はかかりつけ薬剤師指導料	服薬指導料	報酬通信機器を用いたオンライン（情報）	在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨の届出	上記のいずれの届出も行ってない
全体	192	64 33.3	34 17.7	42 21.9	74 38.5	12 6.3	113 58.9	29 15.1	134 69.8	16 8.3	
3人未満	112	30 26.8	13 11.6	24 21.4	49 43.8	4 3.6	56 50.0	15 13.4	70 62.5	10 8.9	
3人以上6人未満	65	25 38.5	18 27.7	12 18.5	23 35.4	6 9.2	47 72.3	11 16.9	51 78.5	5 7.7	
6人以上	15	9 60.0	3 20.0	6 40.0	2 13.3	2 13.3	10 66.7	3 20.0	13 86.7	1 6.7	

6 20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	地域 ケア 会議	会 議 サ ー ビ ス 担 当 者	レ 退 ン 院 ス 時 カ ン フ ア	そ の 他	席 資 ス テ 域 し す テ ム 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 に 出 席 し て い る 議 議 員 の 数
全 体	543	277 100.0	326 60.0	111 20.4	19 3.5	114 21.0
3人未満	190	81 100.0	75 39.5	14 7.4	7 3.7	71 37.4
3人以上6人未満	241	124 100.0	164 68.0	56 23.2	8 3.3	33 13.7
6人以上	112	72 100.0	87 77.7	41 36.6	4 3.6	10 8.9

20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	地域 ケア 会議	会 議 サ ー ビ ス 担 当 者	レ 退 ン 院 ス 時 カ ン フ ア	そ の 他	席 資 ス テ 域 し す テ ム 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 に 出 席 し て い る 議 議 員 の 数
全 体	333	208 100.0	258 77.5	99 29.7	16 4.8	11 3.3
3人未満	74	49 100.0	48 64.9	10 13.5	4 5.4	4 5.4
3人以上6人未満	167	96 100.0	134 80.2	50 29.9	8 4.8	3 1.8
6人以上	92	63 100.0	76 82.6	39 42.4	4 4.3	4 4.3

20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	地域 ケア 会議	会 議 サ ー ビ ス 担 当 者	レ 退 ン 院 ス 時 カ ン フ ア	そ の 他	席 資 ス テ 域 し す テ ム 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 に 出 席 し て い る 議 議 員 の 数
全 体	210	69 100.0	68 32.4	12 5.7	3 1.4	103 49.0
3人未満	116	32 100.0	27 23.3	4 3.4	3 2.6	67 57.8
3人以上6人未満	74	28 100.0	30 40.5	6 8.1	-	30 40.5
6人以上	20	9 100.0	11 55.0	2 10.0	-	6 30.0

20) 地域包括ケアシステムの構築に資する会議として出席しているもの

認定・健サがいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	地域 ケア 会議	会 議 サ ー ビ ス 担 当 者	レ 退 ン 院 ス 時 カ ン フ ア	そ の 他	席 資 ス テ 域 し す テ ム 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 に 出 席 し て い る 議 議 員 の 数
全 体	192	60 100.0	56 29.2	12 6.3	2 1.0	99 51.6
3人未満	112	30 100.0	25 22.3	4 3.6	2 1.8	65 58.0
3人以上6人未満	65	23 100.0	23 35.4	6 9.2	-	29 44.6
6人以上	15	7 100.0	8 53.3	2 13.3	-	5 33.3

7 22) 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の参加状況

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	勉強会主催の 病院長等	地域の 地会主の 強会主の 等薬の 剤	の自 勉治 強体 会主 等催	強体医 会主療 等催関 の係 勉団	その他	てにれ上 いもの記 な参勉の い加強い し会ず
全体	543	220	388	118	292	31	47
	100.0	40.5	71.5	21.7	53.8	5.7	8.7
3人未満	190	73	127	39	89	9	22
	100.0	38.4	66.8	20.5	46.8	4.7	11.6
3人以上6人未満	241	93	179	47	129	14	17
	100.0	38.6	74.3	19.5	53.5	5.8	7.1
6人以上	112	54	82	32	74	8	8
	100.0	48.2	73.2	28.6	66.1	7.1	7.1

22) 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の参加状況

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	勉強会主催の 病院長等	地域の 地会主の 強会主の 等薬の 剤	の自 勉治 強体 会主 等催	強体医 会主療 等催関 の係 勉団	その他	てにれ上 いもの記 な参勉の い加強い し会ず
全体	333	166	241	82	195	24	19
	100.0	49.8	72.4	24.6	58.6	7.2	5.7
3人未満	74	38	48	18	40	4	8
	100.0	51.4	64.9	24.3	54.1	5.4	10.8
3人以上6人未満	167	78	125	36	95	13	5
	100.0	46.7	74.9	21.6	56.9	7.8	3.0
6人以上	92	50	68	28	60	7	6
	100.0	54.3	73.9	30.4	65.2	7.6	6.5

22) 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の参加状況

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	勉強会主催の 病院長等	地域の 地会主の 強会主の 等薬の 剤	の自 勉治 強体 会主 等催	強体医 会主療 等催関 の係 勉団	その他	てにれ上 いもの記 な参勉の い加強い し会ず
全体	210	54	147	36	97	7	28
	100.0	25.7	70.0	17.1	46.2	3.3	13.3
3人未満	116	35	79	21	49	5	14
	100.0	30.2	68.1	18.1	42.2	4.3	12.1
3人以上6人未満	74	15	54	11	34	1	12
	100.0	20.3	73.0	14.9	45.9	1.4	16.2
6人以上	20	4	14	4	14	1	2
	100.0	20.0	70.0	20.0	70.0	5.0	10.0

22) 自薬局以外での個別症例の検討を含む勉強会（打合せ）の参加状況

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	勉強会主催の 病院長等	地域の 地会主の 強会主の 等薬の 剤	の自 勉治 強体 会主 等催	強体医 会主療 等催関 の係 勉団	その他	てにれ上 いもの記 な参勉の い加強い し会ず
全体	192	44	133	33	83	7	28
	100.0	22.9	69.3	17.2	43.2	3.6	14.6
3人未満	112	32	76	20	46	5	14
	100.0	28.6	67.9	17.9	41.1	4.5	12.5
3人以上6人未満	65	10	47	11	28	1	12
	100.0	15.4	72.3	16.9	43.1	1.5	18.5
6人以上	15	2	10	2	9	1	2
	100.0	13.3	66.7	13.3	60.0	6.7	13.3

8 23) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	薬剤服用歴	発残生薬状況などの	生副状況用の発	情患生報に活関像する疾	その他	て報の他の共連のな有携薬いをや局し情と
全体	543	262	208	154	136	28	172
	100.0	48.3	38.3	28.4	25.0	5.2	31.7
3人未満	190	71	66	49	33	8	78
	100.0	37.4	34.7	25.8	17.4	4.2	41.1
3人以上6人未満	241	130	95	67	64	15	68
	100.0	53.9	39.4	27.8	26.6	6.2	28.2
6人以上	112	61	47	38	39	5	26
	100.0	54.5	42.0	33.9	34.8	4.5	23.2

23) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	薬剤服用歴	発残生薬状況などの	生副状況用の発	情患生報に活関像する疾	その他	て報の他の共連のな有携薬いをや局し情と
全体	333	191	146	115	103	23	70
	100.0	57.4	43.8	34.5	30.9	6.9	21.0
3人未満	74	35	39	31	20	4	18
	100.0	47.3	52.7	41.9	27.0	5.4	24.3
3人以上6人未満	167	104	69	56	51	14	33
	100.0	62.3	41.3	33.5	30.5	8.4	19.8
6人以上	92	52	38	28	32	5	19
	100.0	56.5	41.3	30.4	34.8	5.4	20.7

23) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	薬剤服用歴	発残生薬状況などの	生副状況用の発	情患生報に活関像する疾	その他	て報の他の共連のな有携薬いをや局し情と
全体	210	71	62	39	33	5	102
	100.0	33.8	29.5	18.6	15.7	2.4	48.6
3人未満	116	36	27	18	13	4	60
	100.0	31.0	23.3	15.5	11.2	3.4	51.7
3人以上6人未満	74	26	26	11	13	1	35
	100.0	35.1	35.1	14.9	17.6	1.4	47.3
6人以上	20	9	9	10	7	-	7
	100.0	45.0	45.0	50.0	35.0	-	35.0

23) 他の薬局との連携や情報共有に関する内容 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	薬剤服用歴	発残生薬状況などの	生副状況用の発	情患生報に活関像する疾	その他	て報の他の共連のな有携薬いをや局し情と
全体	192	63	54	33	27	4	95
	100.0	32.8	28.1	17.2	14.1	2.1	49.5
3人未満	112	33	26	18	12	3	60
	100.0	29.5	23.2	16.1	10.7	2.7	53.6
3人以上6人未満	65	24	22	8	11	1	30
	100.0	36.9	33.8	12.3	16.9	1.5	46.2
6人以上	15	6	6	7	4	-	5
	100.0	40.0	40.0	46.7	26.7	-	33.3

9 24) 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	毎日	1週間に2回	1週間に1回	2週間に1回	1か月に1回	未3か月 に1回	なし	その他
全体	543 100.0	2 0.4	5 0.9	7 1.3	12 2.2	51 9.4	206 37.9	255 47.0	5 0.9
3人未満	190 100.0	-	1 0.5	2 1.1	6 3.2	10 5.3	68 35.8	103 54.2	-
3人以上6人未満	241 100.0	1 0.4	4 1.7	3 1.2	3 1.2	25 10.4	93 38.6	107 44.4	5 2.1
6人以上	112 100.0	1 0.9	-	2 1.8	3 2.7	16 14.3	45 40.2	45 40.2	-

24) 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	毎日	1週間に2回	1週間に1回	2週間に1回	1か月に1回	未3か月 に1回	なし	その他
全体	333 100.0	1 0.3	3 0.9	5 1.5	9 2.7	41 12.3	149 44.7	121 36.3	4 1.2
3人未満	74 100.0	-	1 1.4	1 1.4	4 5.4	4 5.4	38 51.4	26 35.1	-
3人以上6人未満	167 100.0	1 0.6	2 1.2	2 1.2	2 1.2	22 13.2	73 43.7	61 36.5	4 2.4
6人以上	92 100.0	-	-	2 2.2	3 3.3	15 16.3	38 41.3	34 37.0	-

24) 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	毎日	1週間に2回	1週間に1回	2週間に1回	1か月に1回	未3か月 に1回	なし	その他
全体	210 100.0	1 0.5	2 1.0	2 1.0	3 1.4	10 4.8	57 27.1	134 63.8	1 0.5
3人未満	116 100.0	-	-	1 0.9	2 1.7	6 5.2	30 25.9	77 66.4	-
3人以上6人未満	74 100.0	-	2 2.7	1 1.4	1 1.4	3 4.1	20 27.0	46 62.2	1 1.4
6人以上	20 100.0	1 5.0	-	-	-	1 5.0	7 35.0	11 55.0	-

24) 他の薬局からの利用者等に関する情報提供の依頼の状況 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	毎日	1週間に2回	1週間に1回	2週間に1回	1か月に1回	未3か月 に1回	なし	その他
全体	192 100.0	-	2 1.0	1 0.5	3 1.6	9 4.7	55 28.6	121 63.0	1 0.5
3人未満	112 100.0	-	-	1 0.9	2 1.8	5 4.5	29 25.9	75 67.0	-
3人以上6人未満	65 100.0	-	2 3.1	-	1 1.5	3 4.6	19 29.2	39 60.0	1 1.5
6人以上	15 100.0	-	-	-	-	1 6.7	7 46.7	7 46.7	-

10 25) 医薬品の提供について求めがあった件数 (2021年9月~2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	61.48	173.11	0	2483	10
3人未満	190 35.0	28.76	64.01	0	520	5
3人以上6人未満	241 44.4	55.71	125.41	0	1074	12
6人以上	112 20.6	129.4	313.04	0	2483	35

25) 医薬品の提供について求めがあった件数 (2021年9月~2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	333 100.0	82.98	209.78	0	2483	20
3人未満	74 22.2	45.89	91.76	0	520	5
3人以上6人未満	167 50.2	65.54	136.79	0	1074	20
6人以上	92 27.6	144.48	336.33	0	2483	46.5

25) 医薬品の提供について求めがあった件数 (2021年9月~2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	210 100.0	27.39	76.18	0	700	5
3人未満	116 55.2	17.83	32.15	0	200	4.5
3人以上6人未満	74 35.2	33.54	91.02	0	687	5
6人以上	20 9.5	60.05	150.18	0	700	19

25) 医薬品の提供について求めがあった件数 (2021年9月~2022年2月の6か月間)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	192 100.0	28.36	79.41	0	700	5
3人未満	112 58.3	17.96	32.65	0	200	4
3人以上6人未満	65 33.9	36.71	96.6	0	687	5
6人以上	15 7.8	69.93	171.69	0	700	18

11 25) 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	50.51	157.41	0	2483	9
3人未満	190 35.0	21.07	54.38	0	482	3
3人以上6人未満	241 44.4	44.36	103.05	0	1074	10
6人以上	112 20.6	113.68	294.48	0	2483	30

25) 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	333 100.0	69.44	193.27	0	2483	15
3人未満	74 22.2	35.51	80.46	0	482	3.5
3人以上6人未満	167 50.2	52.27	113.11	0	1074	15
6人以上	92 27.6	127.91	319.21	0	2483	33.5

25) 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	210 100.0	20.49	57.99	0	530	4
3人未満	116 55.2	11.86	22.29	0	120	2.5
3人以上6人未満	74 35.2	26.51	72.45	0	530	5
6人以上	20 9.5	48.2	108.05	0	500	15

25) 医薬品の提供について求めがあり、そのうち提供した件数 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	192 100.0	21.07	60.4	0	530	3.5
3人未満	112 58.3	12.04	22.65	0	120	2
3人以上6人未満	65 33.9	28.83	76.9	0	530	5
6人以上	15 7.8	54.93	123.39	0	500	15

12 27) 訪問薬剤管理指導の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	543	288	255
	100.0	53.0	47.0
3人未満	190	67	123
	100.0	35.3	64.7
3人以上6人未満	241	144	97
	100.0	59.8	40.2
6人以上	112	77	35
	100.0	68.8	31.3

27) 訪問薬剤管理指導の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	333	217	116
	100.0	65.2	34.8
3人未満	74	42	32
	100.0	56.8	43.2
3人以上6人未満	167	110	57
	100.0	65.9	34.1
6人以上	92	65	27
	100.0	70.7	29.3

27) 訪問薬剤管理指導の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	210	71	139
	100.0	33.8	66.2
3人未満	116	25	91
	100.0	21.6	78.4
3人以上6人未満	74	34	40
	100.0	45.9	54.1
6人以上	20	12	8
	100.0	60.0	40.0

27) 訪問薬剤管理指導の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サボいざれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	192	63	129
	100.0	32.8	67.2
3人未満	112	23	89
	100.0	20.5	79.5
3人以上6人未満	65	30	35
	100.0	46.2	53.8
6人以上	15	10	5
	100.0	66.7	33.3

13 27) 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	543	205	338
	100.0	37.8	62.2
3人未満	190	43	147
	100.0	22.6	77.4
3人以上6人未満	241	108	133
	100.0	44.8	55.2
6人以上	112	54	58
	100.0	48.2	51.8

27) 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	333	157	176
	100.0	47.1	52.9
3人未満	74	29	45
	100.0	39.2	60.8
3人以上6人未満	167	80	87
	100.0	47.9	52.1
6人以上	92	48	44
	100.0	52.2	47.8

27) 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	210	48	162
	100.0	22.9	77.1
3人未満	116	14	102
	100.0	12.1	87.9
3人以上6人未満	74	28	46
	100.0	37.8	62.2
6人以上	20	6	14
	100.0	30.0	70.0

27) 話し合いを行う場に参加の薬剤師の有無 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サがいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	192	40	152
	100.0	20.8	79.2
3人未満	112	12	100
	100.0	10.7	89.3
3人以上6人未満	65	23	42
	100.0	35.4	64.6
6人以上	15	5	10
	100.0	33.3	66.7

14 28) 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	543	289	254
	100.0	53.2	46.8
3人未満	190	77	113
	100.0	40.5	59.5
3人以上6人未満	241	144	97
	100.0	59.8	40.2
6人以上	112	68	44
	100.0	60.7	39.3

28) 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	333	207	126
	100.0	62.2	37.8
3人未満	74	38	36
	100.0	51.4	48.6
3人以上6人未満	167	110	57
	100.0	65.9	34.1
6人以上	92	59	33
	100.0	64.1	35.9

28) 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	210	82	128
	100.0	39.0	61.0
3人未満	116	39	77
	100.0	33.6	66.4
3人以上6人未満	74	34	40
	100.0	45.9	54.1
6人以上	20	9	11
	100.0	45.0	55.0

28) 患者・利用者への医療機器や衛生材料の提供実績 (2021年9月～2022年2月の6か月間)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	有	無
全体	192	71	121
	100.0	37.0	63.0
3人未満	112	38	74
	100.0	33.9	66.1
3人以上6人未満	65	28	37
	100.0	43.1	56.9
6人以上	15	5	10
	100.0	33.3	66.7

16 31) 関わりがある他の事業所等について

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	療病 所院 ・診	所 歯 科 診 療	所 支 居 援 宅 事 介 業 護	事 訪 業 問 所 看 護	事 訪 業 問 所 介 護	業 シ ビ 訪 問 所 ヨ リ テ リ ハ	タ 支 地 域 セ ン 括	介 護 施 設	はい実 なる施 いこと として
全 体	543 100.0	300 55.2	18 3.3	214 39.4	122 22.5	79 14.5	19 3.5	117 21.5	149 27.4	163 30.0
3人未満	190 100.0	88 46.3	5 2.6	52 27.4	25 13.2	18 9.5	5 2.6	33 17.4	33 17.4	81 42.6
3人以上6人未満	241 100.0	135 56.0	7 2.9	100 41.5	59 24.5	39 16.2	6 2.5	53 22.0	76 31.5	62 25.7
6人以上	112 100.0	77 68.8	6 5.4	62 55.4	38 33.9	22 19.6	8 7.1	31 27.7	40 35.7	20 17.9

31) 関わりがある他の事業所等について

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	療病 所院 ・診	所 歯 科 診 療	所 支 居 援 宅 事 介 業 護	事 訪 業 問 所 看 護	事 訪 業 問 所 介 護	業 シ ビ 訪 問 所 ヨ リ テ リ ハ	タ 支 地 域 セ ン 括	介 護 施 設	はい実 なる施 いこと として
全 体	333 100.0	217 65.2	13 3.9	166 49.8	97 29.1	58 17.4	15 4.5	91 27.3	116 34.8	63 18.9
3人未満	74 100.0	45 60.8	2 2.7	32 43.2	17 23.0	10 13.5	4 5.4	20 27.0	18 24.3	18 24.3
3人以上6人未満	167 100.0	104 62.3	5 3.0	79 47.3	46 27.5	28 16.8	4 2.4	43 25.7	62 37.1	33 19.8
6人以上	92 100.0	68 73.9	6 6.5	55 59.8	34 37.0	20 21.7	7 7.6	28 30.4	36 39.1	12 13.0

31) 関わりがある他の事業所等について

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	療病 所院 ・診	所 歯 科 診 療	所 支 居 援 宅 事 介 業 護	事 訪 業 問 所 看 護	事 訪 業 問 所 介 護	業 シ ビ 訪 問 所 ヨ リ テ リ ハ	タ 支 地 域 セ ン 括	介 護 施 設	はい実 なる施 いこと として
全 体	210 100.0	83 39.5	5 2.4	48 22.9	25 11.9	21 10.0	4 1.9	26 12.4	33 15.7	100 47.6
3人未満	116 100.0	43 37.1	3 2.6	20 17.2	8 6.9	8 6.9	1 0.9	13 11.2	15 12.9	63 54.3
3人以上6人未満	74 100.0	31 41.9	2 2.7	21 28.4	13 17.6	11 14.9	2 2.7	10 13.5	14 18.9	29 39.2
6人以上	20 100.0	9 45.0	- -	7 35.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0	3 15.0	4 20.0	8 40.0

31) 関わりがある他の事業所等について

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤+非常勤（常勤換算）

	調査数	療病 所院 ・診	所 歯 科 診 療	所 支 居 援 宅 事 介 業 護	事 訪 業 問 所 看 護	事 訪 業 問 所 介 護	業 シ ビ 訪 問 所 ヨ リ テ リ ハ	タ 支 地 域 セ ン 括	介 護 施 設	はい実 なる施 いこと として
全 体	192 100.0	71 37.0	4 2.1	40 20.8	19 9.9	18 9.4	3 1.6	21 10.9	25 13.0	95 49.5
3人未満	112 100.0	40 35.7	2 1.8	18 16.1	7 6.3	7 6.3	- -	12 10.7	14 12.5	62 55.4
3人以上6人未満	65 100.0	25 38.5	2 3.1	17 26.2	9 13.8	9 13.8	2 3.1	8 12.3	8 12.3	27 41.5
6人以上	15 100.0	6 40.0	- -	5 33.3	3 20.0	2 13.3	1 6.7	1 6.7	3 20.0	6 40.0

17 34) 調剤後のフォローアップ実施患者数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	541 100.0	17.91	43.42	0	453	5
3人未満	189 34.9	9.89	28.33	0	300	3
3人以上6人未満	240 44.4	19.44	46.73	0	400	5
6人以上	112 20.7	28.15	53.43	0	453	10

34) 調剤後のフォローアップ実施患者数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	332 100.0	24.43	49.17	0	453	10
3人未満	74 22.3	19.09	42.66	0	300	8.5
3人以上6人未満	166 50.0	23.39	46.21	0	300	10
6人以上	92 27.7	30.6	57.82	0	453	10

34) 調剤後のフォローアップ実施患者数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	209 100.0	7.55	29.43	0	400	2
3人未満	115 55.0	3.97	7.67	0	50	1
3人以上6人未満	74 35.4	10.59	46.69	0	400	2
6人以上	20 9.6	16.9	21.22	1	100	11

34) 調剤後のフォローアップ実施患者数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定・健サボいざれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	191 100.0	6.68	30.1	0	400	2
3人未満	111 58.1	3.28	5.91	0	40	1
3人以上6人未満	65 34.0	10.29	49.18	0	400	2
6人以上	15 7.9	16.2	23.71	1	100	10

18 34) 患者1人あたりのフォローアップ実施回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	535 100.0	5.3	15.85	0	200	1
3人未満	190 35.5	2.89	7.71	0	70	1
3人以上6人未満	234 43.7	5.81	15.51	0	180	1
6人以上	111 20.7	8.32	24.12	0	200	1

34) 患者1人あたりのフォローアップ実施回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	328 100.0	7.41	19.69	0	200	1
3人未満	74 22.6	5.2	11.48	0	70	1
3人以上6人未満	163 49.7	7.25	18.07	0	180	1
6人以上	91 27.7	9.48	26.41	0	200	1

34) 患者1人あたりのフォローアップ実施回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	207 100.0	1.95	4.06	0	32	1
3人未満	116 56.0	1.41	2.77	0	20	1
3人以上6人未満	71 34.3	2.52	5.32	0	32	1
6人以上	20 9.7	3.05	4.65	1	18	1

34) 患者1人あたりのフォローアップ実施回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定・健サボいざれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	189 100.0	1.97	4.21	0	32	1
3人未満	112 59.3	1.39	2.8	0	20	1
3人以上6人未満	62 32.8	2.61	5.61	0	32	1
6人以上	15 7.9	3.6	5.24	1	18	1

19 34) フィードバック回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	536 100.0	6.06	15.94	0	172	1
3人未満	190 35.4	4.62	16.05	0	160	1
3人以上6人未満	234 43.7	6.21	15.18	0	172	1
6人以上	112 20.9	8.19	17.02	0	100	1.5

34) フィードバック回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	329 100.0	8.12	16.78	0	172	2
3人未満	74 22.5	6.42	11.49	0	75	2
3人以上6人未満	163 49.5	8.09	17.7	0	172	2
6人以上	92 28.0	9.54	18.47	0	100	2

34) フィードバック回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	207 100.0	2.78	13.9	0	160	0
3人未満	116 56.0	3.47	18.29	0	160	0
3人以上6人未満	71 34.3	1.89	3.69	0	15	0
6人以上	20 9.7	1.95	2.16	0	10	1

34) フィードバック回数 (2021年12月～2022年2月の1か月あたりの平均)

認定・健サボいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	189 100.0	2.82	14.51	0	160	0
3人未満	112 59.3	3.56	18.61	0	160	0
3人以上6人未満	62 32.8	1.79	3.69	0	15	0
6人以上	15 7.9	1.53	1.2	0	5	1

20 38) 処方箋受付回数 0410対応 (2021年12月～2022年2月)

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	22.52	63.35	0	900	8
3人未満	190 35.0	11.59	31.75	0	360	4
3人以上6人未満	241 44.4	20.21	63.23	0	900	9
6人以上	112 20.6	46.04	91.51	0	484	14.5

38) 処方箋受付回数 0410対応 (2021年12月～2022年2月)

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	333 100.0	30.31	78.01	0	900	10
3人未満	74 22.2	18.2	47.44	0	360	6.5
3人以上6人未満	167 50.2	24.03	74.69	0	900	10
6人以上	92 27.6	51.45	97.23	0	484	15

38) 処方箋受付回数 0410対応 (2021年12月～2022年2月)

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	210 100.0	10.17	21.87	0	243	4
3人未満	116 55.2	7.37	13	0	100	3
3人以上6人未満	74 35.2	11.58	18.07	0	100	5
6人以上	20 9.5	21.2	51.55	0	243	8

38) 処方箋受付回数 0410対応 (2021年12月～2022年2月)

認定・健サボいざれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師 (休職中含む) 常勤+非常勤 (常勤換算)

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	192 100.0	9.96	22.59	0	243	4
3人未満	112 58.3	6.9	12.87	0	100	3
3人以上6人未満	65 33.9	12.26	18.9	0	100	5
6人以上	15 7.8	22.87	59.06	0	243	7

21 38) 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患者訪問も含む） 0410対応（2021年12月～2022年2月）

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	543 100.0	13.61	58.95	0	900	1
3人未満	190 35.0	3.59	8.51	0	65	0
3人以上6人未満	241 44.4	12.37	62	0	900	1
6人以上	112 20.6	33.28	88.83	0	484	5

38) 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患者訪問も含む） 0410対応（2021年12月～2022年2月）
認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	333 100.0	18.91	73.69	0	900	2
3人未満	74 22.2	4.2	10.69	0	65	0.5
3人以上6人未満	167 50.2	15.1	73.73	0	900	1
6人以上	92 27.6	37.65	95.62	0	484	5

38) 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患者訪問も含む） 0410対応（2021年12月～2022年2月）
認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	210 100.0	5.21	16.11	0	189	0
3人未満	116 55.2	3.2	6.75	0	35	0
3人以上6人未満	74 35.2	6.22	14.08	0	82	0
6人以上	20 9.5	13.15	40.48	0	189	4

38) 処方箋受付回数のうち電話や情報通信機器を用いた服薬指導回数（患者訪問も含む） 0410対応（2021年12月～2022年2月）
認定・健サボいざれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	192 100.0	5.21	16.71	0	189	0
3人未満	112 58.3	2.85	6.28	0	35	0
3人以上6人未満	65 33.9	6.8	14.88	0	82	1
6人以上	15 7.8	15.93	46.39	0	189	3

23 40) 災害に関して実施しているもの

1) 全体

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	てC務災 いP継害 る）続に を計備 作画え 成へた しB業	しのを災 い剤講関 る師し係 がたの 勤常研 務勤修	るきの自 め対治 をを応体 結等と んの災 でと害 いり時	に地 参域 加の し防 て災 い訓 練	そ の 他	の 実 は 施 な い て い る も
全 体	543 100.0	219 40.3	132 24.3	63 11.6	128 23.6	30 5.5	169 31.1
3人未満	190 100.0	50 26.3	39 20.5	20 10.5	45 23.7	12 6.3	81 42.6
3人以上6人未満	241 100.0	104 43.2	54 22.4	29 12.0	58 24.1	12 5.0	70 29.0
6人以上	112 100.0	65 58.0	39 34.8	14 12.5	25 22.3	6 5.4	18 16.1

40) 災害に関して実施しているもの

認定薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	てC務災 いP継害 る）続に を計備 作画え 成へた しB業	しのを災 い剤講関 る師し係 がたの 勤常研 務勤修	るきの自 め対治 をを応体 結等と んの災 でと害 いり時	に地 参域 加の し防 て災 い訓 練	そ の 他	の 実 は 施 な い て い る も
全 体	333 100.0	175 52.6	92 27.6	46 13.8	82 24.6	16 4.8	70 21.0
3人未満	74 100.0	32 43.2	16 21.6	9 12.2	18 24.3	5 6.8	19 25.7
3人以上6人未満	167 100.0	85 50.9	39 23.4	25 15.0	41 24.6	7 4.2	42 25.1
6人以上	92 100.0	58 63.0	37 40.2	12 13.0	23 25.0	4 4.3	9 9.8

40) 災害に関して実施しているもの

認定薬局ではない薬局

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	てC務災 いP継害 る）続に を計備 作画え 成へた しB業	しのを災 い剤講関 る師し係 がたの 勤常研 務勤修	るきの自 め対治 をを応体 結等と んの災 でと害 いり時	に地 参域 加の し防 て災 い訓 練	そ の 他	の 実 は 施 な い て い る も
全 体	210 100.0	44 21.0	40 19.0	17 8.1	46 21.9	14 6.7	99 47.1
3人未満	116 100.0	18 15.5	23 19.8	11 9.5	27 23.3	7 6.0	62 53.4
3人以上6人未満	74 100.0	19 25.7	15 20.3	4 5.4	17 23.0	5 6.8	28 37.8
6人以上	20 100.0	7 35.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	9 45.0

40) 災害に関して実施しているもの

認定・健サがいずれも無し

11) 当該店舗に勤務する薬剤師（休職中含む） 常勤＋非常勤（常勤換算）

	調査数	てC務災 いP継害 る）続に を計備 作画え 成へた しB業	しのを災 い剤講関 る師し係 がたの 勤常研 務勤修	るきの自 め対治 をを応体 結等と んの災 でと害 いり時	に地 参域 加の し防 て災 い訓 練	そ の 他	の 実 は 施 な い て い る も
全 体	192 100.0	36 18.8	36 18.8	14 7.3	43 22.4	13 6.8	93 48.4
3人未満	112 100.0	17 15.2	22 19.6	9 8.0	25 22.3	7 6.3	61 54.5
3人以上6人未満	65 100.0	15 23.1	13 20.0	4 6.2	16 24.6	5 7.7	24 36.9
6人以上	15 100.0	4 26.7	1 6.7	1 6.7	2 13.3	1 6.7	8 53.3

ヒアリング調査概要

1. 在宅クリニック

地域：愛知県内
 対応：医師 1 名、医学生（5 年）1 名、薬剤師 1 名、薬学生（5 年）1 名、看護師 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、セラピスト 1 名

- 連携を図る上で情報の共有が鍵となる。
 - ・処方変更理由が共有できれば、その都度確認しなくても各々で対応が可能になる。
 - ・ショートステイと入所では薬の飲ませ方も異なるため、情報の伝え方が重要であるが、情報共有の方法が未整備ではないか。
 - ・名古屋市では、「丸八ネットワーク」が利用可能であるが、情報セキュリティーの課題を解決する必要がある。
- 医療材料の供給体制を整える。
 - ・訪問時に必要性がありそうなものを都度携帯しているが、薬局で扱ってもらえるとありがたい。
- 薬剤師からの情報発信が必要
 - ・薬の管理や飲ませ方などは、薬剤師に相談できる状況があると助かる。
- 認定薬局の制度についての広報が不十分
 - ・地域連携薬局、専門医療機関連携薬局などの認定制度については、薬剤師以外の他職種で知っている、聞いたことあるといった人がいない。
 - ・医師、看護師からの緊急時の要請において薬局によって対応に差があるので、認定制度の活用が期待される。

2. 地域連携薬局 A

地域：大阪府内
 対応：管理薬剤師 1 名
 特徴：5 店舗のうち、本店（地域連携薬局、健康サポート薬局）のみ祖父母の代から引き継いで 3 代目（面分業）。他の 4 店舗は門前薬局。

1. 認定薬局について

- 本来の薬局のあり方について
 - ・昔から薬剤師、薬局は、「街の萬屋」であることに今も昔も変わりはない。分業制度が今の調剤薬局を作るきっかけになっている。
 - ・薬剤師は、もっとプライド（誇り）を持って、積極的にプロフェッショナルに医療に入り込んでいくべきである。
- 認定を受けた理由について
 - ・地区薬剤師会のととりまとめ役（副会長）として、現状を変え、また、意見するためには、まず自分から実践することをポリシーとしている。
 - ・認定を受けたことによる状況変化はまだ実感がない。

●施設基準を取得する上での問題点について

- ・本来、薬局であれば実施して当然のことであり、基準にすることに違和感はあるが、挙げるとすれば次のとおり。
 - ① 24 時間対応：労働基準法を逸脱していると感じるものの当然のこととして対応している
 - ② 薬局構造設備規則：時代のニーズに追いついていないのではないか
 - ③ 月 30 回以上のやりとり：根拠が不明である
 - ④ 無菌調剤設備：高度管理医療機器の認定は必要である

●連携について

1) 取り組んでいる連携事例

- ・勉強会の開催等で患者に関わる全ての関係者（医療、介護）とコミュニケーションをとること。
- ・特に抗がん剤のレジメンについて、病院の受付を通していたものを、直接 FAX で情報提供するなど、地元の病院との連携を図ることで、風通しを良くした。

2) 実施頻度の高い連携事例

- ・ケアマネ・介護・訪看との連絡、患者ニーズの発掘（介助を要するケース）、主治医への情報提供など

3) 必要だが難しい連携

- ・状況を変えるためにはコミュニケーションを取り続けることが必要だが、これが一番難しい。同じこと（研修会、診療報酬改定の勉強会、接遇など）を続けていくことで、底上げをすることが必要と感じる。

2. コロナ対応について

●コロナ関係連携

1) 取組

- ・症状の聞き取りから必要に応じた発熱外来への受診勧奨

2) 必要だが難しい連携

①検査後のフォローアップ

- ・気軽に受検できる裾野を広げるためには、店頭での PCR、抗原検査など（対応する人員不足）を実施（スクリーニング）できるようにすることは認めるが、現在の薬局構造設備規則では対応困難である。
- ・また、薬局では検査を行っても、医療機関等への繋がりが無い。例えば陽性者に対するその後のフォローに繋げることができない。
- ・制度が浸透していない状況にあるので、難しさを感じている。

②薬局での検査キットの販売、実施方法

- ・販売は必要だが、その場での検査実施については、薬剤師のみで実施するにはカウンテックも含め現状の薬局構造設備規則では困難と感じる。

●感染対策事例

- ・アクリル板の設置、アルコール消毒液の設置、水分補給、マスク着用など

●期待される・求められる役割

- ・予防医療の観点からは、ワクチン接種が薬局でできるようにする必要性を感じる。
- ・(既に、昨年 12 月に近畿大学で接種講習を受講済み) 薬局でのワクチン接種ができるようになれば、現状のワクチン接種率ももっと高まると感じるが、制度的には難しい。

3. その他の意見

- ・大学教育でもっと臨床に関することを取り入れるなど、大学教育から変えていくべき。
- ・6年制教育を受けた薬剤師は、状況変化に対応できる素養を持っていると感じる。薬剤師はおもしろいと感じてもらいたい。
- ・薬剤師、薬局に課せられている役割と対価のバランスが合っていない。
- ・薬局の評価制度を取り入れると良い。

3. 地域連携薬局 B

地域：埼玉県内
 対応：管理薬剤師 1 名
 特徴：大手グループ薬局の 1 薬局（地域連携薬局、健康サポート薬局）。50～60 人の個人在宅医療を実践。新型コロナ感染拡大防止のために医療用抗原検査キットも販売・検査を実施。OTC 医薬品、衛生用品など、100 品目程度を取り扱っている。

1. 認定薬局について

●本来の薬局のあり方について

- ・社会の変化に柔軟に対応していく必要と在宅医療がさらに進展する必要があるが、薬剤師の専門性を高めるために個々の努力が必要。
- ・処方箋調剤だけでなく、地域の健康をサポートする役割がある。

●認定を受けた理由について

- ・在宅医療に関わっており、多職種と連携する機会が多い薬局であった。
- ・認定要件を確認したときに、全てできているものばかりであり、取り組んできたことは間違っていなかったと感じた。

●施設基準を取得する上での問題点について

- ・医療機関等へ情報提供する際に、情報を共有する方法が電話、紙ベースで手間がかかる。
- ・SNS などのオンライン機能を活用するなど、もっと効率的、効果的な方法を取り入れることができれば良いと感じる。

●連携について

1) 取り組んでいる連携

- ・薬局連携：薬局間での医薬品の分譲、患者情報（副作用、アレルギーなど）の提供、麻薬の分譲、施設内の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修、休日夜間・24 時間対応などで、特に周囲に無菌製剤が可能な施設が少なく、無菌製剤に係る依頼が多い。
- ・病院連携：患者入退院時の情報共有、服薬情報提供書（トレーシングレポート）等による情報提供、在宅医療が必要な患者の受入、受診が必要な患者を病院・診療所に紹介、化学療法（レジメン）の情報共有などがあるが、入退院に関する情報共有が充分でないと感じる。退院時共同指導も対面での実施がほとんどで、参加できないことも少なくない。

- ・行政等の連携：健康に関するイベントへの参加
- ・地域連携：地域ケア会議への参加、サービス担当者会議、退院時カンファレンス、地域での健康イベントへの参加、介護支援専門員（ケアマネージャー）との情報共有、要指導薬・一般用医薬品の販売、介護用品の販売、町内会への加入、訪問看護ステーション・在宅クリニックとの情報共有などがあるが、薬剤師会、医師会レベルでの連携については認知していない。

2) 実施頻度の高い連携事例

- ・薬局間での医薬品の分譲
- ・在宅医療が必要な患者の受入（新規受け入れ月平均6人）を行い、在宅訪問したらまずバイタルチェックを実施するようにしている。
- ・介護支援専門員（ケアマネージャー）との情報共有、訪問看護ステーション・在宅クリニックとの情報共有

3) 必要だが難しい連携

- ・病院との連携（特に、患者の入院時の情報提供が薬局にないため、進捗がフォローできないため、情報共有できるネットワーク、システム構築があると良い。）
- ・直接医師に連絡すること。疑義照会に関しても、事務員や看護師が間に入ることが多くスムーズにいかないことがある。

2. コロナ対応について

●コロナ関係連携

1) 取組

- ・発熱外来受診患者の受入を医師会に表明している。
- ・患者が来局時は、車越しに対応。
- ・薬局連携：感染者の情報共有、陽性者又は濃厚接触者の情報共有、感染者に対する調剤の協力、陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力
- ・病院連携：感染者の入退院時の情報共有
- ・行政等の連携：感染対策に関する会議への参加、ワクチン接種への協力（薬液調製、配達等）、検査事業（無料検査キットの配布等）への参加、パンデミック時の医薬品備蓄への協力
- ・地域連携：自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導）、ワクチン接種に関する相談応需

2) 実施頻度の高い連携事例

- ・感染者に対する調剤の協力
- ・陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力
- ・ワクチン接種への協力（薬液調製、配達等）
- ・検査事業（無料検査キットの配布等）への参加
- ・自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導）

3) 必要だが難しい連携

- ・感染者に対する保健所との連携（医薬品等の供給、健康チェック等）
- ・新型コロナウイルス感染症に関するイベントへの参加
- ・1月から抗原検査、PCR検査の無料化事業をスタートしたが、本来なら毎日実施したい

ところであるが、スタッフに日常業務の中でさらに本事業に取り組むための余裕がなかった。そこで、木曜日の午後休を利用して実施することとした。(40人*/3か月)

※イベント参加前の陰性証明、社内で陽性者が出て不安などの受検理由が殆ど。これまでで、1名のみ陽性確認され、県に報告、病院にてPCR検査実施。その後のフォローはない。

●感染対策事例

- ・窓口に飛沫防止シート等の設置、待合スペースでの密をさけるための設備空気清浄機の設置、出入口に消毒薬の設置感染者の隔離スペース、薬局の外で待機してもらい対応する、自宅等への配達対応を行う、オンラインで服薬指導する、処方されたお薬を配達する、PCR・抗原検査の取り扱いに関する研修、検査結果に基づく指導に関する研修など。
- ・ラゲブリオは自薬局で備蓄し必要に応じて供給している。
- ・パキロビッドは対応する旨を県には伝達済み。

●期待される・求められる役割

- ・薬局によって新型コロナウイルス関連は受け付けられないということで来局されるケースがある。発熱外来・濃厚接触者・陽性者への対応は大変だが医療人として取り組まなくてはいけないと思う。
- ・予防、未病の観点からも、薬局でワクチンが接種できるように取り組むことが必要と感じる。
- ・情報は待っていては集まらない。自分から行政や医療機関に働きかけないと情報は得られない。

3. その他の意見

- ・現薬局に着任して3年目となるが、前任の教え「依頼は断らない」をモットーに取り組んでいたら、今のように在宅クリニックからの依頼が増え、個人在宅患者が50~60人になった。信頼関係を構築するためには、依頼を断らないことから始まる。
- ・新型コロナウイルスに関する対応については、社内でのマニュアルが整備されており、主にそこから情報を得る。

4. 地域連携薬局C

地域：神奈川県内
対応：管理薬剤師1名
特徴：個人薬局（地域連携薬局、健康サポート薬局）。処方箋50~60枚/日。OTC300品目程度、衛生材料100品目程度を扱う。在宅患者30名を受け持つ。

1. 認定薬局について

●本来の薬局のあり方について

- ・目指すものはすべての薬局が同じであるが、特に地域連携薬局は地域住民が薬局を選ぶ指標の一つとなるものなので、すべての医薬品が提供できる体制を整えておくべきだと考えている。すべての医薬品とは、医療用医薬品のみならず一般用医薬品等および感染対策に必要なアイテムも含むべきである。
- ・すなわち、昨今の新型コロナウイルス感染症に対しては特に経口治療薬や抗原定性検査キットの取り扱いも率先して担うべきである。

・それらを踏まえ、地域住民が頼れる薬局であり、その薬剤師は地域住民に寄り添って存在していなくてはならないと思う。

●認定を受けた理由について

- ・認定要件を目指したことはなく、従前までの日ごろの業務（本来の薬局の機能）が認定要件に合致していたことが最大の理由。
- ・さらに、薬局がある地域住民に対して、さらには従事する薬剤師にも対して示す覚悟の表現の一つだと感じたことによる。
- ・認定を取得したことで、薬剤師の意識は高まった。

●施設基準を取得する上での問題点について

- ・薬局のための認定薬局であってはならない。

●連携について

1) 取り組んでいる連携

- ・薬局間での医薬品の分譲（従前より頻度高く実施）
- ・患者情報（副作用、アレルギーなど）の提供（薬局間での求められた、求めた実績はないが、医療機関との情報共有は以前から実施）
- ・施設内の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修（症例検討、地域包括ケアシステムにかかる研修を実施）
- ・服薬情報提供書（トレーシングレポート）等による情報提供（従前より実施）
- ・在宅医療が必要な患者の受入
- ・在宅医療が必要と思われる患者を医療機関に紹介（かかりつけ医が在宅に消極的な患者の場合でも、なるべくかかりつけ医が訪問診療を担うように提案）
- ・受診が必要な患者を病院、診療所に紹介（健康サポート薬局としての立ち位置から、日常的に実施）

2) 事例が殆どないか、実績のない連携

- ・化学療法（レジメン）の情報共有
- ・抗がん剤治療の副作用発生時の対応に関するプロトコルの共有
- ・休日、夜間等で調剤が不可能な場合に、調剤可能な薬局を紹介
- ・無菌製剤処理実施における連携（共同利用等）
- ・麻薬の分譲
- ・施設内の薬剤師が、地域の他の薬局の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修

3) 実施頻度の高い連携

- ・休日における新型コロナウイルス感染症自宅療養者への薬剤供給について、他薬局から連携を要請されて患者への医薬品供給が高頻度になっている

4) 必要だが難しい連携

- ・麻薬譲渡は事前の届け出が必要なもので用事に迅速な対応は難しい
- ・薬局間の患者情報の共有は事例が極めて少ないと思う。そもそも一元的管理を行っている患者には当てはまらない。

2. コロナ対応について

●コロナ関係連携

1) 取組

- ・感染者、陽性者又は濃厚接触者の地域における数的な情報共有
- ・感染者、陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力、医薬品の分譲（流通が限られたステロイドなどについて小分け対応は行ったが、調剤行為そのものの協力は行っていない）
- ・陽性者又は濃厚接触等の患者の紹介及び情報提供（対応医療機関への紹介は医師会との協働により迅速に実施）
- ・在宅患者の感染対策等に関する情報提供（対在宅患者という面では、消毒用アルコールなどの配置を切らさないように手配し、そのことを医療機関との連携という意味では「訪問薬剤管理指導報告書」の報告事項として共有）
- ・感染対策に関する会議への参加（地域連携薬局であるからではなく、薬剤師会のメンバーとして市や医師会との会議に多く参加した）
- ・ワクチン接種への協力（薬液調製、配達等）（認定薬局であることではなく、集団接種会場における調製業務には積極的に協力 ⇒ 水、木、土、日の集団接種に3人/会場（×6会場）で実施）
- ・検査事業（無料検査キットの配布等）への参加（検査無料化事業は初日から稼働。これまで数百の検査を実施し、数名の陽性を確認。陽性者には手順に従って対応）
- ・パンデミック時の医薬品備蓄への協力（ラゲブリオ、パキロビットパックの取り扱い、供給を担う薬局として備蓄）

2) 事例が殆どないか、実績のない連携

- ・感染者の情報共有（地域による数的な情報共有はあるが感染者個人についての情報は共有していない）
- ・感染者の入退院時の情報共有
- ・感染防止に関する協議
- ・感染者に対する保健所との連携（医薬品等の供給、健康チェック等）として陽性者のその後の情報提供はなかった
- ・新型コロナウイルス感染症に関するイベントへの参加

3) 実施頻度の高い連携事例

- ・医師会が主体となっている発熱患者往診チームへの対応として、薬剤師会が整備した対応薬局チームの患者推移等についての連携が多かった。

4) 必要だが難しい連携

- ・患者所在地などの個人情報共有については繊細な判断が必要なのであまり積極的には行えない
- ・地域の感染状況の把握及び情報共有（サーベイランス等）については、情報が保健所と市役所の情報共有がなされていないために地域薬剤師会も正確な情報を入手することは困難
- ・行政との連携は、薬局個々では困難であり、薬剤師会が担うべきである。

●感染対策事例

- ・来局者にワクチンの有効性を解説
- ・問診表記入のサポート
- ・消毒用アルコールをはじめとする感染症対策商品の販売
- ・投薬カウンターにアクリル板を設置
- ・空気清浄機の導入
- ・入口に手指消毒器を導入
- ・薬剤の配送
- ・PCR、抗原検査の取り扱いに関する研修

- ・検査結果に基づく指導に関する研修
- ・ワクチンに関する研修
- ・陽性患者に対して、医療機関からの情報に基づき自宅まで医薬品を供給する。

●期待される・求められる役割

- ・地域住民の感染予防及び早期回復に対して、可能なことはすべてやること。
- ・やるべきことをすべてやるのが「求められる役割」だと思う。
- ・薬局で検査キット（抗原検査、PCR 検査）を販売、実施する必要性は極めて重要と思う。
- ・ワクチンに関しては、薬剤師も注射を接種できるようになることが全てではなく、点鼻のワクチンも開発が進んでいるため、予防、未病の観点から補助行為として関わることができれば良いのではないかと。

3. その他の意見

- ・コロナ禍を経験したことにより、薬局間の団結が強くなった。
- ・行政や団体との連携は、個々の薬局が対応するのではなく、薬剤師会が担うべき。
- ・地域連携薬局の認定を受けている薬局ならば、地域でもとめられる連携に対応する能力は十分にあると思うが、やるかどうかは薬局、薬剤師次第である。
- ・認定薬局に対する住民の認知度は低い、長期的にみれば住民が薬局を選ぶ指標になり得る。
- ・住民への広報は市町村が行うべきであるが、認定は県なので難しい

5. 専門医療機関連携薬局 A

地域：長野県内
 対応：前管理薬剤師 1 名
 特徴：会営の薬局（地域連携薬局、健康サポート薬局）。処方箋 120～130 枚／日、外来ケモ患者処方箋 10 枚以上／日、在宅医療 205 件／年（10 人程度／月）、地域薬学ケア専門薬剤師*1 名勤務。

1. 認定薬局について

●本来の薬局のあり方について

- ・マイナンバーカード等の IT 活用での情報共有を見据え、薬局がハブとなり、他施設と連携を図っていくためには情報を活かすための薬剤師の力量が必要。
- ・医療が必要となる段階の前から、地域住民の健康管理に関わるための長い視点が必要。
- ・薬局機能をもって、ある程度のスパンで患者に関わっていくことができる薬局となるべき。
- ・業務が多忙ななか、薬剤師がしなければいけない業務とそうでない業務を選別し、より対人業務にシフトすべきである。

●認定を受けた理由について

- ・従前よりがん化学療法の処方箋を多数（10 枚以上／日）応需していたので認定の取得は当然であること、「薬局の業務の質を上げる」ために、その一つの手段として取得した。
- ・薬局が県薬剤師会の会営という性質上、他の薬局の模範たる薬局であるべきという基本的な考え方のもとに業務を行っている。
- ・（人を観る力が低下している中で）認定を取得することで、関わり方が一層深くなった。

●施設基準を取得する上での問題点について

- ・認定要件のひとつである地域薬学ケア専門薬剤師の取得は、時間的にも、内容的にも厳しいものである。どの薬局も出来るものでなく、継続も負担である。(特に薬剤師が学会やカンファレンスに参加する場合、その時間を誰かが補填するなどの支援が必要。)
- ・定期的に薬局の職員が病院に行く利点は情報共有のためにも価値があると大きく感じている。
- ・受け入れ側の病院も、研修に対してモデルがあるわけではなく、現状カンファレンスへの参加にとどまっている感じがある。研修のイメージがつかめないため、研修プログラムやカリキュラムなど具体的にどのようなことを研修するのか示してほしい。

●連携について

1) 取り組んでいる連携

- ・薬局間での医薬品の分譲
 - ・患者情報の提供
 - ・無菌製剤処理実施における連携
 - ・施設内の薬剤師に対する研修
 - ・施設内の薬剤師が、地域の他の薬局の薬剤師に研修
 - ・患者入退院時の情報提供
 - ・トレーシングレポートによる情報提供
 - ・在宅医療が必要な患者の受入
 - ・受診が必要な患者の紹介
 - ・医療機関との間で勉強会
 - ・化学療法レジメン情報共有
 - ・健康に関するイベントへの参加
 - ・災害時の医薬品の供給
 - ・地域ケア会議への参加
 - ・サービス担当者会議
 - ・自薬局での健康イベント開催
 - ・がん検診啓発活動
 - ・ケアマネジャーとの情報共有
 - ・要指導薬・一般用医薬品の販売(衛生材料も含め 300 品目程度)
 - ・町内会への加入
- ・地域ケア会議の参加については、地区ごとにリーダー薬局が決められているため、参画しやすい状況にある。
- ・サービス担当者会議については、在宅業務の流れのなかで自然に行っている。
- ・また、情報共有に関しては、病院では iPad を活用した情報共有システムに参加しており、スムーズに行うことができている。

2) 実施頻度の高い連携

- ・薬局間での医薬品の分譲(会営という性質上医薬品零売の拠点、年 4500 件程度)
 - ・服薬情報提供書(トレーシングレポート)による情報提供(年 380 回程度)
- ・認定を取得していないその他の薬局に対する分譲の請求書を送付する際に、DI 担当薬剤師が中心となって作成した DI 誌を添えて情報提供を実施するなどを実践している。

3) 必要だが難しい連携

- ・現在癌患者を中心に情報提供を行っているが、それ以外の疾患の患者に対しても、同様に密に連携を図っていきたいが、全てを実施するには人員的にも時間的にも厳しい。
- ・門前の病院以外の施設特に開業医の先生方にかかっている患者さんに関しての情報共有が困難(医療機関側にそのような体制がない)

2. コロナ対応について

●コロナ関係連携

1) 取組

- ・感染者に対する調剤の協力
- ・陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力

- ・ワクチン接種への協力（薬液調製）
- ・検査事業への参加
- ・自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導）

2) 実施頻度の高い連携事例

- ・ワクチン接種への協力
- ・自己検査キットによる検査の支援（手順に則り実施）
- ・陽性者には、まず①かかりつけ医へ、ない場合は②保健所相談へ、繋がらない場合は③医療機関（開業医）を登録リストで紹介する。これまでの実施した件数のうち、1名だけ陽性者がいた。

3) 必要だが難しい連携

①抗原検査

- ・自己検査キットによる検査の支援を多数（1000件程度にのぼる）行っているが業務への影響が厳しい。
- ・土日祝なども対応できればよいと思うが、必要な人員が不足している。
- ・検査は、薬局の外で実施している。（ドライブスルー方式）
- ・また、検査キットが不足し、検査のニーズに応ずることが出来ない期間があった。
- ・検査時は陰性で、夜になって症状がでて陽性となったケースもあるので、限界はある。
- ・薬剤師が関わらない、一般での検査については、検査手技も含めどの程度意味があるのか疑問が残る。

②行政との連携

- ・保健所業務などがひっ迫して、薬局として何かできることはないかと感じたが、保健所側のニーズを把握することが出来なかった。
- ・保健所が逼迫している状況下で、薬局の検査がどの程度役立っているのか疑問もある。

●感染対策事例

- ・窓口飛沫防止シート設置　・待合室・調剤室空気清浄機の設置
- ・出入口に消毒薬の設置　・感染者は薬局の外で待機してもらい対応
- ・自宅療養者への薬の配達　・抗原検査の取り扱いに関する研修
- ・検査結果に基づく指導に関する研修
- ・ラゲブリオの備蓄
- ・カウンターでのアクリル板設置、マスク着用は定着しているが、声の聴き取り難さがある。

●期待される・求められる役割

- ・薬局間、病院・診療所、行政・団体、地域との連携は重要であるものの、まだまだ充実しているとは実感していない。
- ・どのシーンにおいても医薬品の供給は薬剤師の責務である。
- ・感染者に対しても同様に、医薬品の供給を行うべきと考える。
- ・コロナの検査は、業務的には大変であったが、気軽に検査できる拠点の一環として、薬局の役割が果たせたのではないと思う。薬局でも手を挙げるところが少ないため、もう少し薬剤師としての覚悟、責任を意識する必要がある。
- ・もっと、医療に関わる専門職として（患者に関わる者として）、薬剤師自身が覚悟、責任を持って行動する必要がある。そのためにも研鑽は不可欠。
- ・しかし、現状求められることが多く、結果として多忙になり、ワークライフバランスが崩れないようにすることも必要。

3. その他の意見

- ・病院・診療所との連携は、国の調剤報酬による誘導もあり、ようやく緒についたという感じがしている。開局の薬剤師がどう応えられるのか、これからの動きに期待したい。
- ・一方、コロナ禍で患者からワクチンに関する相談もあり、薬局の使い方も変化したように感じるが、認定薬局について患者や来局者の認知度は低い。(殆ど知られていない。)
- ・制度として実施している認定薬局など、もっと国民に対する広報活動を積極的に行っていくことが必要。
- ・認定薬局を取得したことで、医療機関との情報提供に関する連携ハードルは下がったが、医師には薬のことはもっと薬剤師に頼って欲しい。

6. 専門医療機関連携薬局 B

地域：東京都 23 区内 対応：管理薬剤師 1 名 特徴：大手グループ薬局の 1 薬局（大学病院の門前。地域連携薬局、健康サポート薬局）。 処方箋枚数 240～260 枚／日、OTC49 品目、衛生材料 10 品目程度。在宅患者（個人 15～18 人、施設 100 人）
--

1. 認定薬局について

●本来の薬局のあり方について

- ・がん治療においては、外来ケモによる治療が進んでおり、抗がん剤の副作用や、在宅期間中に受診が必要となる患者も少なくない。
- ・薬局では、在宅療養中のモニタリングがもためられており、処方箋と患者からのヒアリングだけでは判断しきれないケースもあり、入院から在宅まで病院と薬局間で情報共有を効率的にできるシステムや体制づくりが進むことが必要。
- ・理由としては、専門薬剤師の暫定認定を受けており、病院へのカンファレンスに 2 回／月参加しているが、処方箋とヒアリングだけでは判断出来ないことがあるので、入院から在宅まで病院と薬局間で情報共有を効率的にできるシステムや体制づくりが進むことが必要。

トレーシングレポートを出しているため、対象患者について病院と薬局でのカンファレンスを実施している。

- ・薬局は、患者の生活状況、他科受診の状況など把握しており提供している
- ・認定を習得したことで、理解がふかまり仕事がやりやすくなった。

●認定を受けた理由について

- ・当店では、主に地域がん診療連携拠点病院（高度型）である近隣の大学医学部附属病院の処方箋を応需しており、抗がん剤などの高度な医療を必要とする患者が多く利用している。
- ・患者からも近隣の医療機関等からも求められる機能であると考え、専門医療機関連携薬局及び地域連携薬局の認定を取得。健康サポート薬局の届出も行っている。

●施設基準を取得する上での問題点について

① 情報共有

- ・専門医療機関連携薬局の基準として薬局を利用するがん患者の半数に対する医療機関への情報提供が求められており大変だが当店は、年間約 1000 人のがん患者の利用があり、半数以上の方に対する情報提供（トレーシングレポート）を実施した。

- ・情報提供には双方の認識に相違があると適切な対応ができないが、認定を受けたことでトレーシングレポートを介した病院との連携が取りやすくなった。

② 取得要件のハードルが高い

- ・専門医療機関連携薬局の基準として専門薬剤師の在籍が求められている。
- ・地域薬学ケア専門薬剤師（がん）と外来がん治療専門薬剤師が専門薬剤師としてあげられるが、習得のためには病院での実習が必要。スケジュールや費用面から考えると会社のサポートが必要であり個人で目指すにはハードルが高い。
- ・また、専門薬剤師が在籍したとしても多くの患者に対応するには薬局で働くすべての薬剤師の技能が必要になる。専門薬剤師が資格を習得したその先を考えて行動することが重要。
- ・専門薬剤師が資格を習得した薬剤師から、その他薬剤師への伝達するために月 2 回の研修会を実施している。

③ 制度の広報不足

- ・認定薬局は患者が自身に適した薬局を選択することを目的として設けられた認定である。
- ・しかし世間の認知は不十分であり、認定を受けている薬局もまだまだ多くはない。
- ・認定制度が社会に浸透し、今後の薬局のあるべき姿を理解し認定を目指す薬局が増えることで、調剤薬局業界全体の役割が浸透していくのではないかと。
- ・認定薬局の名称は専門用語のようなもので覚えてもらうのが目的ではなく、薬局の役割、機能をもっとアピールする必要がある。その先に住民や患者から選ばれる薬局を目指すべき。
- ・今後、認定制度は患者が薬局を選ぶ際の指標になり得るが、基準薬局制度と同様にすべての薬局がその機能をもつことで、その意味がなくなると良い。

●連携について

1) 取り組んでいる連携事例

①薬局間の具体的な連携について

- ・薬局間での医薬品の分譲
- ・患者情報（副作用、アレルギーなど）の提供
- ・休日、夜間等で調剤が不可能な場合に、調剤可能な薬局を紹介
- ・無菌製剤処理実施における連携（共同利用等）（施設のない薬局との連携で、免疫抑制剤の粉碎を実施したことがある）
- ・施設内の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修
- ・施設内の薬剤師が、地域の他の薬局の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修

②病院、診療所等との具体的な連携について

- ・患者入退院時の情報共有
- ・服薬情報提供書（トレーシングレポート）等による情報提供（2回/月、病院と薬局のカンファランス実施でさらに共有可能）
- ・在宅医療が必要な患者の受入
- ・在宅医療が必要と思われる患者を医療機関に紹介
- ・受診が必要な患者を病院、診療所に紹介
- ・医療機関との間で勉強会・研修会
- ・化学療法（レジメン）の情報共有（病院の化学療法室の薬剤師が関わった患者はお薬手帳に副作用チェック情報が入る）
- ・抗がん剤治療の副作用発生時の対応に関するプロトコルの共有
- ・災害時の医薬品等の供給
- ・サービス担当者会議

- ・退院時カンファレンス
- ・自薬局での健康イベント開催（健康サポート薬局機能を兼ねる）
- ・地域での健康イベントへの参加
- ・がん検診に関する啓発活動（健康サポート機能として、1回/月イベント実施。10月はピンクリボンの啓発を実施）（健康サポート薬局機能を兼ねる）
- ・地域包括支援センターとの情報共有（在宅業務を通じた共有）
- ・介護支援専門員（ケアマネージャー）との情報共有（在宅業務を通じた共有）
- ・要指導薬・一般用医薬品の販売
- ・がん患者に関する医療機関との共同カンファレンス
- ・在宅をメインとする医療機関への訪問
- ・コロナ禍で、地域ケア会議には参加しなくなった。呼ばれなくなった。

2) 実施頻度の高い連携事例

- ・薬局間での医薬品の分譲
- ・休日、夜間等で調剤が不可能な場合に、調剤可能な薬局を紹介・受入
- ・服薬情報提供書（トレーシングレポート）等による情報提供
- ・がん患者に関する医療機関との共同カンファレンス（2回/月）
- ・医療機関との間で勉強会・研修会
- ・化学療法（レジメン）の情報共有（病院の化学療法室の薬剤師が関わった患者はお薬手帳に副作用チェック情報が入る）
- ・施設内の薬剤師に対する調剤及び指導に関する研修
- ・在宅医療が必要な患者の受入
- ・自薬局での健康イベント開催（管理栄養士も在籍）
- ・要指導役・一般用医薬品の販売（登録販売者も在籍）

3) 必要だが難しい連携

- ・かかりつけ医やかかりつけ薬局との連携。病院毎に薬局を分けて利用している患者が少ない。複数の病院や薬局での連携を目指す必要がある。
- ・情報の共有

2. コロナ対応について

●コロナ関係連携取組

- ・感染者に対する調剤の協力（自宅へのお届け、配送、週数回）
- ・陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力
- ・感染者への調剤における医薬品の分譲その他
- ・在宅患者の感染対策等に関する情報提供
- ・感染防止に関する協議
- ・感染者に対する保健所との連携（医薬品等の供給、健康チェック等）
- ・検査事業（無料検査キットの配布等）への参加
- ・パンデミック時の医薬品備蓄への協力
- ・自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導）
- ・ワクチン接種に関する相談応需

●実施頻度の高い連携事例

- ・感染者に対する調剤の協力
- ・陽性者又は濃厚接触者に対する調剤の協力
- ・在宅患者の感染対策等に関する情報提供

- ・自己検査キットによる検査の支援（検査の実施と結果に基づく指導。4月末より始めこれまで10名程度実施。）
- ・ワクチン接種に関する相談応需（副作用情報などは、メーカーに問い合わせることが多い）

●必要だが難しい連携

- ・ワクチン接種に関する啓発活動（ワクチン接種することで感染による重症化を防ぐことはできるが副作用を考えると疾患や体力的に接種することが難しいケースがある）

●感染対策事例

- ・窓口に飛沫防止シート等の設置
- ・待合スペースでの密をさけるための設備空気清浄機の設置
- ・出入口に消毒薬の設置
- ・感染者の隔離スペースの確保
- ・自宅等への配達対応を行う
- ・オンライン服薬指導の活用
- ・新型コロナウイルスに関する研修
- ・PCR、抗原検査の取り扱いに関する研修
- ・検査結果に基づく指導に関する研修
- ・ワクチンに関する研修
- ・感染予防対策に関する研修
- ・新型コロナウイルス感染症の経口治療薬（ラグブリオ）を自薬局で備蓄し、必要に応じて供給

●期待される・求められる役割

- ・患者の生活に合わせた感染対策を提案する
- ・感染が疑わしい際の対応について案内する
- ・ワクチンによる副反応に対する対応について説明する
- ・コロナ禍での制約はあるものの、地域住民や患者のニーズに合わせてサポートしていく必要がある。
- ・薬局は患者の生活に近い存在として、患者（住民）個々にあった定説な情報を提供指導することが重要である。

3. その他の意見

- ・検査キットが身近なものとなるため販売は積極的に行うべき。また、検査結果が陽性だった場合の対応についても説明することが重要。
- ・検査可能な機関を増やしていく必要がある。
- ・体調不良者（有症者）から検査を受検したいといった問い合わせが多く、本来の薬局での実施目的が理解されていない印象がある。
- ・症状があるため検査で確認したいというのではなく、国民が目的に合わせて検査施設を正しく選択するためにも検査施設を増やすことが重要と考える。
- ・高齢者の増加に伴った医療従事者不足の観点から、薬局と医療機関や地域との連携は重要視していくべき点である。
- ・医療機関との連携については、医療機関や地域がそれぞれの役割やできることを考え、医療機関と薬局双方が尊重し協力、歩み寄りがあって成り立つ。